

## 巻 頭 言

病院長 奥村 伸二



2018年度の耳原総合病院の活動報告書が完成しましたので、日ごろお世話になっている方々に送らせていただけることを改めて感謝いたします。今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

早いもので、新病院での診療も丸4年間が経過しました。おかげさまで入院患者数も伸び2018年度は年間を通じてベッドの稼働率(退院患者を含む)が98.1%となり、日々のベッドコントロールに四苦八苦してまいりましたが、何とかベッド満床の状態でも救急車は断らずお受けできたのは、地域の病院様との病・病連携のたまものだと改めて感謝申し上げます。

7月からは地域支援病院というポジショニングを鮮明にするためにも、総合入院体制加算を取得いたしました。それまでは紹介状なしの飛び込みによる専門科の受診をお受けしていたのですが、7月からは救急搬送などの特殊な状況を除いては、原則的には紹介状がなければ診療をお受けできないということにさせていただきました。地域の診療所や開業医の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりますが、地域での役割分担ということでご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、今後断らないERをはじめ、地域支援病院としての役割を意識した取り組みに邁進してまいります。

2018年度は病院評価機構による第三者評価の再受験の年でありました。前はS評価が0項目でB評価が19項目あったので、何とかスタンダード以上の取り組みができるようにと考えて5年間取り組んできましたが、その努力の結果、S評価が11項目、B項目が2項目と大変高い評価をいただきました。この評価に恥じないような活動を続けてまいります。そして、B項目2項目については改善するようにすでに動いております。

当院では私が病院長になってから約8年間「異文化コミュニケーションカンファレンス」と称して、医療界以外で活躍されている方々に講演やパフォーマンスを行っていただいております。(年間約7～8組)今年度も多くの方に講演やパフォーマンスを披露していただきました。急性期病院で日ごとに在院日数が減少していく中、ただでさえ患者さんやそのご家族と病気以外での会話がなくなりつつあります。そんな中、我々医療人が医療のこと以外に興味を持ち、その分野で活躍されている方々の姿を見ることでたくさんの気づきをいただくことは大変有意義であると考えています。その気づきを日々の診療に大いに役立たせていただいています。皆様方におかれましても、お時間が許すときは当院の医療セミナーと同様に異文化コミュニケーションカンファレンスにも足を運んでいただければ幸いです。

最後に2018年度より、無料低額診療をより幅広く訴える取り組みを始めています。生活保護はいろいろな事情で受給できない、生活保護費の150%未満の収入世帯の方へ実施しております。それらの方の審査書類に目を通していますが、全く普通の方々が病気になると本当に大変になるのだな—という実感です。きわめて脆弱なセーフティーネットしか我々の国は持っていないことをあらためて実感させられます。そしてそれを変えることができるのも我々なんだと改めて強く感じました。

# 目次

巻頭言	病院長 奥村伸二
沿革と年譜	1
病院の現況(病院の概要・指定医療機関・実施医療機関・救急医療・学会認定・施設基準等)	4
理念、綱領、基本方針	8
組織図	11
職員配置表(職種別人数)	12
職員用デジタルサイネージでふりかえる2018年度	13
————— 医療活動報告 —————	
年度別診療科別入院患者数	16
月別入院患者数(診療科別)	17
月別入院患者数(病棟別)	18
外来患者数	19
退院患者統計	20
Q I データ	22
救急搬送データ	26
————— 部門別活動状況 —————	
手術室(科別手術数)	28
手術室(各科術式別手術数)	30
内視鏡検査室	36
薬剤科	37
臨床検査科・病理科	38
放射線科	39
循環器内科	40
臨床工学科	41
リハビリテーション科	43
栄養管理科	44
サポートセンター(患者様相談室)	45
サポートセンター(医療福祉相談室)	45
サポートセンター(地域連携室)	48
組織健診科	53
感染制御室	55
————— 各科活動報告 —————	
集中治療科	58
総合診療センター	58
循環器センター	59
消化器センター	60
腎・透析センター	62
糖尿内分泌科	63
呼吸器内科	63
呼吸器外科	64
チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(小児科)	64
チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(産婦人科)	65
泌尿器科	66
整形外科	66

心臓血管外科	67
脳神経外科	67
リハビリテーション科	68
緩和ケア外科	69
精神科	70
麻酔科	70
病理診断科	71
放射線科	72
歯科口腔外科	72

————— 各委員会活動 —————

倫理委員会	74
安全衛生委員会	74
医療安全対策委員会	75
災害対策委員会	77
入院医療標準化委員会	77
クリティカルパス委員会	78
褥瘡対策委員会	78
NST・給食委員会	79
呼吸ケア委員会	80
輸血療法委員会	81
診療情報委員会	81
外来診療委員会	82
コーディング委員会	83
高齢者医療対策推進委員会	84
がん診療推進委員会	85
HPH委員会	86
医療材料委員会	86
教育学習委員会	87
CS・ES委員会	87
学術委員会	88
院内アート委員会	88
拡大CS委員会	89
治験審査委員会	89
教育・研修活動	90
研究実績	94
発行にあたって	

## 沿革と年譜

- 1953年11月 耳原病院開設(病床数54床…内、児、外、婦、X線)
- 1955年 7月 第一病棟増設(病床数117床)
- 1956年 3月 皮膚科、泌尿器科新設
- 1957年 4月 眼科新設
- 9月 第二病棟増設(病床数211床)
- 11月 耳鼻咽喉科新設
- 1958年11月 医療法人同仁会(財団)設立
- 1959年 2月 整形外科新設
- 1960年 5月 鳳診療所開設(内、児、外)
- 9月 麻酔科新設
- 1962年11月 鳳診療所を病院化、鳳分院開設(病床数38床…内、児、外、X線)
- 1963年 9月 原爆一般疾病指定
- 1965年 2月 総合病院として認可
- 1971年 7月 精神神経科新設
- 1974年 3月 日常医療点検総括会議
- 7月 耳原総合病院竣工(地下1階地上6階、病床数193床)
- 12月 手術棟改造(病床数213床)
- 1975年 3月 泉州高等看護学院開校
- 12月 管理棟完成
- 1976年 8月 旧第二病棟改造(病床数245床)
- 9月 同仁会職員互助会発足／同仁会第2次5カ年計画発表
- 10月 脳神経外科新設
- 12月 神経内科新設
- 1977年 5月 コンピューター導入
- 1978年 6月 CT、シネアンギオ棟完成、同2階に10床増設(ベッド255床となる)
- 1979年 1月 看護婦宿舎「みみはら寮」完成
- 4月 同仁会会館建設
- 5月 老松診療所(人工透析25台)開設
- 8月 救急病棟(18床)開設(第一病棟除去、未熟児4含め224床となる)
- 1980年 5月 別館(地下1階、地上3階、86床)完成、合計280床となる
- 8月 耳原旭ヶ丘会館完成(労働組合、夜間保育所が同館に移転)
- 9月 耳原旭ヶ丘鍼灸所開設／創立30周年記念行事
- 1981年 9月 耳原歯科診療所開設
- 11月 耳原鳳病院新築移転(85床)老松診療所増改築(40台)  
RI検査室開始
- 12月 別館2階にSCU開設
- 1982年11月 内科専門分化実施
- 12月 入院助産制度認可
- 1983年 5月 重症者看護病棟23床
- 6月 眼科外来オープン
- 1984年11月 「耳原友の会」設立総会
- 1985年 7月 創立35周年記念事業実行委員会設置



- 9月 在宅酸素療法加算承認／4階に「集中観察室」開設
- 1988年4月 新館建設第一期工事竣工(新館5階、新救急病棟)
- 1989年1月 特3類看護認可
- 2月 胸部心臓血管外科開設
- 7月 適温適時給食実施
- 1990年4月 新館3階病棟オープン
- 7月 別館3階病棟オープン
- 1992年1月 外来オーダーリングシステム開始
- 1993年4月 第2土曜休診開始
- 5月 第1回健康まつり開催
- 1994年4月 第2・第4土曜休診開始／在宅医療部発足
- 1995年1月 阪神大震災支援運動に取り組む
- 2月 ショックウエーブ導入
- 4月 骨密度測定装置導入
- 5月 訪問看護ステーションみなと開設
- 9月 新看護体系(2:1A加算)
- 1996年2月 耳原鳳こども診療所開設
- 1997年10月 耳原高石診療所開設
- 1998年4月 厚生省臨床研修指定病院認可／第2・4土曜日診療再開
- 12月 老人保健施設みみはら開設
- 1999年4月 特定医療法人取得
- 5月 地域医療室開設／整形外科開設／内科総合病棟開設
- 10月 病棟再編(10病棟→9病棟)
- 2000年4月 救急告示開始(内・小・外)／居宅介護支援事業所開所
- 11月 みみはら高砂クリニック開設
- 2001年4月 リハビリ拡張基準Ⅱ取得
- 5月 感染対策緊急集会
- 7月 第1回医療安全大会(法人)
- 2002年2月 皮膚科外部化／専任リスクマネージャー配置
- 4月 日本医療機能評価受審／外科・心外・整形外科統合診療オープン／放射線科・麻酔医  
科専門医着任
- 5月 放射線科総合受付開設／紹介外来特別加算取得／外来改装
- 7月 急性期特定病院加算取得
- 10月 新2階病棟開設／MRI導入
- 12月 緩和ケア病棟新設／第1回緩和ケアシンポジウム(地域公開学習会)
- 2003年5月 鳳病院に6床移設
- 7月 薬剤師全日24時間体制実施／電子カルテオーダーリングシステム稼働
- 8月 別館2階病棟「特殊疾患入院施設管理加算」承認／外来化学療法センター開設／入院時  
医学管理加算承認
- 11月 日本医療機能評価一般B認定
- 2004年3月 SPDシステム導入
- 7月 日帰り手術センター開設
- 11月 「当院の姿勢と患者様に望むこと(患者様の権利章典)」の実施
- 12月 第1回「地域医療連携をすすめる会」

- 2006年 9月 みみはらファミリークリニック開設(耳原南花田診療所移転)
- 2008年 2月 小児科単独病棟開設
- 10月 集中治療室開設
- 2009年 6月 無料低額診療事業開始
- 2010年 8月 新病院建設ニュース 月刊「心ひとつに」創刊
- 2011年 1月 社会医療法人取得
- 2012年11月 地域医療支援病院許可
- 2013年 1月 立体駐車場整備完成
- 4月 サポートセンター開設
- 2014年11月 新病院Ⅰ期工事完成
- 8月 「同仁会報」「とも」(健康友の会みみはら)「心ひとつに」3紙合併発行開始
- 2015年 3月 新病院竣工式・記念レセプション・内覧会／旧病院解体工事着工
- 4月 新病院開院
- 6月 320列CT導入
- 9月 歯科口腔外科、救急科 標榜
- 9月 循環器センター、腎・透析センター、消化器センター開設
- 10月 「患者さん」呼称変更
- 2016年 4月 熊本震災支援派遣(4/19～6/7までのべ16人)
- 5月 Ⅱ期工事完成  
グランドオープン記念式典(みみはらホール、レストラン「グランの食堂」開業)  
がん相談支援センター開設
- 6月 総合診療センター／がん支援センター／がん相談支援センター開設
- 7月 ボランティア「風」が堺市功績者賞受賞
- 9月 消化器センター開設
- 11月 QMS(Quality Management System)活動開始
- 2017年 3月 大阪府がん診療拠点病院指定
- 4月 チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(CWHC)開設
- 5月 人間ドック学会認定
- 9月 一般社団法人 日本専門医機構「総合診療専門研修プログラムにおける一次審査」認可
- 10月 医師臨床研修マッチング制度、5年連続規定枠フルマッチ
- 2018年 1月 日本大腸肛門病学会認定施設
- 2月 浅大腿動脈ステントグラフト実施基準による血管内治療の実施認定施設
- 3月 小児科当直、再開  
リハビリ科、急性期病棟での365日リハ
- 5月 一般社団法人 National Clinical Database 登録  
卒後臨床研修評価機構(JCEP)第三者評価 認定更新
- 7月 外来初診時選定療養費徴収体制の開始
- 8月 国土交通省 レジリエンス認証  
専門外来「胆石症」外来 開設
- 10月 総合入院体制加算3 算定を開始
- 12月 「バイオ・ジェット」®(先進医療)検査の許可取得
- 2019年 1月 日本医療機能評価機構 3edG: Ver2.0一般病院2 認定

# 病 院 の 現 況

## 1. 病院の概要

病 院 名	社会医療法人同仁会 耳原総合病院
理 事 長	斉藤 和則
病 院 長	奥村 伸二
所 在 地	〒590-8505 大阪府堺市堺区協和町4丁465番地
診 療 科 目	内科、救急科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、小児科、外科、心臓血管外科、整形外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、精神科、小児精神科、神経内科、泌尿器科、眼科、脳神経外科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、病理診断科、緩和ケア外科、消化器外科、総合診療科、皮膚科、歯科口腔外科

病 院 開 設 1953年

### 【主たる指定医療機関】

- 地域医療支援病院
- 大阪府がん診療拠点病院
- 基幹型臨床研修指定病院
- HPH(健康増進活動拠点病院)
- 医療機能評価機構認定(3rd G: Ver.2.0)
- 保険医療機関
- 労災指定医療機関
- 母体保護指定医療機関
- 生活保護指定医療機関
- 更生医療担当医療機関
- 被爆者検診委託医療機関
- 原爆医療法指定医療機関
- 特定疾患(難病)治療研究委託機関
- 小児慢性特定疾患治療研究委託機関
- 母子保健法養育医療指定医療機関
- 結核予防法指定医療機関
- 身体障害者福祉法指定機関
- 指定自立支援医療機関(更生・育成・精神通院)
- 高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種実施医療機関
- 乳児健康診査取扱医療機関
- 公害医療機関
- DPC/PDPS算定機関
- 児童福祉法指定の第1種助産施設
- 卒後臨床研修評価機構認定病院

### 【主たる実施医療機関】

- 厚生労働省医薬品副作用モニター病院
- 特定健診実施医療機関
- 堺市・高石市国保人間ドック実施医療機関
- 堺市子宮がん健診・乳がん健診・大腸がん健診実施医療機関
- 循環器心発作受入医療機関
- 二次救急病院輪番制協力病院

### 【救急医療】

- 救急告示病院(内科・小児科)
- 夜間初期小児救急医療支援事業

### 【学会認定】

- 日本内科学会認定医制度教育病院
- 日本小児科学会小児科専門医研修施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設  
基幹教育施設
- 日本麻酔科学会 麻酔科認定病院
- 日本病理学会研修認定施設 B
- 母体保護法指定医師研究機関
- 日本救急医学会専門医指定施設

- 日本消化器病学会関連施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本腎臓学会研修施設
- 日本神経学会認定準教育関連施設
- 日本消化器外科学会修練施設
- 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- 日本産科婦人科内視鏡学会研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- 日本臨床細胞学会教育研修施設
- 日本がん治療認定医機構 認定研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
- マンモグラフィ(乳房エックス線写真)検診施設画像認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- 人間ドック学会認定施設
- 日本口腔外科学会准研修施設
- 日本大腸肛門病学会認定施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- 放射線科専門医修練機関認定施設

### 【施設基準等】

#### [病棟看護体制]

- 一般病棟入院基本料(7対1)認可
- 緩和ケア病棟入院基本料認可
- 重症者特別療養環境(35床)認可

#### [病院給食入院]

- 入院時食事療法(I)認可

#### [衛生管理]

- 院内感染防止対策認可施設

#### [施設認定]

検体検査管理認定施設、体外衝撃波(腎・尿管結石破碎術認可施設、胆石破碎術認可施設)、経皮的冠動脈血栓除去術認定、経皮的冠動脈形成術認定、大動脈バルーンバンピング法(IABP法)認定、経皮的冠動脈ステント留置術認定、ペースメーカー移植術認定

### 【主な届出】

- 歯科外来診療環境体制加算1
- 一般病棟入院基本料(7対1)
- 総合入院体制加算3
- 臨床研修病院入院診療加算
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 妊産婦緊急搬送入院加算
- 診療録管理体制加算1
- 医師事務作業補助体制加算1
- 急性期看護補助体制加算
- 看護職員夜間16対1配置加算1
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- がん拠点病院加算
- 栄養サポートチーム加算
- 医療安全対策加算1/医療安全対策地域連携加算1
- 感染防止対策加算1/抗菌薬適正使用支援加算1
- 患者サポート体制充実加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 総合評価加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 後発医薬品使用体制加算1
- 病棟薬剤業務実施加算1
- 病棟薬剤業務実施加算2
- データ提出加算2
- 入退院支援加算
- 認知症ケア加算1
- 特定集中治療室管理料1
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- 小児入院医療管理料4
- 小児入院医療管理料の注2に規定する加算
- 回復期リハビリテーション病棟入院料1/体制強化加算2
- 緩和ケア病棟入院料1
- 入院時食事療養/生活療養(I)
- 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理

加算及び歯科治療時医療管理料

- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料イ
- がん患者指導管理料ロ
- がん患者指導管理料ハ
- 乳腺炎重症化予防・ケア指導料
- 地域連携小児夜間・休日診療料1
- 地域連携夜間・休日診療料
- 院内トリアージ実施料
- 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
- 療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算
- 開放型病院共同指導料
- がん治療連携計画策定料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- ハイリスク妊産婦連携指導料1
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料1
- 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
- 在宅療養後方支援病院
- 遺伝学的検査
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- 検体検査管理加算(I)
- 検体検査管理加算(IV)
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 植込型心電図検査
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ヘッドアップティルト試験
- 画像診断管理加算1
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 心臓MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料(I)
- 脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
- 運動器リハビリテーション料(I)
- 呼吸器リハビリテーション料(I)
- がん患者リハビリテーション料
- 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
- 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
- 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
- 人工腎臓
- 導入期加算2・腎代替療法実績加算
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
- 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
- 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
- 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
- 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲



げる手術の時間外加算 1

- 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算 1
- 医科点数表第 2 章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- 輸血管管理料 I
- 輸血適正使用加算
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料 (I)
- 麻酔管理料 (II)
- 保険医療機関間の連携による病理診断
- 病理診断管理加算 1
- 悪性腫瘍病理組織標本加算
- (先進医療)MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法



## 同仁会のなりたち

### 私たちの理念「一視同仁」

1950年2月、耳原町(現協和町)に私たちの前身である耳原実費診療所は生まれました。当時は戦後の荒廃した生活の下、同和地域がゆえの差別と貧困にくるしめられ、トラコーマや結核が蔓延し、助かるべき命も失うという悲惨な状況でした。

このような中、地域の人たちと民主的な医師たちが「無差別・平等の医療」をもとめて、3万円(一口100円)の資金を募るなど、自らの診療所開設に立ち上がりました。開設時は借家の手狭な診療所でしたが、堺市で最初の患者の立場に立った民主診療所(現民医連)が誕生しました。

3年後の1953年11月には、いち早く病院化(54床)し、次いで57年には一挙に211床に増床、これを期に「みんなの病院」への思いを込めて58年11月に医療法人(財団)同仁会が設立されました。

創立後半世紀がすぎました。堺市を中心とする大阪民医連南ブロックには、5法人(2病院、8診療所、1介護老人保健施設、1歯科、8訪問看護ステーションなど)が地域に根ざして活動し、民医連連動が大きく広がっています。

「一視同仁」とは「だれかれなく、わけへだてなく平等に愛する」という意味です。

差別や貧困とたたかい、すべての人の人権と平和を願う先人の思いが、法人名の「同仁会」にこめられています。

今また、「病気であっても、医療が受けられない」という人権軽視の医療制度改悪が推し進められ、平和がおびやかされる時代へと逆行しつつあります。このような時代だからこそ「一視同仁」の原点を大切にし、「いのちの平等」をしっかりとふまえ、「無差別・平等の医療」をまもり続けます。

## 民医連(みんないれん)とは

戦後、医療に恵まれない人々の要求にこたえようと、地域住民と医療従事者が手をたずさえ、民主的な医療機関が各地につくられました。全日本民主医療機関連合会(全日本民医連)は、これらの連合会として1953年に結成されました。

以後、半世紀以上にわたって地域の人々にささえられ、身近な医療機関として活動しています。医療制度を改善する運動もすすみ、「いのちは平等である」との考えから、差額ベッド料はいただいていません。また、地域の要求から介護・福祉分野の活動も活発に行っています。

現在、民医連に加盟する事業所は、全国の47都道府県に1,700カ所を超え、約6万2千人の職員と、医療生活協同組合員や友の会会員約318万人の方々が、ともに保健・医療・福祉の総合的な活動、安心して住み続けられるまちづくり運動を進めています。

# 民 医 連 綱 領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一. 人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一. 地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一. 学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一. 科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一. 国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一. 人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日

## 耳原総合病院の基本方針

いのちの平等をかせ、大阪南部になくなくてはならない存在として、地域の人々とともに、保健・医療・介護のネットワークづくりをかせ、24時間365日分け隔てなく安全安心信頼の事業とまちづくりを進めている。

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

## 耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

### ●安全、安心、信頼の医療

私たちは患者様とともに力を合わせて医療をすすめます

### ●無差別、平等の医療

私たちは患者様の人権を尊重した医療をすすめます

### ●患者負担の少ない医療

私たちは室料差額はいたしません

医療費負担を増やす政策に反対します

### ●地域とともに歩む専門職の育成

科学性・社会性・倫理性をふまえた鋭い人権感覚をもつ専門職を養成します

## 基幹型臨床研修病院 耳原総合病院

### < 基本理念 >

地域、社会から求められる医師として成長するため、また、医師としての生きがいを持って働き続けるために、

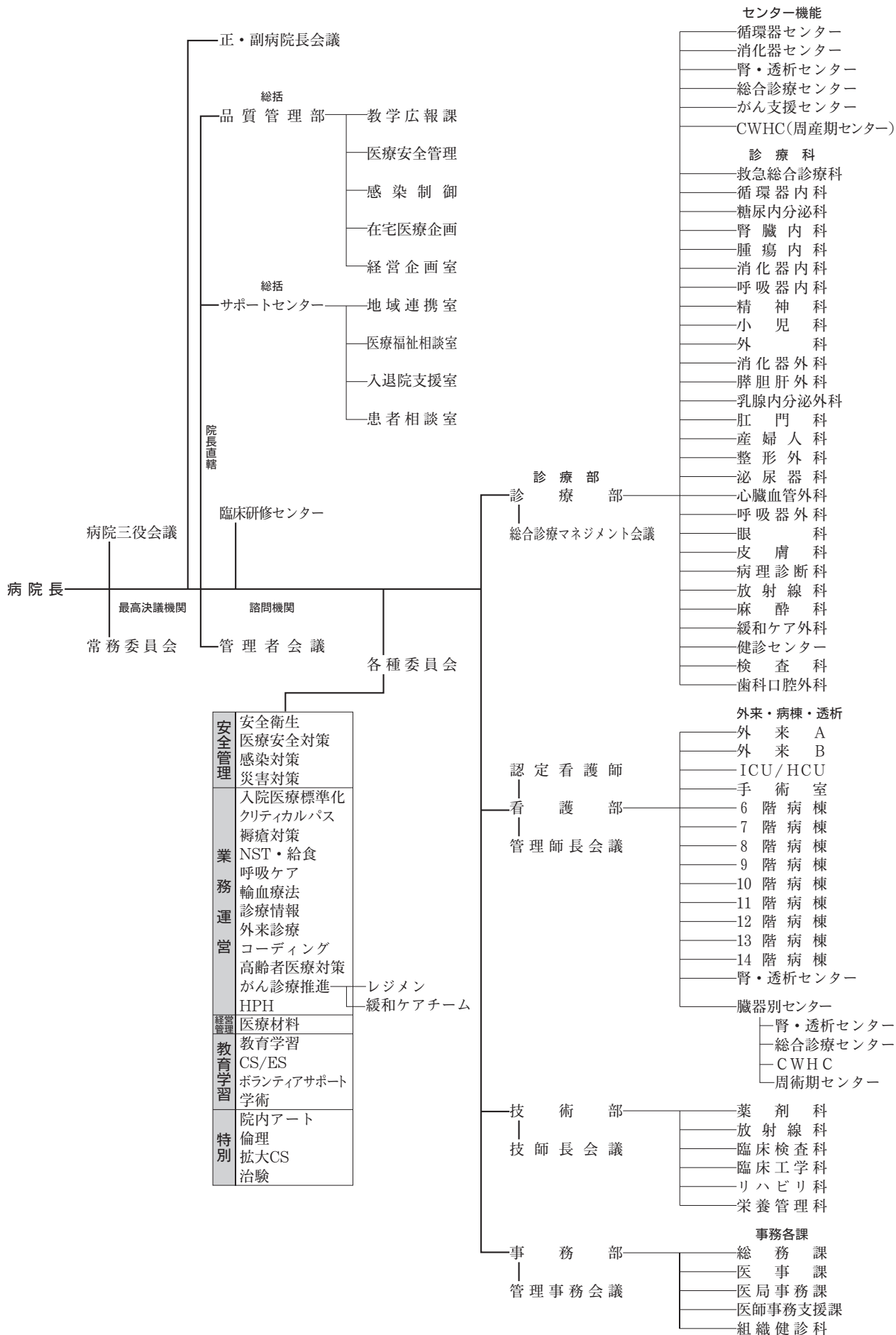
1. 疾患を幅広くとらえる
2. 病院、診療所とともに地域を研修の場とし介護、福祉も視野に入れる
3. 医師としてのリーダーシップ、他職種とのコミュニケーション、医師としての社会的役割を身につける

### < 五つの基本姿勢 >

1. 研修医が健康的に研修できる環境を保障する
2. 研修医をひとりにならないよう、十分なバックアップ体制を作る
3. 個々の研修医の到達に合わせ、ゆるやかに無理なく研修を進める
4. 指導医だけでなく、病院全体で研修医を育てる
5. 地域で暮らす生活者として患者様をとらえ、問題解決にあたる

# 耳原総合病院組織図

2019年3月1日現在



## 職員配置表

2019 3.31現在

職 種	常 勤	非 常 勤		換 算
	人 数	人 数	換 算	合 計
医師	92.3	88.9	2.7	95.0
歯科医師	1.5	2.5	0.2	1.7
薬剤師	22.1	2.0	1.2	23.3
臨床工学技士	21.0	0.0	0.0	21.0
検査技師	23.8	5.5	2.7	26.5
放射線技師	24.0	0.0	0.0	24.0
理学療法士	36.2	0.0	0.0	36.2
作業療法士	13.5	0.0	0.0	13.5
言語聴覚士	6.7	1.2	0.7	7.4
心理判定士	0.0	1.0	0.0	0.0
歯科衛生士	1.0	0.0	0.0	1.0
管理栄養士	6.1	3.9	3.4	9.5
栄養士	0.0	1.0	0.9	0.9
調理師	13.0	4.0	3.8	16.8
保育士	2.0	0.0	0.0	2.0
介護福祉士	3.5	0.0	0.0	3.5
施設技師	2.0	0.0	0.0	2.0
その他技師	0.0	2.1	0.7	0.7
視能訓練士	1.0	1.0	0.5	1.5
ケースワーカー	7.9	0.0	0.0	7.9
ヘルパー	0.3	0.0	0.0	0.3
事務	52.0	62.5	54.8	106.8
看護師	389.8	12.8	4.6	394.3
助産師	23.0	1.7	0.1	23.1
保健師	1.0	0.0	0.0	1.0
准看護師	3.6	6.3	3.3	6.9
薬剤師助手	0.0	1.0	0.4	0.4
検査技師助手	0.0	0.3	0.1	0.1
リハビリ技師助手	0.0	1.0	0.9	0.9
技術助手	1.0	2.1	0.8	1.8
看護助手	3.4	48.3	35.2	38.6
調理員	0.0	10.8	8.0	8.0
合 計	751.5	262.2	126.7	878.2



# 職員用デジタルサイネージでふりかえる2018年度

## 【4月】

**morning BRIEFING-スタート**  
 連携・情報共有・意志疎通・  
 より確かにひとを生命を救うため  
 ER/当直スタッフ/ICU・  
**ブリーフィング今春開始**



**感染予防策表示マグネット 解説**

<b>接触予防策 (アルコール消毒Ver)</b> ・手袋、エプロン装着 ・手指衛生 (アルコール)	<b>空気予防策</b> ・N95マスク装着 ・ドア開放厳禁 ・手指衛生
<b>接触予防策 (流水手洗いVer)</b> ・手袋、エプロン装着 ・手指衛生 (流水手洗い)	<b>飛沫予防策</b> ・マスク装着 ・手指衛生

**NST学習会**  
**「NSTとは」**  
 内科 河村裕美医師  
 2018年4月24日(火) 17:30~  
 5階 医局会議室



## 【5月】

**事務系研修**  
**「院内探訪」**  
 放射線科・血液腫瘍科  
 産科・病棟・手術室 (8F・9F)

5月18日実施  
 参加者20名

各部署のお仕事  
 ご対応ありがとうございました！

次回事務系研修  
 6/15(金)「経営基礎講座」



**第13回耳原臨床セミナー**  
 学生21名参加！スタッフ総勢66名！  
 ご協力ありがとうございました！！




**グレードA シミュレーション**

日時：5月31日(木)  
 時間：15:00-16:00

参加：産婦人科医師  
 6F病棟看護師  
 手術室看護師  
 夜間受付  
 防災センター

脱出時間30分以内に脱出必要超緊急帝王切開術の訓練で  
 放送時は、グレードA放送のためエレベーターをお譲りください

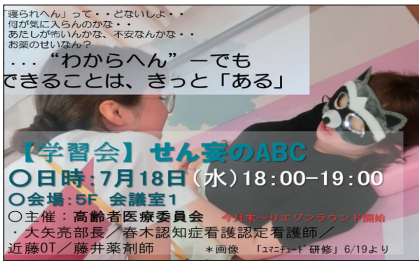


## 【6月】

「わからへん」って・・・どないよ・・・  
 母が乳にいらんのかん？  
 赤ちゃんのいんが、不安なんかな・・・  
 お家のせいなん？  
 ...「わからへん」でも  
 できることは、きっと「ある」

**【学習会】せんまのABC**  
 ○日時：7月18日(水) 18:00-19:00  
 ○会場：5F 会議室1

○主催：高齢者医療委員会  
 大矢亮部長 / 春木認知症看護認定看護師  
 近藤OT / 藤井薬剤師



**Lesson of Humanity.**  
 2018.6.19

【ユマニチュード】  
 知覚・感覚・言語による包括  
 的コミュニケーションに基づ  
 いたケア技法

「あなたを大切に、したい」  
 その思い+ほんのひと工夫  
 / 高齢者委員会



**Good job 6/26**  
 管理栄養士一いいね！  
 某ビッグ・インスタグラマ

Instagram  
 始めました



## 【7月】

**祝！耳原総合病院は レジリエンス認証を取得しました！祝！**

「レジリエンス認証」とは・・・  
 「国土強靱化貢献団体の認証に関するガイドライン」  
 (内閣府国土強靱化推進室) に基づき、

事業継続 (BCP) を策定し、定期的な訓練などの改善活動を  
 継続的に実施している団体に 対して与えられる認証

職員皆さんの意欲とご協力の賜物です！  
 これからもBCP訓練を継続しましょう



**今年の夏こそ 海をマンキツ!!**

自転車  
 のいい汗流せろ！

※利用条件：説明会参加  
 問合せ：リハビリ室  
 大林・本館 (8558)

空き  
 あります！

説明会  
 受付中



うっわ... もっと、  
 マンキツ!!!

運動がきっかけでこの病院は職員まで



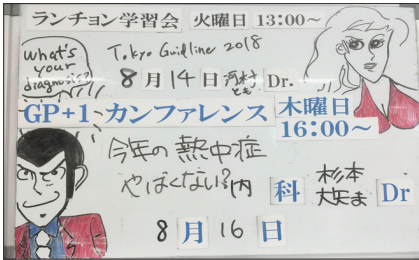
## 【8月】

**ランチョン学習会 火曜日 13:00~**

What's your diagnosis?  
 Tokyo Guideline 2018  
 8月14日(火) Dr. 杉本

**GP+1カンファレンス 木曜日 16:00~**

今年の熱中症  
 やばくない内 科 杉本 Dr  
 8月16日



**Good job 0828 外来A<ER>**  
 “受けもつて、助かった”  
 患者さん、開業医、救急隊一すべてのひとのために

この夏、不応需率  
**驚異の9.6%(過去最低)**

7月救急搬送 622件

全職場の good job!

不応需率9.6%(66件)  
 受入れお断り率



**勤務中は常備してください**

安全 HAN D BOOK  
 医療 HAN D BOOK

病院長 奥村 孝二  
 医療安全管理室



## 【9月】

**9/15 第22回地域連携すすめる会の報告**

参加者は、外部から41医療機関から42名の参加！  
 院内からは、医師18名、看護婦19名、事務18名、  
 リハビリ2名、MSW3名、放射線技師1名、  
 臨床検査技師1名、計62名の参加。  
 全体で計104名の参加でした。



**Japan Council for Quality Health Care**  
 日本医療機能評価機構 受審日  
 10.4(木)-10.5(金)

**9/19(水)全館ラウンド**  
 全職場、5Sの徹底を

医療機能評価!



患者さんのふりかえりや悩みや疑問を通して成長したことは

**半年リカネリ発表会**

10/25(木) 18じ  
 グラの食堂









2018年度

# 医療活動報告



## 年度別診療科別入院患者数

(1) 延患者数および1日平均患者数

	2017年度		2018年度	
	延 数	1日平均	延 数	1日平均
内科	46,410	127.2	43,783	120.0
循環器内科	13,415	36.8	12,815	35.1
消化器内科			3,934	10.8
小児科	9,038	24.8	8,947	24.5
外科	16,580	45.4	17,564	48.1
整形外科	8,299	22.7	9,719	26.6
心臓血管外科	1,727	4.7	2,176	6.0
呼吸器外科	1,034	17.5	685	1.9
緩和ケア外科	7,097	19.4	8,356	22.9
産婦人科	8,809	24.1	8,532	23.4
泌尿器科	2,985	8.2	2,992	8.2
リハビリ科	18,512	50.7	18,554	50.8
眼科			18	0.0
麻酔科			2	0.0
歯科口腔外科	252	0.7	202	0.6
合 計	134,158	367.6	138,279	378.8

(2) 平均在院日数

	2017年度	2018年度
内科	12.5	11.9
循環器内科	9.9	9.9
消化器内科		17.6
小児科	5.7	5.8
外科	9.1	12.0
整形外科	29.5	30.9
心臓血管外科	31.4	44.0
呼吸器外科	15.0	21.1
緩和ケア外科	26.0	30.2
産婦人科	7.3	6.9
泌尿器科	6.1	6.4
リハビリ科	84.7	85.7
歯科口腔外科	4.8	3.8
眼科		3.0
麻酔科		4.0
全科平均	12.1	12.7

計算式：在院延患者数(退院を含む)÷((入院患者数+退院患者数)÷2)

## 年度別病棟別入院患者数

(1) 延患者数および1日平均患者数

	2017年度		2018年度	
	延 数	1日平均	延 数	1日平均
救 急	908	2.5	1,078	3.0
I C U	1,383	3.8	1,373	3.8
H C U	1,439	3.9	1,425	3.9
6 階	9,647	26.4	9,983	27.4
7 階	16,624	45.5	16,901	46.3
8 階	16,841	46.1	17,580	48.2
9 階	9,766	26.8	10,811	29.6
10 階	18,543	50.8	18,557	50.8
11 階	16,915	46.3	17,199	47.1
12 階	17,473	47.9	17,581	48.2
13 階	17,345	47.5	17,582	48.2
14 階	7,274	19.9	8,209	22.5
合 計	134,158	367.6	138,279	378.8

(2) 平均在院日数

	2017年度	2018年度
救 急	1.7	1.7
I C U	14.9	17.4
H C U	20.4	20.5
6 階	7.2	6.8
7 階	9.2	9.7
8 階	13.9	21.7
9 階	5.9	6.2
10 階	84.7	86.1
11 階	15.9	14.7
12 階	10.6	10.8
13 階	15.8	16.9
14 階	20.0	31.0
全病棟平均	12.1	12.7

計算式：在院延患者数(退院を含む)÷((入院患者数+退院患者数)÷2)



## 2018年度月別入院患者数

### I. 診療科別

#### (1) 延患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
内科	4,054	4,229	4,033	4,345	3,922	3,805	3,853	2,877	3,072	3,486	2,987	3,120	43,783	3,649
循環器内科	1,058	944	955	891	1,123	1,051	1,079	1,196	1,140	1,065	1,086	1,227	12,815	1,068
消化器内科	0	0	0	0	0	0	154	677	778	843	632	850	3,934	328
小児科	748	640	556	810	916	979	695	633	910	703	626	731	8,947	746
外科	1,325	1,451	1,475	1,588	1,538	1,501	1,624	1,402	1,548	1,417	1,223	1,472	17,564	1,464
整形外科	594	815	798	614	903	864	827	902	715	884	864	939	9,719	810
産婦人科	697	863	769	611	730	777	730	634	797	685	612	627	8,532	711
泌尿器科	228	285	284	219	287	254	279	241	240	184	242	249	2,992	249
心臓血管外科	254	228	193	100	118	125	153	150	192	176	238	249	2,176	181
呼吸器外科	108	61	40	36	0	0	10	56	56	72	112	134	685	57
緩和ケア外科	666	683	659	681	701	666	708	821	726	686	649	710	8,356	696
リハビリ科	1,519	1,570	1,526	1,579	1,568	1,527	1,583	1,528	1,581	1,578	1,424	1,571	18,554	1,546
眼科	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	6	0	18	2
麻酔科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0
歯科口腔外科	14	32	7	17	20	11	20	32	4	6	26	13	202	17
合計	11,265	11,801	11,295	11,491	11,826	11,562	11,715	11,161	11,759	11,785	10,727	11,892	138,279	11,523

#### (2) 1日平均患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
内科	135.1	136.4	134.4	140.2	126.5	126.8	124.3	95.9	99.1	112.5	106.7	100.6	120.0
循環器内科	35.3	30.5	31.8	28.7	36.2	35.0	34.8	39.9	36.8	34.4	38.8	39.6	35.1
消化器内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	22.6	25.1	27.2	22.6	27.4	10.8
小児科	24.9	20.6	18.5	26.1	29.5	32.6	22.4	21.1	29.4	22.7	22.4	23.6	24.5
外科	44.2	46.8	49.2	51.2	49.6	50.0	52.4	46.7	49.9	45.7	43.7	47.5	48.1
整形外科	19.8	26.3	26.6	19.8	29.1	28.8	26.7	30.1	23.1	28.5	30.9	30.3	26.6
産婦人科	23.2	27.8	25.6	19.7	23.5	25.9	23.5	21.1	25.7	22.1	21.9	20.2	23.4
泌尿器科	7.6	9.2	9.5	7.1	9.3	8.5	9.0	8.0	7.7	5.9	8.6	8.0	8.2
心臓血管外科	8.5	7.4	6.4	3.2	3.8	4.2	4.9	5.0	6.2	5.7	8.5	8.0	6.0
呼吸器外科	3.6	2.0	1.3	1.2	0.0	0.0	0.3	1.9	1.8	2.3	4.0	4.3	1.9
緩和ケア外科	22.2	22.0	22.0	22.0	22.6	22.2	22.8	27.4	23.4	22.1	23.2	22.9	22.9
リハビリ科	50.6	50.6	50.9	50.9	50.6	50.9	51.1	50.9	51.0	50.9	50.9	50.7	50.8
眼科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	0.5	1.0	0.2	0.5	0.6	0.4	0.6	1.1	0.1	0.2	0.9	0.4	0.6
合計	375.5	380.7	376.5	370.7	381.5	385.4	377.9	372.0	379.3	380.2	383.1	383.6	378.8



## II. 病棟別

### (1) 延患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
E R	70	85	85	94	98	110	78	63	84	125	82	104	1,078	90
I C U	115	112	110	116	110	107	113	110	122	129	102	127	1,373	114
H C U	117	114	120	120	121	115	118	120	120	122	111	127	1,425	119
6 階	863	914	811	728	873	930	822	740	917	887	719	779	9,983	832
7 階	1,397	1,434	1,408	1,363	1,447	1,381	1,428	1,407	1,421	1,415	1,331	1,469	16,901	1,408
8 階	1,443	1,479	1,455	1,476	1,514	1,449	1,492	1,461	1,476	1,483	1,359	1,493	17,580	1,465
9 階	819	912	799	937	894	959	888	846	960	931	885	981	10,811	901
10 階	1,519	1,571	1,525	1,581	1,573	1,527	1,581	1,528	1,579	1,578	1,424	1,571	18,557	1,546
11 階	1,406	1,487	1,394	1,438	1,468	1,393	1,492	1,333	1,462	1,454	1,353	1,519	17,199	1,433
12 階	1,421	1,526	1,466	1,462	1,509	1,465	1,512	1,399	1,436	1,498	1,360	1,527	17,581	1,465
13 階	1,429	1,484	1,463	1,495	1,518	1,466	1,495	1,432	1,467	1,477	1,363	1,493	17,582	1,465
14 階	666	683	659	681	701	660	696	722	715	686	638	702	8,209	684
合 計	11,265	11,801	11,295	11,491	11,826	11,562	11,715	11,161	11,759	11,785	10,727	11,892	138,279	11,523

### (2) 1日平均患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
E R	2.3	2.7	2.8	3.0	3.2	3.7	2.5	2.1	2.7	4.0	2.9	3.4	3.0
I C U	3.8	3.6	3.7	3.7	3.5	3.6	3.6	3.7	3.9	4.2	3.6	4.1	3.8
H C U	3.9	3.7	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	4.0	3.9	3.9	4.0	4.1	3.9
6 階	28.8	29.5	27.0	23.5	28.2	31.0	26.5	24.7	29.6	28.6	25.7	25.1	27.4
7 階	46.6	46.3	46.9	44.0	46.7	46.0	46.1	46.9	45.8	45.6	47.5	47.4	46.3
8 階	48.1	47.7	48.5	47.6	48.8	48.3	48.1	48.7	47.6	47.8	48.5	48.2	48.2
9 階	27.3	29.4	26.6	30.2	28.8	32.0	28.6	28.2	31.0	30.0	31.6	31.6	29.6
10 階	50.6	50.7	50.8	51.0	50.7	50.9	51.0	50.9	50.9	50.9	50.9	50.7	50.8
11 階	46.9	48.0	46.5	46.4	47.4	46.4	48.1	44.4	47.2	46.9	48.3	49.0	47.1
12 階	47.4	49.2	48.9	47.2	48.7	48.8	48.8	46.6	46.3	48.3	48.6	49.3	48.2
13 階	47.6	47.9	48.8	48.2	49.0	48.9	48.2	47.7	47.3	47.6	48.7	48.2	48.2
14 階	22.2	22.0	22.0	22.0	22.6	22.0	22.5	24.1	23.1	22.1	22.8	22.6	22.5
合 計	375.5	380.7	376.5	370.7	381.5	385.4	377.9	372.0	379.3	380.2	383.1	383.6	378.8

## 2018年度外来患者数

### (1) 延患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
ER	939	1,027	849	1,138	1,097	1,053	869	866	1,072	1,794	991	961	12,656	1,055
内科	1,377	1,360	1,406	1,309	1,378	1,199	1,488	1,358	1,259	1,252	1,311	1,392	16,089	1,341
循環器内科	588	564	564	532	631	468	603	510	484	508	551	609	6,612	551
消化器内科	100	86	90	100	92	69	110	100	92	102	108	91	1,140	95
呼吸器内科	0	5	23	2	0	0	0	0	0	0	0	0	30	3
透析科	2,632	2,868	2,714	2,705	2,753	2,580	2,837	2,748	2,785	2,901	2,650	2,859	33,032	2,753
小児科	418	467	295	339	366	372	349	301	330	377	286	286	4,186	349
外科	1,657	1,829	1,674	1,614	1,649	1,634	1,770	1,678	1,547	1,547	1,538	1,712	19,849	1,654
整形外科	1,469	1,444	1,512	1,340	1,459	1,265	1,550	1,409	1,359	1,275	1,266	1,406	16,754	1,396
心臓血管外科	93	93	137	117	100	120	116	138	119	93	84	110	1,320	110
呼吸器外科	56	55	45	40	11	6	27	32	25	37	49	52	435	36
脳神経外科	76	70	82	80	88	73	90	98	101	80	101	113	1,052	88
緩和ケア外科	78	64	72	83	84	65	74	64	69	76	75	77	881	73
産婦人科	1,495	1,739	1,722	1,659	1,810	1,571	1,777	1,656	1,608	1,476	1,461	1,628	19,602	1,634
泌尿器科	686	676	638	654	708	622	635	626	543	583	533	640	7,544	629
眼科	259	2	0	3	9	8	22	8	19	21	8	12	371	31
リハビリ科	88	80	72	74	61	62	95	84	69	57	70	90	902	75
麻酔科	48	65	56	65	63	43	57	61	57	51	58	44	668	56
精神科	290	315	272	314	313	242	307	275	291	266	280	276	3,441	287
皮膚科	40	37	30	27	45	36	31	40	30	20	23	30	389	32
歯科口腔外科	485	560	585	560	647	493	592	597	586	538	555	578	6,776	565
合計	12,874	13,406	12,838	12,755	13,364	11,981	13,399	12,649	12,445	13,054	11,998	12,966	153,729	12,811

### (2) 1日平均患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
ER	39.1	42.8	34.0	45.5	42.2	43.9	33.4	36.1	44.7	81.5	43.1	37.0	44.2
内科	57.4	56.7	56.2	52.4	53.0	50.0	57.2	56.6	52.5	56.9	57.0	53.5	55.1
循環器内科	24.5	23.5	22.6	21.3	24.3	19.5	23.2	21.3	20.2	23.1	24.0	23.4	22.5
消化器内科	4.2	3.6	3.6	4.0	3.5	2.9	4.2	4.2	3.8	4.6	4.7	3.5	3.9
呼吸器内科	0.0	0.2	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
透析科	109.7	119.5	108.6	108.2	105.9	107.5	109.1	114.5	116.0	131.9	115.2	110.0	113.3
小児科	17.4	19.5	11.8	13.6	14.1	15.5	13.4	12.5	13.8	17.1	12.4	11.0	14.6
外科	69.0	76.2	67.0	64.6	63.4	68.1	68.1	69.9	64.5	70.3	66.9	65.8	68.0
整形外科	61.2	60.2	60.5	53.6	56.1	52.7	59.6	58.7	56.6	58.0	55.0	54.1	57.5
心臓血管外科	3.9	3.9	5.5	4.7	3.8	5.0	4.5	5.8	5.0	4.2	3.7	4.2	4.5
呼吸器外科	2.3	2.3	1.8	1.6	0.4	0.3	1.0	1.3	1.0	1.7	2.1	2.0	1.4
脳神経外科	3.2	2.9	3.3	3.2	3.4	3.0	3.5	4.1	4.2	3.6	4.4	4.3	3.5
緩和ケア外科	3.3	2.7	2.9	3.3	3.2	2.7	2.8	2.7	2.9	3.5	3.3	3.0	3.0
産婦人科	62.3	72.5	68.9	66.4	69.6	65.5	68.3	69.0	67.0	67.1	63.5	62.6	67.3
泌尿器科	28.6	28.2	25.5	26.2	27.2	25.9	24.4	26.1	22.6	26.5	23.2	24.6	25.9
眼科	10.8	0.1	0.0	0.1	0.3	0.3	0.8	0.3	0.8	1.0	0.3	0.5	1.4
リハビリ科	3.7	3.3	2.9	3.0	2.3	2.6	3.7	3.5	2.9	2.6	3.0	3.5	3.0
麻酔科	2.0	2.7	2.2	2.6	2.4	1.8	2.2	2.5	2.4	2.3	2.5	1.7	2.3
精神科	12.1	13.1	10.9	12.6	12.0	10.1	11.8	11.5	12.1	12.1	12.2	10.6	11.9
皮膚科	1.7	1.5	1.2	1.1	1.7	1.5	1.2	1.7	1.3	0.9	1.0	1.2	1.3
歯科口腔外科	20.2	23.3	23.4	22.4	24.9	20.5	22.8	24.9	24.4	24.5	24.1	22.2	23.2
合計	536.4	558.6	513.5	510.2	514.0	499.2	515.3	527.0	518.5	593.4	521.7	498.7	524.7

## 2018年度 退院患者統計

### 診療科別退院患者数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	構成比
内科	238	270	259	287	279	257	263	185	214	189	152	190	2,783	25.6%
小児科	121	109	94	143	173	162	133	108	155	117	110	117	1,542	14.2%
外科	137	148	130	141	131	139	143	136	130	100	120	135	1,590	14.6%
整形外科	17	21	23	18	27	21	21	27	19	12	33	21	260	2.4%
泌尿器科	45	48	46	35	44	39	46	42	39	27	46	38	495	4.6%
心臓血管外科	6	4	7	3	5	2	5	2	5	4	2	7	52	0.5%
眼科	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	2	—	6	0.1%
リハビリ科	21	24	26	32	29	27	32	28	33	28	24	21	325	3.0%
循環器内科	126	107	128	107	122	129	140	116	131	106	122	132	1,466	13.5%
産婦人科	97	106	110	101	121	112	107	95	97	106	91	89	1,232	11.3%
内科(E R)	24	31	23	31	33	44	21	22	33	46	26	29	363	3.3%
緩和ケア外科	28	18	30	31	29	23	32	24	28	30	32	31	336	3.1%
消化器内科	—	1	—	—	—	—	—	52	62	72	56	69	312	2.9%
呼吸器外科	8	5	2	2	—	—	2	3	4	3	3	8	40	0.4%
歯科口腔外科	4	5	2	5	5	2	5	9	2	3	6	5	53	0.5%
総計	872	897	880	936	998	957	950	853	952	843	825	892	10,855	100.0%

### 病棟別退院患者数

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	構成比
救急	24	32	23	31	35	46	27	24	40	57	39	46	424	3.9%
HCU	1	3	1	2	3	2	6	—	2	2	2	2	26	0.2%
ICU	3	—	—	2	—	2	1	3	2	7	1	2	23	0.2%
6階	126	111	115	115	150	136	124	119	119	132	110	118	1,475	13.6%
7階	142	132	156	150	154	159	164	131	149	117	125	144	1,723	15.9%
8階	93	104	88	93	78	74	57	77	68	51	53	62	898	8.3%
9階	126	143	126	159	161	152	149	114	155	119	123	128	1,655	15.2%
10階	21	24	26	32	29	27	31	28	32	28	24	21	323	3.0%
11階	89	85	74	95	104	101	112	100	101	86	110	111	1,168	10.8%
12階	138	154	141	125	142	123	147	138	137	127	130	133	1,635	15.1%
13階	81	91	100	101	113	112	100	100	119	87	76	94	1,174	10.8%
14階	28	18	30	31	29	23	32	19	28	30	32	31	331	3.0%
総計	872	897	880	936	998	957	950	853	952	843	825	892	10,855	100.0%

### 退院患者入院形態

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	構成比
緊急入院	470	516	463	540	546	532	523	472	534	528	444	477	6,045	55.7%
救急搬入	153	182	162	201	199	190	179	166	189	209	180	196	2,206	20.3%
walk-in	317	334	301	339	347	342	344	306	345	319	264	281	3,839	35.4%
予定入院	402	381	417	396	452	425	427	381	418	315	381	415	4,810	44.3%
総計	872	897	880	936	998	957	950	853	952	843	825	892	10,855	100.0%

ICD大分類別退院患者数

ICD大分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	構成比
I(感染症および寄生虫)	33	43	18	32	31	27	36	39	51	36	31	27	404	3.7%
II C(新生物・悪性)	108	100	115	121	118	92	128	89	105	102	123	129	1,330	12.3%
IID(新生物・良性/性状不詳)	43	48	45	36	27	27	29	26	29	21	25	33	389	3.6%
III(血液)	6	8	8	7	8	6	6	7	5	9	8	12	90	0.8%
IV(内分泌)	37	28	44	41	55	37	22	30	30	16	21	28	389	3.6%
V(精神)	4	3	3	5	3	4	5	2	2	4	—	3	38	0.4%
VI(神経)	25	19	25	32	36	32	19	18	30	11	19	20	286	2.6%
VII(眼)	—	1	—	3	—	1	—	4	—	—	2	—	11	0.1%
VIII(耳)	2	1	1	3	2	2	2	2	—	—	2	2	19	0.2%
IX(循環器)	155	131	151	136	139	156	170	137	167	128	139	155	1,764	16.3%
X(呼吸器)	120	126	98	122	132	135	116	93	115	134	102	105	1,398	12.9%
XI(消化器)	104	125	107	120	118	130	120	125	117	117	104	117	1,404	12.9%
XII(皮膚)	9	9	11	10	7	14	9	9	9	5	4	8	104	1.0%
XIII(筋骨格)	22	26	22	21	32	30	25	27	31	23	29	30	318	2.9%
XIV(腎尿路生殖器)	47	75	75	73	85	70	81	73	77	54	58	64	832	7.7%
XV(妊娠、分娩)	70	71	71	65	90	87	80	71	75	81	61	62	884	8.1%
XVI(周産期)	24	20	23	20	29	29	29	22	29	24	19	11	279	2.6%
XVII(先天奇形)	6	7	7	10	10	10	11	8	5	4	3	3	84	0.8%
XVIII(症状、徴候)	2	3	2	6	2	2	1	3	3	—	—	1	25	0.2%
XIX(損傷、中毒)	33	38	45	58	56	46	44	39	45	39	36	39	518	4.8%
XXI(保険サービスの利用)	22	15	9	15	18	20	17	29	27	35	39	43	289	2.7%
総計	872	897	880	936	998	957	950	853	952	843	825	892	10,855	100.0%

年齢別退院患者数

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	構成比
0～4	73	73	67	93	98	104	86	61	98	78	60	64	955	8.8%
5～9	22	17	12	24	36	31	24	22	27	18	22	28	283	2.6%
10～14	17	16	10	20	28	15	16	17	21	12	19	14	205	1.9%
15～19	17	9	6	7	7	11	8	10	5	5	9	6	100	0.9%
20～24	14	16	19	22	18	20	16	19	18	19	11	15	207	1.9%
25～29	15	28	27	34	41	30	32	31	26	34	18	22	338	3.1%
30～34	32	34	35	34	42	46	34	34	31	31	34	24	411	3.8%
35～39	24	24	24	23	25	28	27	20	29	21	22	19	286	2.6%
40～44	20	28	24	31	28	22	25	20	23	26	16	23	286	2.6%
45～49	22	20	27	26	27	23	26	27	25	19	22	32	296	2.7%
50～54	31	31	21	26	19	29	31	33	31	19	23	34	328	3.0%
55～59	28	28	38	38	27	35	27	30	28	27	25	26	357	3.3%
60～64	39	45	39	40	37	35	38	42	40	41	38	57	491	4.5%
65～69	80	78	66	86	91	77	79	69	93	79	65	79	942	8.7%
70～74	107	80	111	115	93	108	126	95	108	83	121	100	1,247	11.5%
75～79	118	124	130	124	130	125	135	112	114	116	103	116	1,447	13.3%
80～84	98	103	101	93	125	105	104	102	105	92	96	106	1,230	11.3%
85～89	70	81	68	62	78	64	80	65	61	67	62	76	834	7.7%
90～94	34	44	44	28	39	33	28	31	54	42	51	38	466	4.3%
95～99	9	17	8	10	8	15	8	11	14	12	7	10	129	1.2%
100～104	2	1	3	—	1	1	—	2	1	2	1	3	17	0.2%
総計	872	897	880	936	998	957	950	853	952	843	825	892	10,855	100.0%

## Quality Indicator(医療の質).....

### ・転倒・転落発生率

#### 【指標の意義】

・転倒・転落を予防し、外傷を軽減するための指標です。特に、治療が必要な患者を把握していく必要があります。

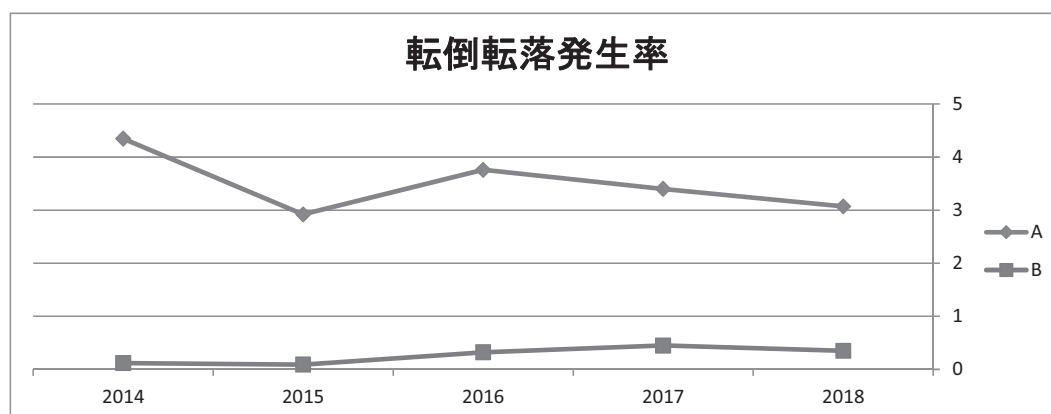
#### 【指標の計算式、分母・分子の解釈】

分子 A) 入院患者の転倒・転落件数

B) 治療を必要とする転倒・転落件数

分母 入院患者延数(24時在院患者+退院患者数の合計)

指 標	年	値	参考値
A) 入院患者の転倒・転落発生率 単位：‰(1000分の1)	2018	3.07	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 4.67
	2017	3.40	
	2016	3.76	
	2015	2.92	
	2014	4.35	
B) 治療を必要とする転倒・転落発生率 単位：‰(1000分の1)	2018	0.35	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 0.35
	2017	0.45	
	2016	0.32	
	2015	0.09	
	2014	0.12	



## ・新規褥瘡発生率

### 【指標の意義】

- ・褥瘡予防対策は、提供されるべき医療の重要な項目であり、栄養管理、ケアの質評価にかかわる指標です。

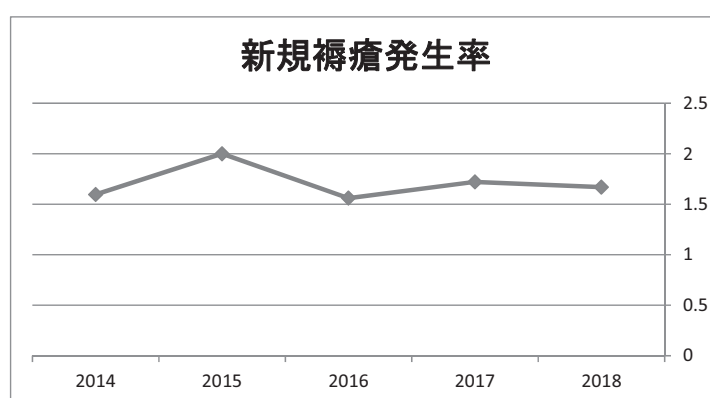
### 【指標の計算式、分母・分子の解釈】

分子 入院後に新規に発生したd2以上の褥瘡の数(別部位は1として計測)

ひとりの患者でも複数発生した場合はその個数を算出する。

分母 調査月の新入院患者数+前月最終日在院患者数(24時現在)

指 標	年	値	参考値
新規褥瘡発生率 単位：％(100分の1) * 2016年はd2以上の発生率	2018	1.67	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 1.10
	2017	1.72	
	2016	1.56	
	2015	2.00	
	2014	1.60	



## ・退院後7日以内の緊急再入院割合

### 【指標の意義】

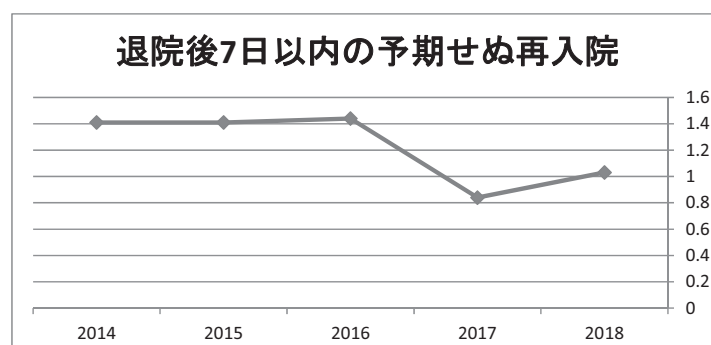
- ・予定外の再入院を防ぐ。(初回入院時の治療が不十分であったこと、回復が不完全な状態で早期退院を強いたことによるなど)

### 【指標の計算式、分母・分子の解釈】

分子 当月の退院患者のうち、前回退院から7日以内に同一傷病名または随伴症・合併症、併存症で緊急入院した患者

分母 退院患者数

指 標	年	値	参考値
退院後7日以内の予期せぬ緊急再入院割合 単位：％(100分の1)	2018	1.03	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 1.06
	2017	0.84	
	2016	1.44	
	2015	1.41	
	2014	1.41	





## ・ケアカンファレンス実施割合

### 【指標の意義】

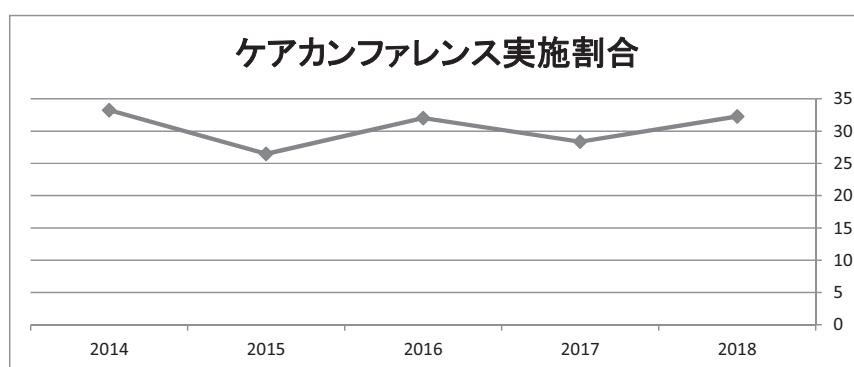
- ・この指標はカンファレンスの実施ではなく、カンファレンス記録を評価します。記録を残すことによりチームでの情報共有が促進され、プロセス・アウトカムを評価することが可能となります。

### 【指標の計算式、分母・分子の解釈】

分子 調査月退院患者のうち、入院期間中に1回以上医師・看護師・コメディカルによるカンファレンス記録のある患者

分母 退院患者数

指 標	年	値	参考値
ケアカンファレンス実施割合  単位：%(100分の1)	2018	32.28	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 45.90
	2017	28.34	
	2016	32.01	
	2015	26.47	
	2014	33.25	



## ・リハビリテーション実施割合

### 【指標の意義】

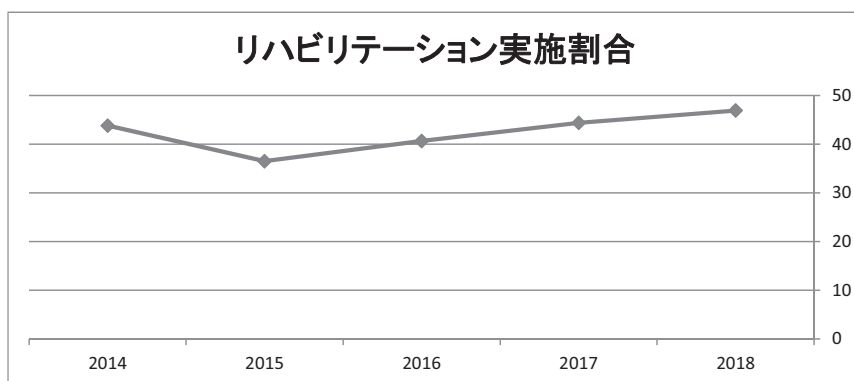
- ・廃用症候群や合併症を予防・改善し、早期社会復帰につなげます。

### 【指標の計算式、分母・分子の解釈】

分子 リハビリテーション(PT、OT、STいずれか)を実施した退院患者(在院日数3日以内は除く)

分母 退院患者数(在院日数3日以内は除く)

指 標	年	値	参考値
リハビリテーション実施率  単位：%(100分の1)	2018	46.89	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 52.14
	2017	44.36	
	2016	40.64	
	2015	36.51	
	2014	43.82	



## ・手術後48時間以内緊急再手術実施割合

### 【指標の意義】

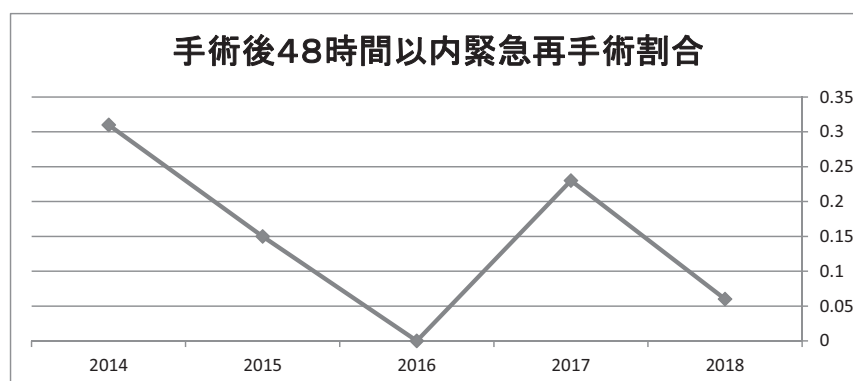
- ・外科系チームの医療の質の評価。

### 【指標の計算式、分母・分子の解釈】

分子 手術後48時間以内緊急再手術数

分母 入院手術数(入院手術を行った退院患者数)

指 標	年	値	参考値
手術後48時間以内緊急再手術実施割合  単位：％(100分の1)	2018	0.06	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 0.29
	2017	0.23	
	2016	0.00	
	2015	0.15	
	2014	0.31	



## ・救急車受入割合

### 【指標の意義】

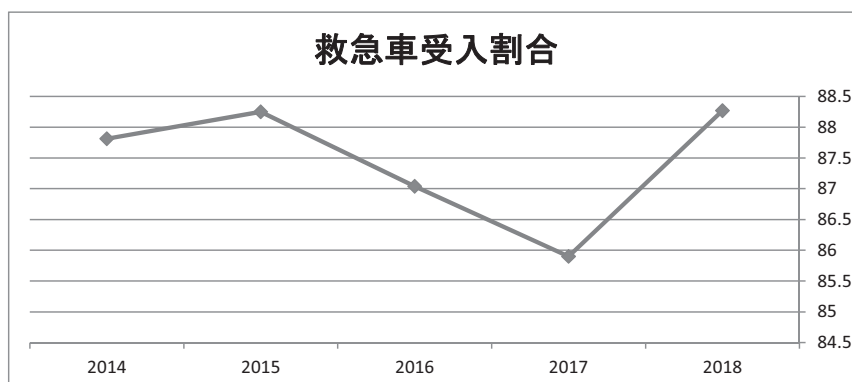
- ・救急車受け入れ割合は、救急隊からの搬送の要請に対して、どれだけの救急車の受け入れが出来たかを示す指標で、各病院の救急診療を評価する指標となります。地域医療への貢献を示す指標にもなります。

### 【指標の計算式、分母・分子の解釈】

分子 救急車受け入れ数

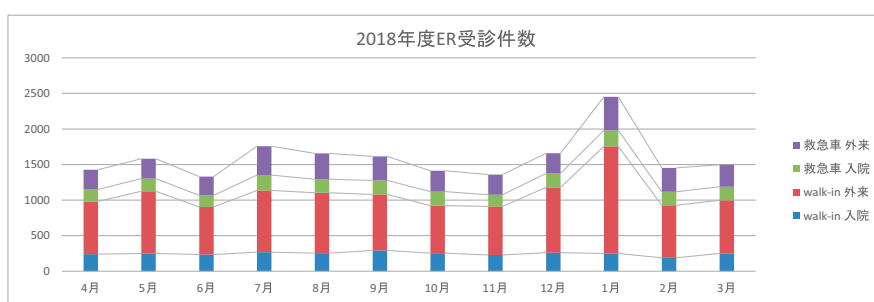
分母 救急要請数

指 標	年	値	参考値
救急車受入割合  単位：％(100分の1)	2018	88.27	全日本民医連加盟 300床以上病院 2018年 中央値 89.48
	2017	85.90	
	2016	87.04	
	2015	88.25	
	2014	87.81	



## 2018年度 ER統計

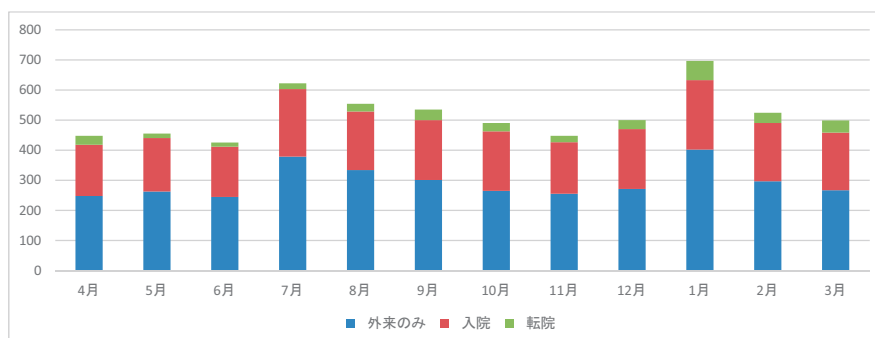
	受診 総数	救急車					walk-in			外 来			入 院		
		時間内	時間外	深夜	休日	計	時間内	時間外	計	walk-in	救急車	計	walk-in	救急車	計
4月	1,427	135	130	95	87	447	364	616	980	739	278	1,017	241	169	410
5月	1,581	127	136	92	101	456	398	727	1,125	875	279	1,154	250	177	427
6月	1,330	135	134	98	59	426	346	558	904	668	264	932	236	162	398
7月	1,758	219	179	110	114	622	449	687	1,136	867	407	1,274	269	215	484
8月	1,657	176	163	111	104	554	429	674	1,103	850	365	1,215	253	189	442
9月	1,641	165	137	97	136	535	380	699	1,079	787	338	1,125	292	197	489
10月	1,413	165	145	104	77	491	381	541	922	669	294	963	253	197	450
11月	1,358	146	122	82	98	448	348	562	910	681	282	963	229	166	395
12月	1,678	158	125	77	140	500	384	794	1,178	917	285	1,202	261	197	458
1月	2,451	218	170	97	212	697	373	1,381	1,754	1,504	470	1,974	250	227	477
2月	1,453	174	144	115	92	525	330	598	928	739	336	1,075	189	189	378
3月	1,496	165	144	105	84	498	361	637	998	749	308	1,057	249	190	439
計	19,243	1,983	1,729	1,183	1,304	6,199	4,543	8,474	13,017	10,045	3,906	13,951	2,972	2,275	5,247



## 救急搬送統計(ORION登録DATAより作成)

### 時間帯別搬送後転帰

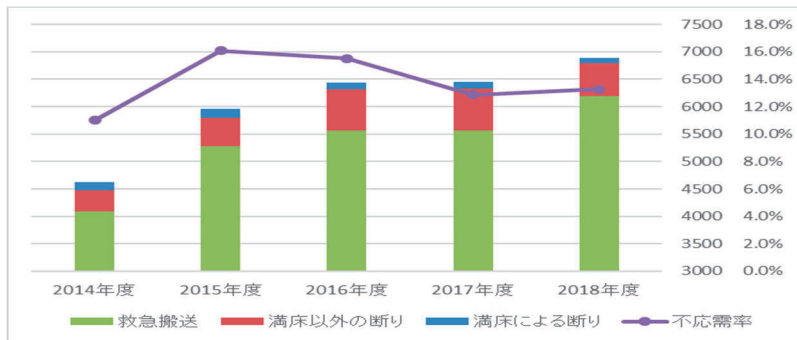
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日勤帯(9-17)	162	173	157	265	210	220	192	179	206	305	203	203	2,475
外来のみ	78	87	66	139	110	100	89	87	84	156	92	90	1,178
入院	68	80	81	115	88	94	89	75	99	104	88	90	1,071
転院	16	6	10	11	12	26	14	17	23	45	23	23	226
準夜帯(17-22)	112	113	110	162	141	132	117	111	121	178	131	127	1,555
外来のみ	58	67	68	100	90	73	68	66	68	101	71	68	898
入院	50	44	41	60	51	57	48	43	50	75	56	50	625
転院	4	2	1	2		2	1	2	3	2	4	9	32
深夜帯(22-9)	174	170	159	195	203	183	182	158	173	214	191	169	2,171
外来のみ	112	109	111	140	134	128	108	102	119	145	134	109	1,451
入院	52	54	45	49	56	48	61	54	50	52	50	52	623
転院	10	7	3	6	13	7	13	2	4	17	7	8	97
総計	448	456	426	622	554	535	491	448	500	697	525	499	6,201
外来のみ	248	263	245	379	334	301	265	255	271	402	297	267	3,527
入院	170	178	167	224	195	199	198	172	199	231	194	192	2,319
転院	30	15	14	19	25	35	28	21	30	64	34	40	355



2018年度 ER救急搬送資料

年月日	受入れ不可能な理由						不可 件数	搬送 件数	要請 件数	不応 需率	ベッド満 床による 断り割合	救急搬送 即入数	救急搬送 即入率
	①	②	③	④	⑤	⑥							
4月	3	9	4	20	7	10	61	447	508	12.0%	1.8%	169	37.8%
5月		3	6	19	5	11	54	456	510	10.6%	0.6%	177	38.8%
6月	3	4	3	14	5	16	57	426	483	11.8%	0.8%	162	38.0%
7月	6	5	8	14	4	19	66	622	688	9.6%	0.7%	215	34.6%
8月	5	10	6	15	4	10	64	554	618	10.4%	1.6%	189	34.1%
9月	3	12	6	10	3	13	62	535	597	10.4%	2.0%	197	36.8%
10月	7	2	6	6	4	7	38	491	529	7.2%	0.4%	197	40.1%
11月	2	1	3	13		14	38	448	486	7.8%	0.2%	166	37.1%
12月	3	2	8	16	4	10	52	500	552	9.4%	0.4%	197	39.4%
1月	13	19	18	16	3	8	103	697	800	12.9%	2.4%	227	32.6%
2月		6	5	12	1	8	38	525	563	6.7%	1.1%	189	36.0%
3月	2	12	9	10	3	10	50	498	548	9.1%	2.2%	190	38.2%
計	47	85	82	165	43	136	683	6,199	6,882	9.9%	1.2%	2,275	36.7%

2017年度	51	125	100	247	54	162	894	5,562	6,456	13.8%	1.9%	2,116	38.0%
2016年度	42	122	129	217	63	161	864	5,569	6,433	13.4%	1.9%	2,007	36.0%
2015年度	45	169	90	120	39	101	679	5,281	5,960	11.4%	2.8%	1,647	31.2%
2014年度	48	149	44	63	23	112	542	4,084	4,626	11.7%	3.2%	1,588	38.9%



受け入れ不可能な理由	
①	手術中 患者対応中
②	ベット満床
③	処置困難(整形処置・吐血等)
④	専門外(脳外/交通事故/婦人科)
⑤	小児科対応が必要なため
⑥	その他理由 不明

# 部門別活動状況





# 手術室

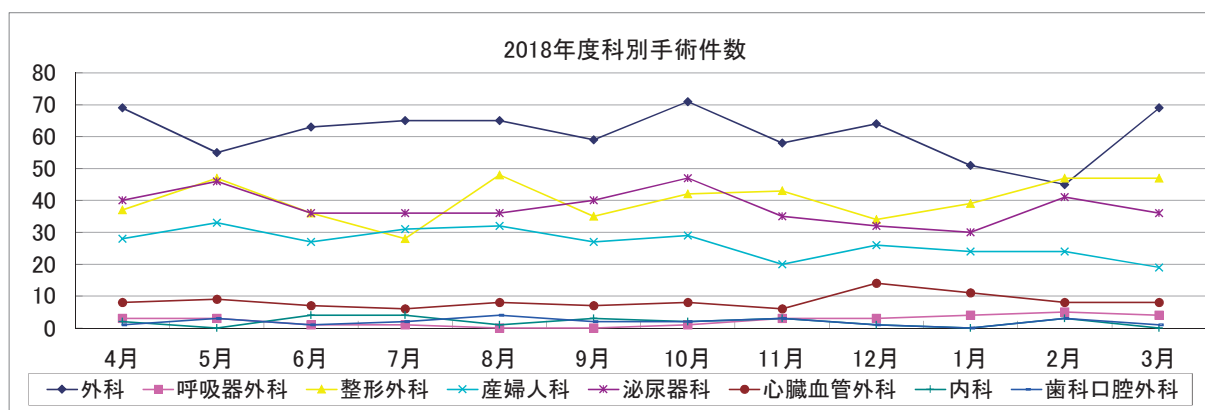
科別・入院別・麻酔別手術件数

科 別	入院・外来別			麻酔別		
	外来	入院	合計	全麻	腰麻	他麻酔
外科	67	667	734	585	19	130
呼吸器外科	0	28	28	28	0	0
整形外科	61	422	483	321	73	89
産婦人科	1	319	320	171	142	7
泌尿器科	30	425	455	121	280	54
心臓血管外科	0	100	100	39	0	61
内科	0	23	23	9	2	12
歯科口腔外科	0	23	23	22	0	1
眼科	0	6	6	0	0	6
総 計	159	2,013	2,172	1,296	516	360

科別手術件数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	月平均
外科	69(22)	55(16)	63(12)	65(15)	65(10)	59(14)	71(19)	58(10)	64(16)	51(13)	45(9)	69(16)	734 (172)	61.2
呼吸器外科	3(0)	3(0)	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	3(0)	3(0)	4(0)	5(0)	4(1)	28 (1)	2.3
整形外科	37(3)	47(3)	36(0)	28(0)	48(1)	35(2)	42(2)	43(4)	34(0)	39(2)	47(1)	47(1)	483 (19)	40.3
産婦人科	28(9)	33(6)	27(6)	31(9)	32(3)	27(4)	29(5)	20(4)	26(4)	24(3)	24(5)	19(2)	320 (60)	26.7
泌尿器科	40(2)	46(3)	36(3)	36(4)	36(4)	40(7)	47(5)	35(4)	32(3)	30(1)	41(2)	36(3)	455 (41)	37.9
心臓血管外科	8(1)	9(0)	7(0)	6(0)	8(0)	7(1)	8(0)	6(0)	14(0)	11(1)	8(1)	8(1)	100 (5)	8.3
内科	2(0)	0(0)	4(0)	4(0)	1(0)	3(1)	2(1)	3(0)	1(0)	0(0)	3(0)	0(0)	23 (2)	1.9
歯科口腔外科	1(0)	3(0)	1(0)	2(0)	4(0)	2(0)	2(0)	3(0)	1(0)	0(0)	3(0)	1(0)	23 (0)	1.9
眼科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	4(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	6 (0)	0.5
合 計	188(37)	196(28)	175(21)	173(28)	194(18)	173(29)	202(32)	175(22)	175(23)	159(20)	178(18)	184(24)	2,172 (300)	181.0

\* ( ) 緊急手術数



### 年度別手術件数

	外科	整形外科	呼吸器外科	心臓血管外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	内科	歯科口腔外科	合計
2014年度	621	252	—	108	219	342	310	72	—	1,924
2015年度	632	348	—	131	305	332	130	73	—	1,951
2016年度	662	386	5	120	322	383	—	91	14	1,983
2017年度	666	424	44	101	357	367	—	70	27	2,056
2018年度	734	483	28	100	320	455	6	23	23	2,172

### 2018年度 緊急手術件数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
外科	22	16	12	15	10	14	19	10	16	13	9	16	172
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
整形外科	3	3	0	0	1	2	2	4	0	2	1	1	19
産婦人科	9	6	6	9	3	4	5	4	4	3	5	2	60
泌尿器科	2	3	3	4	4	7	5	4	3	1	2	3	41
心臓血管外科	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	5
内科	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	37	28	21	28	18	29	32	22	23	20	18	24	300

# 外科手術件数

( )内は、腹腔鏡下・腹腔鏡補助下・胸腔鏡下手術件数

臓器・部位	主要手術	2017年度	2018年度
甲状腺・副甲状腺	甲状腺切除術	9	13
	上皮小体過形成・摘出術	3	
乳腺	乳房切除術	18	21
	乳房部分切除術	30	27
	乳管・乳腺腫瘍部分切除術	1	
	乳腺腫瘍摘出術	10	14
	植皮術		1
リンパ管・リンパ節	骨盤内リンパ節群郭清術		
	リンパ節腫瘍摘出術	1	1
胃・十二指腸	胃切除術	23 (13)	10 (7)
	胃全摘術	9 (3)	12 (3)
	十二指腸切除術		
	胃空腸バイパス術	3	8 (5)
	胃縫合術（充填・被覆を含む）	9 (8)	14 (11)
小腸	小腸切除術	12 (6)	10 (4)
	小腸バイパス術		
大腸	大腸切除術	91 (74)	86 (67)
	人工肛門造設術	5 (4)	10 (9)
	人工肛門閉鎖術	8	9 (2)
	直腸脱手術	4 (2)	7 (5)
	回腸結腸バイパス術		
	経肛門的直腸腫瘍摘出術		3
肝臓	肝臓切除術	6	10
	肝嚢胞切開術		1 (1)
	エタノール注入療法	6	
	ラジオ波焼灼療法	23 (8)	18 (5)
	肝管空腸吻合術	1	
膵臓	膵頭十二指腸切除術	2	2
	膵体尾部切除術	2	4
	膵管空腸吻合術		
胆嚢	胆嚢摘出術	81 (79)	124 (123)
虫垂	虫垂切除術	48 (48)	64 (64)
空腸・回腸・盲腸	癒着症手術	19 (14)	18 (12)
腹壁・ヘルニア	ヘルニア修復術	132 (108)	122 (84)
腹膜・後腹膜・腸間膜・網膜	骨盤内臓全摘術	4 (2)	2 (1)
	後腹膜腫瘍摘出術		
	腹膜炎手術	6 (5)	5
肛門	痔核切除術	10	4
	痔瘻切除術	7	5
	脱肛手術		
	硬化療法	1	1
	肛門腫瘍切除術	2	2
	肛門周囲膿瘍切開術		
	その他		
静脈	静脈瘤手術	35	26
その他	皮下腫瘍摘出術	15	12
	液窩筋層内腫瘍摘出術		
	その他	56 (3)	66 (12)
総計		692 (377)	732 (415)

## 産婦人科手術件数

### 手術内訳

腹式	206
膣式	105
腹腔鏡	116
子宮鏡	15
開腹への移行	2

### 産科実績

経膣分娩		650
帝王切開術	予定	69
	緊急	49
不妊手術		14
異所性妊娠手術		4

## 婦人科手術実績

臓器・部位	術名	2018年度	
子宮	帝王切開術	106	
	シロッカー氏頸管縫縮術	1	
	マクドナルド氏頸管縫縮術	2	
	産後出血・子宮動脈塞栓術	0	
	産後出血・子宮体部縫縮内腔圧迫術	0	
	子宮内反症・子宮修復術	1	
	子宮破裂・子宮壁修復術	0	
	単純子宮全摘術	98	
	準広汎子宮全摘術	2	
	広汎子宮全摘術	3	
	膣上部子宮全摘術	0	
	筋腫核出術	14	
	子宮筋腫・子宮動脈塞栓術	0	
	腺筋症切除術	0	
	子宮筋層内内膜症嚢胞切除術	0	
	帝王切開癒着部切除術	0	
	子宮筋層内妊娠・胎嚢除去術	0	
	凹錐切除術	16	
	子宮頸部腫瘍切除術	1	
	頸管ポリープ切除術	2	
	疣贅切除術	1	
	内膜搔爬術	1	
	有茎性粘膜下筋腫切除術	0	
	内膜ポリープ切除術	11	
	子宮中隔切除術	0	
	子宮内腔癒着剝離術	0	
	子宮内容除去術	0	
	人工妊娠中絶	0	
	胎児縮小術	0	
	卵巣	卵巣嚢腫・嚢胞切除術	34
		卵巣切除術	135
卵巣部分切除術		1	
卵巣子宮内膜症・焼灼術		0	
卵巣妊娠・胎嚢除去術		0	
多孔術		3	
傍卵巣嚢腫切除術	2		
卵管	卵管切除術	235	
	卵管線状切開術	0	
	卵管妊娠・胎嚢除去術	0	
	卵管采周囲癒着剝離術	2	
	不妊手術・卵管焼灼術	22	
	不妊手術・卵管結紮術	6	
膣	膣前壁形成術	5	
	膣後壁形成術	5	
	膣閉鎖術	0	
	膣壁裂傷縫合術	1	
	膣壁嚢腫・嚢胞切除術	1	
	膣壁筋腫核出術	0	
	膣壁疣贅切除術	0	
	膣壁腫瘍切除術	1	
外陰部	造袋術	0	
	外陰部嚢腫・嚢胞切除術	2	
	外陰部膿瘍切除術	1	
	外陰部疣贅切除術	0	
	会陰裂傷縫合術	0	
腹腔内	癒着剝離術	25	
	腹膜子宮内膜症・除去術	0	
	腹膜子宮内膜症・焼灼術	0	
	腹膜妊娠・胎嚢除去術	0	
	腹膜腫瘍切除術	0	
	腹膜膿瘍切除術	0	
	大網切除術	3	
大網部分切除術	4		
リンパ節	骨盤リンパ節郭清術	15	
	大動脈リンパ節郭清術	1	



## 整形外科手術件数

部 位	病 名	術 式	2017年度	2018年度
上肢	上肢骨折	骨接合術	33	47
	関節炎	関節鏡手術		1
	手根管症候群	手根管開放手術	9	8
	腱鞘炎・弾発指	腱鞘切開術	29	26
	壊疽・壊死 骨髓炎	四肢切断術	3	1
下肢	変形性股関節症 他	人工股関節全置換術	14	14
	変形性膝関節症	人工膝関節全置換術	38	30
	下肢骨折	骨接合術	59	64
		人工骨頭挿入術	31	38
	壊疽・壊死 骨髓炎	四肢切断術	11	16
	関節炎 半月板損傷	関節鏡手術	10	6
アキレス腱断裂	アキレス腱縫合術		3	
脊椎	頸椎症性脊髄症 他	椎弓切除・形成術	25	27
		脊椎固定術	1	2
	腰椎椎間板ヘルニア	髓核摘出術	4	17
		脊椎固定術	3	1
	腰部脊柱管狭窄症 他	椎弓切除・形成術	29	30
		脊椎固定術	36	41
脊椎椎体骨折	脊椎固定術 バルーン椎体形成術	5 1	6 4	
胸髄症 他	椎弓切除・形成術	4	2	
その他	その他	2	7	
その他		その他	80	98
総 計			427	489

## 心臓血管外科手術件数

臓器・部位	術 名	2017年度	2018年度
弁	弁置換術・形成術	13	35
	心室瘤切除術	1	1
冠動脈	冠動脈バイパス移植術	9	7
	冠動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）	4	2
大血管	胸部大動脈人工血管置換術	2	3
	腹部大動脈人工血管置換術	4	
その他血管	下肢動脈バイパス術	3	6
	動脈内膜摘出術		
その他	内シャント設置術	55	51
	下肢静脈瘤手術		
	不整脈手術	7	12
	その他	16	10
総 計		114	127

泌尿器科手術件数(術式別件数)

\* 2018年1月～12月の術式別手術件数

臓器・部位	術名	2018年
腎・後腹膜	単純腎摘出術 (腹腔鏡下)	2
	根治的腎摘出術 (腹腔鏡下)	3
	腎尿管摘出術 (腹腔鏡下)	12
	腎尿管摘出術 (開腹)	1
	PNS留置・交換	10
尿管・尿路変更	経尿道的碎石術 (TUL)	83
	TAP	6
	尿管カテーテル留置・交換	75
	逆行性腎盂造影	15
	尿管拡張	3
	尿管生検	2
	代用膀胱	1
	回腸導管造設	2
皮膚瘻	1	
膀胱	TURis-Bt	66
	TURis-Bn	2
	膀胱碎石(レーザー使用)	6(1)
	凝血塊除去	8
	膀胱全摘出術	4
	水圧拡張	1
	膀胱瘻留置	6
	膀胱修復	2
前立腺・尿道	TURis-P	26
	前立腺摘出術	1
	前立腺生検(Bio jetによる)	93(6)
	内尿道切開	3
男性生殖器	環状切開	10
	背面切開	1
	減張切開	1
	陰嚢水腫根治術	8
	除精術	9
	高位精巣摘出術	1
	精巣固定(捻転による)	2
	陰茎腫瘍切除	1
	陰茎切断	1
コンジローマ焼灼	1	
その他	ESWL	38
	骨盤内リンパのう胞穿刺	1
	リンパ節生検	1
	フルニエ	2
	創傷処置	1
計		512
全身麻酔		109
緊急手術		47

## 呼吸器外科手術件数

( )内は、腹腔鏡下手術件数

臓器・部位	術名	2017年度	2018年度
肺	肺切除術	24 (23)	14 (14)
	気胸手術	15 (15)	8 (8)
縦隔	縦隔腫瘍摘出術	1	3 (2)
その他	縦隔鏡検査	4	0
	その他	1	5 (5)
総計		45 (38)	30 (29)

## 消化器内科手術件数

術名	2017年度	2018年度
内視鏡検査 上部	7,743	7,978
内視鏡検査 下部	2,437	2,472
粘膜層剥離術(ESD) 胃・食道・大腸	105	97
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	203	249
超音波内視鏡(EUS)	22	20
内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	15	24

## 呼吸器・総合内科手術件数

臓器・部位	術名	2017年度	2018年度
気管支	気管支熱形成術	12	3
その他	CAPD留置・抜去	5	3
		5	3
総計		22	9

## 腎臓内科手術件数

術式	2017年度	2018年度
腎生検	3	8
シャント手術(内シャント設置術、内シャント血栓除去術)	56	52
PTA手術(経皮的シャント拡張術・血栓除去術)	62	87
腹膜透析手術(連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術)	2	3
総計	123	150

## 麻酔科管理の麻酔件数

麻酔方法	2017年度	2018年度
全身麻酔	812	972
全麻＋硬麻	323	324
腰椎麻酔(ルンバール)		7
硬膜外麻酔	6	6
無痛分娩硬膜外チューブ留置術	1	5
伝達麻酔		1
局所麻酔	2	5
総計	1,144	1,320

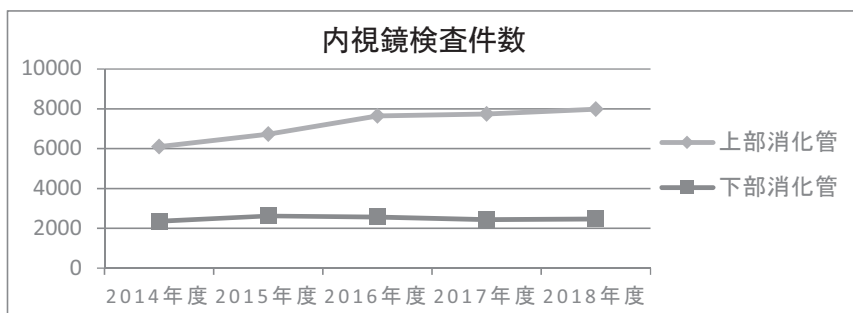
## 歯科口腔外科手術件数

術名	2017年度	2018年度
<外来手術>		
抜歯術（乳歯抜歯、前歯抜歯、臼歯抜歯含む）	304	206
難抜歯術（ヘミセクション含む）	151	126
埋伏歯抜歯術（過剰歯含む）	243	242
良性腫瘍摘出術（粘液嚢胞を含む）	10	12
口腔顎顔面創傷処理	10	4
口腔内消炎術	12	4
歯根嚢胞摘出術・歯根端切除術	39	39
上顎洞口腔瘻閉鎖術	1	0
歯牙脱臼・歯槽骨骨折・歯牙再植術・整復固定術	8	5
歯の移植術	0	0
顎骨骨髓炎消炎療法・腐骨除去術	10	9
小帯短縮症切離移動術	1	0
唾石症摘出術	0	1
顎骨嚢胞摘出術・顎骨腫瘍摘出術	5	1
顎関節脱臼非観血的整復術	32	18
ガマ腫開窓術	1	0
合計	722	667
<入院手術>		
抜歯術（乳歯抜歯、前歯抜歯、臼歯抜歯含む）	24	37
難抜歯術（ヘミセクション含む）	10	17
埋伏歯抜歯術（過剰歯含む）	18	18
良性腫瘍摘出術（粘液嚢胞を含む）	3	0
口腔内消炎術	7	1
口腔外消炎術	0	0
歯根嚢胞摘出術・歯根端切除術	23	17
上顎洞口腔瘻閉鎖術	1	1
顎骨骨髓炎消炎療法・腐骨除去術	4	1
顎骨嚢胞摘出術・顎骨腫瘍摘出術	13	17
合計	139	109
全身麻酔下手術件数	21	22
静脈内鎮静法併用局所麻酔下手術件数	5	7
周術期口腔機能管理件数	977	1,282

# 内視鏡検査室

## 内視鏡検査件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
上部消化管	6,101	6,729	7,650	7,743	7,978
下部消化管	2,357	2,623	2,562	2,437	2,472



## 内視鏡検査数内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経口内視鏡検査	406	394	450	448	423	402	480	450	452	403	434	470	5,212
経鼻内視鏡検査	68	78	107	99	111	92	116	109	106	98	105	118	1,207
鎮静内視鏡検査	112	107	131	118	124	101	128	120	104	102	117	141	1,405
胃粘膜下層剥離術(ESD)	6	7	8	4	3	4	6	4	4	3	4	7	60
食道粘膜下層剥離(ESD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
大腸粘膜下層剥離(ESD)	3	6	4	4	2	1	0	6	4	0	2	3	35
静脈瘤結紮術(EVL)	3	4	3	1	0	2	1	2	1	5	1	1	24
EMR・焼灼 その他処置	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
超音波内視鏡(EUS)	0	2	1	1	1	4	4	1	0	2	2	2	20
胃瘻(新規・ 交換含む)	4	6	2	4	4	1	7	6	4	3	2	2	45
下部内視鏡 検査(TCS)	190	208	185	146	168	132	181	196	121	133	161	192	2,013
下部内視鏡 検査(SCS)	31	45	35	47	38	29	30	33	32	30	42	32	424
胆膵系内視鏡 検査(ERCP)	8	19	30	20	21	25	25	18	20	31	20	12	249
気管支内視鏡 検査(嚥下)	10	7	4	4	7	13	14	9	12	5	15	16	116



# 薬剤科

## 2018年度 業務実績

集計項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
処方箋枚数	合計	7,661	8,007	7,348	7,592	7,845	7,289	7,271	7,323	7,810	8,543	6,827	7,537	91,053	7,588
	入院	6,732	7,015	6,605	6,687	6,908	6,474	6,555	6,523	6,801	6,782	5,997	6,720	79,799	6,650
	外来	929	992	743	905	937	815	716	800	1,009	1,761	830	817	11,254	938
注射処方箋枚数	入院	6,287	6,677	6,408	6,261	6,173	6,209	6,483	6,049	6,491	6,758	5,803	6,409	76,008	6,334
院外処方箋	発行枚数	3,475	3,460	3,380	3,281	3,483	3,047	3,423	3,172	3,209	3,045	3,003	3,342	39,320	3,277
	発行率(%)	78.91	77.72	81.98	78.38	78.80	78.90	82.70	79.86	76.08	63.36	78.35	80.36	935	77.9
薬剤管理指導件数	薬剤管理指導1・2合計	1,042	1,130	1,207	1,204	1,187	913	1,181	1,098	976	1,007	995	1,000	12,940	1,078
	薬剤管理指導1(安全管理)	678	686	786	788	755	566	763	679	653	634	624	644	8,256	688
	薬剤管理指導2(1以外)	364	444	421	416	432	347	418	419	323	373	371	356	4,684	390
	麻薬管理	8	15	24	23	19	13	12	19	12	7	10	20	182	15
	退院指導	45	38	66	73	57	56	46	59	38	34	48	39	599	50

## 2018年度 化学療法剤調剤実績

化学療法剤調剤数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
外来	がん患者指導管理加算	41	32	27	34	35	40	27	17	17	21	27	25	343	29
	無菌製剤処理料1(45)	115	133	115	92	98	95	113	111	105	101	99	110	1,287	107
	無菌製剤処理料1(180)	8	7	5	4	10	6	5	7	5	7	2	2	68	6
	無菌調製件数 合計	123	140	120	96	108	101	118	118	110	108	101	112	1,355	113
入院	無菌製剤処理料1(45)	12	16	25	23	27	18	24	18	13	24	26	19	245	20
	無菌製剤処理料1(180)	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1	0	6	1
	無菌製剤処理料2(40)	128	152	186	167	184	130	191	241	196	188	171	167	2,101	175
	無菌調製件数 合計	141	168	211	192	211	148	215	259	210	213	198	186	2,352	196
無菌調製件数 総計		264	308	331	288	319	249	333	377	320	321	299	298	3,707	309

## 2018年度 持参薬鑑別実績

持参薬鑑別数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
入院	443	473	446	499	477	444	464	474	464	437	423	448	5,492	458

# 臨床検査科・病理科

## 生理検査項目別件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
心電図	11,367	12,181	12,912	13,221	14,585
心臓エコー	4,084	4,121	4,187	4,280	4,602
血管エコー		1,284	1,408	1,528	1,749

## 細菌検査項目別件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
血液培養	6,647	6,920	6,989	6,740	7,655
細菌総数	13,239	12,990	12,370	12,665	14,375
抗酸菌		750	766	1,404	765

## 病理関連件数

検査項目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
病理組織診断(手術材料、生検材料を含む)	8,061	8,051	8,395	8,168	8,008
術中迅速検査	76	91	112	143	141
一般細胞診	4,824	4,790	4,301	4,204	4,021
婦人科細胞診	7,668	8,521	8,505	7,733	7,873
病理解剖*(自院分)	17(10)	15(9)	17(13)	19(13)	16(9)

## 加算関連件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
時間外 緊急院内検査加算	3,636	2,631	4,755	4,988	5,282
外来迅速検体加算	13,265	12,878	15,125	12,344	36,862
輸血管料 I (輸血適正使用加算含)	436	437	536	537	618

# 放射線科

## 2018年度 項目別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
一般撮影合計	2,660	2,753	2,634	2,632	2,700	2,550	2,762	2,790	2,792	3,055	2,701	3,043	33,072	2,756
一般撮影(外来)	1,168	1,251	1,098	1,118	1,110	1,109	1,198	1,156	1,215	1,322	1,177	1,278	14,200	1,183
一般撮影(入院)	1,492	1,502	1,536	1,514	1,590	1,441	1,564	1,634	1,577	1,733	1,524	1,765	18,872	1,573
CT	1,590	1,616	1,600	1,623	1,666	1,580	1,800	1,675	1,579	1,810	1,608	1,777	19,924	1,660
MRI	417	431	438	393	432	383	461	435	376	406	406	428	5,006	417
RI	57	59	48	55	49	40	52	43	37	50	39	54	583	49
乳房撮影(保険)	44	52	73	53	51	63	50	62	58	47	59	66	678	57
超音波	701	674	697	696	737	660	744	687	631	615	691	721	8,254	688
骨密度	138	102	114	110	117	106	120	114	108	105	123	138	1,395	116
TV合計	46	61	71	65	70	77	73	65	60	71	61	58	778	65
(上部消化管)	9	8	3	3	8	10	14	8	5	5	8	5	86	7
(注腸)	7	4	8	9	8	5	4	4	8	5	6	7	75	6
尿路造影	8	11	9	14	7	11	10	10	9	12	12	13	126	11
ERCP	8	19	30	20	21	25	25	18	20	31	20	12	249	21
断層(トモシンセシス)											1	1	2	1
(その他)	14	19	21	19	26	26	20	25	18	18	14	20	240	20
血管造影合計	130	113	136	127	145	144	159	119	128	114	123	147	1,585	132
(腹部診断・治療)		3	2	1	5	3	3			1	3	1	22	2
子宮動脈塞栓術							1						1	1
気管支動脈塞栓術										1			1	1
シャンPTA・造影	8	5	7	9	10	9	7	8	12	7	5	7	94	8
ポート留置・抜去	3	1	3	3	5	5	2	6	3	4	4	5	44	4
その他	3	3	8	4	3	7	7	2	6	4	5	4	56	5
循環器撮影	116	101	116	110	122	120	139	103	107	97	106	130	1,367	114
検診(胸部)	256	768	954	827	729	720	936	1,003	781	611	751	1,036	9,372	781
検診(骨密度)	19	23	20	33	34	14	56	47	34	33	24	32	369	31
検診(超音波)	144	148	222	231	298	195	320	306	268	228	227	280	2,867	239
検診(乳がん)	74	102	129	135	157	113	190	203	159	123	159	182	1,726	144
検診(堺市乳がん)	66	108	146	125	124	140	219	218	167	123	189	271	1,896	158
検診(胃透視)	39	159	182	182	201	90	173	179	140	105	120	124	1,694	141

## 年度別検査件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
一般撮影合計	26,872	29,417	29,760	31,756	33,072
一般撮影(外来)	14,918	17,660	17,559	14,360	14,200
一般撮影(入院)	11,654	11,757	12,199	17,396	18,872
CT	14,645	16,818	17,221	18,520	19,924
MRI	3,999	4,397	4,630	4,867	5,006
RI	542(老)	704	616	643	583
乳房撮影(保険)	1,290	1,179	1,110	635	678
超音波	8,478	8,325	7,788	7,937	8,254
骨密度	1,175	1,127	1,121	1,306	1,395
TV合計	428	519	605	616	778
(上部消化管)	60	72	64	66	86
(注腸)	91	111	83	63	75
尿路造影	165	141	128	112	126
ERCP	148	128	157	203	249
断層(トモシンセシス)	0	5	17	6	2
(その他)	112	195	156	166	240
血管造影合計	1,294	1,535	1,613	1,674	1,585
(腹部診断・治療)	45	43	38	35	22
子宮動脈塞栓術					1
気管支動脈塞栓術					1
チャンPTA・造影	33	35	59	64	94
ポート留置・抜去	41	29	41	46	44
その他	50	20	62	55	56
循環器撮影	1,125	1,408	1,413	1,474	1,367
検診合計	10,755	12,830	14,510	16,465	17,924
検診(胸部)	6,047	7,156	8,103	8,585	9,372
検診(骨密度)	323	356	355	357	369
検診(超音波)	1,967	2,331	2,749	2,823	2,867
検診(乳がん)	1,122	1,361	1,629	1,627	1,726
検診(堺市乳がん)	524	1,235	1,224	1,554	1,896
検診(胃透視)	1,296	1,626	1,777	1,519	1,694

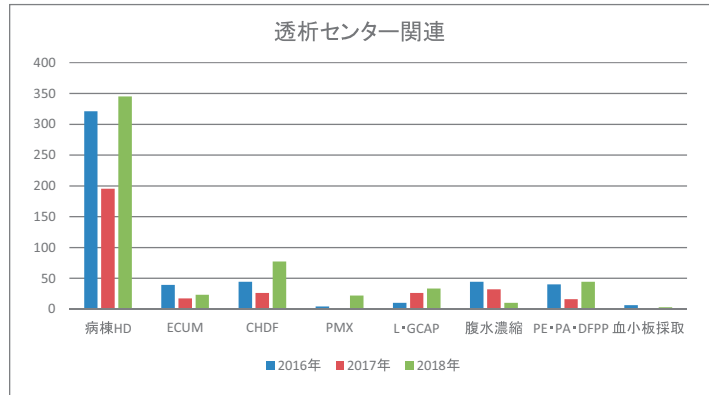
## 循環器内科

### 検査・手術件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
CAG(検査のみ)	668	827	751	754	704
PCI	314	395	470	506	424
PTA	52	65	36	48	30
PM新規	32	36	34	31	43
PM交換	5	15	14	11	17
ABL	14	28	44	51	90
ICD・CRT	13	8	13	10	15
IABP	4	9	13	14	11
PCPS	2	3	3	6	6
その他	25	26	52	71	42
合計	1,123	1,402	1,415	1,482	1,382

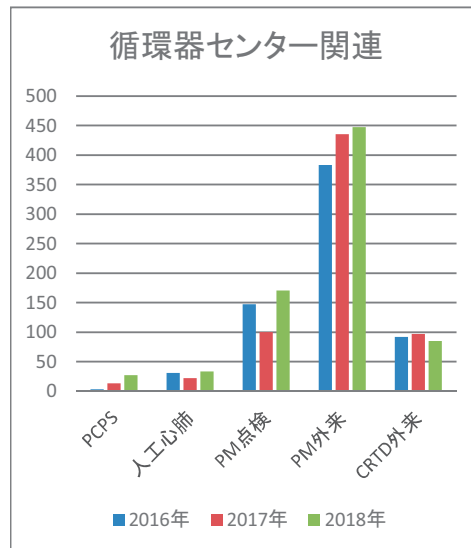
## 透析センター

	2016年	2017年	2018年
病棟HD	321	195	345
ECUM	39	17	23
CHDF	44	26	77
PMX	4	1	22
L・GCAP	10	26	33
腹水濃縮	44	32	10
PE・PA・DFPP	40	16	44
血小板採取	6	1	3



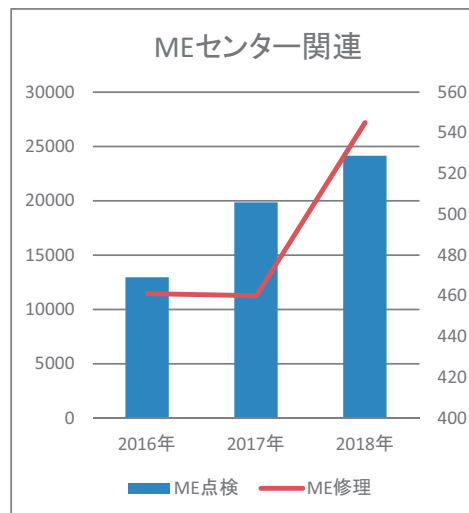
## 循環器センター

	2016年	2017年	2018年
PCPS	3	13	27
人工心臓	31	22	33
PM点検	147	100	170
PM外来	383	435	447
CRTD外来	92	97	85



## MEセンター

	2016年	2017年	2018年
ME点検	12,946	19,815	24,140
ME修理	461	460	545





## 2018年度 臨床工学科 啓蒙活動

回	開催日	内 容	依頼部署	講 師	合計
1	4 / 10	除細動	10F	河原・林	15
2	5 / 1	呼吸器	9 F	野田	15
3	5 / 18	呼吸器	7 F	河原	18
4	5 / 24	呼吸器	9 F	河原	6
5	6 / 20	呼吸器	7 F	河原	6
6	6 / 29	呼吸器	12F	赤間・河原	13
7	7 / 4	セルセーバー	手術	野田	12
8	7 / 11	ネーザル	7 F	植田	9
9	7 / 23	呼吸器	13F	植田	10
10	7 / 26	呼吸器	11F	増井	12
11	8 / 10	輸液ポンプ	12F	河原	13
12	9 / 5	人工心肺	手術	赤間	10
13	11 / 2	呼吸器	HCU	河原	6
14	11 / 14	トリロジー	9 F	赤間	12
15	11 / 21	ペースメーカー	7 F	林	9
16	1 / 21	ネーザル	9 F	増井	8
17	1 / 31	サイパップ	9 F	河原	7
18	2 / 4	サイパップ	6 F	河原	14
19	2 / 25	ペースメーカー	7 F	野田	11
20	3 / 15	ペースメーカー	13F	増井	14
21	3 / 29	サイパップ	ME	河原	4
					224

# リハビリテーション科

## 2018年度 のべ患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	5,549	5,947	5,842	5,452	5,758	5,079	5,874	5,638	5,348	5,510	5,235	5,848	67,080

## 2018年度疾患別のべ患者数

	2018年度
脳血管リハ	10,128
廃用症候群リハ	21,951
運動器リハ	15,052
呼吸器リハ	7,699
心大血管リハ	6,353
がんリハ	1,532
合計	62,715

## 回リハ病棟 提供単位数(単位)

2015年度平均	4.87
2016年度平均	6.12
2017年度平均	6.34
2018年度平均	5.72

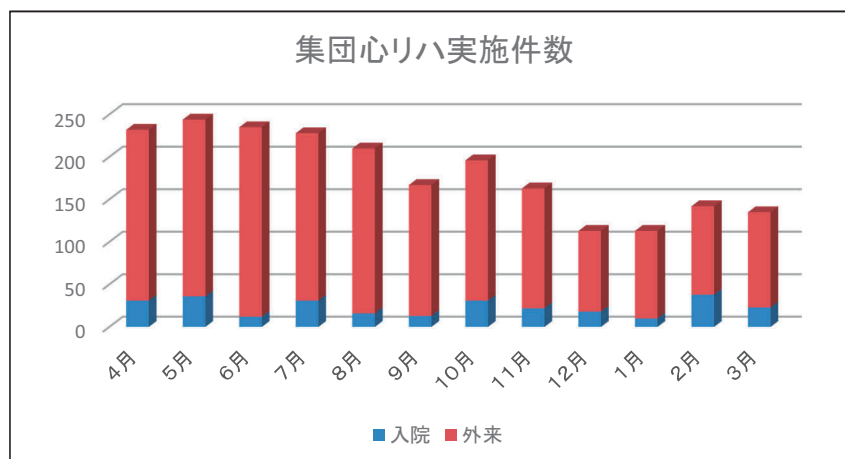
## 回リハ病棟 FIM改善率(点)

2015年度平均	15.9
2016年度平均	20.5
2017年度平均	22.7
2018年度平均	20.0

急性期早期算定率 初期加算(14日以内)61.0% 早期加算(30日以内)82.9%

## 集団心リハ実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	31	36	12	31	16	13	31	22	18	10	38	23	281
外来	201	208	223	197	194	154	165	141	95	103	104	112	1,897



# 栄養管理科

## 2018年度 食料別給食数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常食	1,479	1,674	1,452	1,250	1,729	1,929	1,696	1,446	1,627	1,385	1,200	1,252	18,119
流動食	176	181	133	181	122	122	195	142	191	175	104	151	1,873
特別食	24,797	26,063	24,977	25,176	25,777	24,381	24,968	25,098	25,283	26,052	24,185	26,606	303,363
計	26,452	27,918	26,562	26,607	27,628	26,432	26,859	26,686	27,101	27,612	25,489	28,009	323,355
前年数	25,773	26,451	25,157	26,606	26,341	25,442	25,729	24,613	26,287	28,077	25,549	27,167	313,192
前年比	103%	106%	106%	100%	105%	104%	104%	108%	103%	98%	100%	103%	103%

## 年度別 給食数

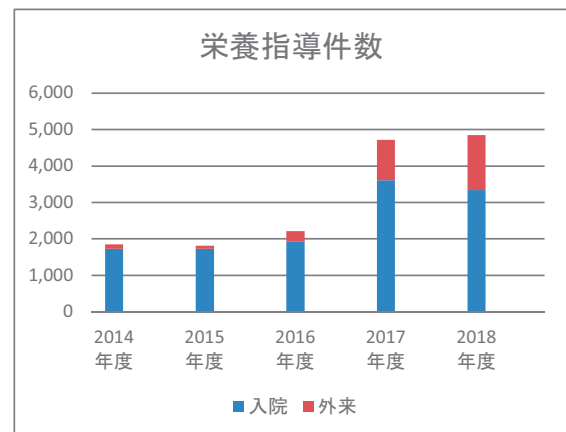
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
常食	12,823	18,681	17,228	18,225	18,119
流動食	1,671	2,344	2,171	1,754	1,873
特別食	264,323	306,441	287,534	293,213	303,363
合計	278,817	306,441	308,720	313,192	323,355

## 喫食アンケート

食事アンケート — 偶数月 年6回実施  
 喫食調査 — 年1回実施

## 栄養指導件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
入院	1,728	1,730	1,929	3,609	3,336
外来	125	87	279	1,111	1,517
合計	1,853	1,817	2,208	4,719	4,853



## 集団栄養指導件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
教育入院 患者数	96	99	85	80	88
脳卒中教室 回数	5	5	3	—	1
月1回 患者数	52	70	50	—	14

※脳卒中教室は2018年3月より再開

両親学級 — 月1回

## 栄養管理の機能

指標項目名	項目詳細	分子	分母	2018年度
栄養摂取方法の状況	経口摂取患者割合	断面調査 経口摂取患者数	断面調査 入院患者	83%
	経腸栄養患者割合	断面調査 経腸栄養患者数	断面調査 入院患者	3%
喫食率	5割以下率	喫食率が5割以下の患者数	喫食調査対象者数	31%
	絶食率→7日以上	7日以上の絶食患者数	喫食調査対象者数	6%

# サポートセンター

## 患者様相談室 相談件数

	相談件数	相談方法		対応処理方法					
		電話対応	窓口対応	相談	問い合わせ	苦情・クレーム	案内のみ	その他	他部署へ
4月	454	178	276	65	32	6	206	129	16
5月	403	214	189	57	47	4	138	143	14
6月	471	241	230	64	42	4	162	173	26
7月	407	168	239	59	29	6	152	140	21
8月	435	155	280	50	23	6	226	117	13
9月	363	107	256	35	20	3	243	57	5
10月	464	143	321	49	25	6	262	115	7
11月	438	109	329	30	14	4	281	102	7
12月	430	111	319	32	15	6	289	81	7
1月	423	131	292	53	20	1	267	71	11
2月	465	188	277	50	23	2	281	99	10
3月	438	196	242	74	29	2	233	84	16
合計	5,191	1,941	3,250	618	319	50	2,740	1,311	153

## 医療福祉相談室 相談件数

	のべ相談数	新規相談数	相談内容				カンファレンス参加数	
			入院	外来	在宅	その他	地域CC	院内CC
4月	842	306	398	203	18	118	5	56
5月	875	315	504	225	21	98	11	67
6月	932	316	576	218	9	62	10	66
7月	901	293	554	227	16	84	6	71
8月	1,226	475	588	333	23	115	3	101
9月	874	310	541	196	12	69	6	161
10月	977	316	568	220	13	80	8	67
11月	949	311	496	243	19	107	11	65
12月	830	320	492	206	11	59	5	44
1月	1,057	350	659	238	29	84	6	52
2月	903	363	513	198	8	104	3	27
3月	976	306	583	242	27	95	7	35
合計	11,342	3,981	6,472	2,749	206	1,075	81	812

## がん相談支援センター

### ■がん種別

2018年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
眼・脳・神経	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	1	0	6
耳鼻咽喉・口腔	3	6	1	6	7	7	4	0	3	2	2	5	46
胃	5	13	8	8	12	8	10	5	6	9	13	4	101
食道	1	3	0	6	9	4	7	1	1	5	4	2	43
大腸	3	0	4	6	9	3	9	4	6	10	4	7	65
小腸・肛門	0	1	1	1	4	1	0	4	1	0	0	0	13
肝・胆	9	3	6	12	13	4	4	9	4	11	8	10	93
膵	4	1	11	10	8	2	6	5	5	3	6	6	67
肺	11	0	19	12	10	6	3	2	11	8	9	17	118
縦隔・心臓	0	0	0	0	0	0	1	12	0	0	0	0	1
乳房	2	0	0	7	13	3	5	0	0	4	0	4	39
卵巣・陰・外陰部	2	0	0	3	1	0	0	1	2	1	1	3	14
子宮	8	6	3	4	13	9	1	1	2	1	2	5	57
前立腺	0	4	2	7	3	5	6	3	1	4	4	3	40
腎・尿管・膀胱	3	1	4	4	5	2	3	1	0	1	4	1	28
甲状腺	3	1	2	1	0	0	0	0	1	0	2	0	10
血液・リンパ	2	4	4	3	3	1	2	0	2	1	2	2	26
皮膚	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
骨・軟部組織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後腹膜・腹膜	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7
中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原発不明	1	5	0	0	2	0	1	0	1	3	1	2	18
不明	16	13	19	17	11	3	7	2	7	9	7	10	123
その他	2	0	2	1	1	5	0	4	0	4	0	3	18
合計	77	62	90	110	124	64	71	53	53	77	70	84	935

### ■相談内容

2018年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
がん治療	0	0	8	7	9	5	6	2	3	5	6	3	54
がん検査	0	0	1	1	1	2	2	0	0	1	0	0	8
症状・副作用・後遺症	0	0	9	10	17	3	2	2	3	3	5	3	57
セカンドオピニオン(一般)	0	0	0	1	1	4	1	0	0	0	1	0	8
セカンドオピニオン(受入)	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	5
セカンドオピニオン(他へ紹介)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	4
治療実績	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
臨床試験・先進医療	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
受診方法・入院	66	66	84	72	92	42	53	44	2	60	53	69	703
転院	68	68	80	41	81	31	7	39	56	6	3	6	486
医療機関の紹介	0	0	0	0	1	0	0	0	3	1	2	1	8
がん予防・検診	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	6
在宅医療	1	2	0	3	2	2	0	1	1	0	0	2	14
ホスピス・緩和ケア	71	90	90	97	105	54	76	49	0	61	51	78	822
食事・服薬・入浴・運動・外出	1	0	0	1	0	2	1	2	60	3	3	3	76
介護・看護・養育	1	0	0	1	1	1	2	0	1	2	2	3	14
社会生活(仕事・就労・学業)	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	1	2	7
医療費・生活費・社会保障制度	1	4	0	3	5	1	2	0	0	5	4	2	27
補完代替療法	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
生きがい・価値観	0	0	1	1	3	0	0	0	0	1	0	0	6
不安・精神的苦痛	2	2	3	8	8	5	5	1	0	4	4	3	45
告知	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5
医療者との関係・コミュニケーション	4	3	1	1	0	0	0	1	1	4	1	1	17
患者家族間のコミュニケーション	4	4	1	0	6	0	0	0	0	1	0	1	17
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
患者会・家族会(ピア情報)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
不明	0	0	0	3	0	3	0	6	0	0	0	0	12
その他	8	8	7	12	14	6	7	9	2	10	10	6	99
合計	228	248	287	270	349	162	169	156	134	171	148	186	2,508

■ 住所地

2018年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
堺市堺区	4	17	10	23	28	7	16	6	8	21	17	8	165
西区	9	26	30	23	22	9	10	11	11	9	12	15	187
北区	8	8	7	7	16	6	16	6	4	7	9	4	98
中区	2	4	2	4	0	3	3	3	1	5	5	6	38
東区	3	1	1	2	2	1	3	1	2	5	1	3	25
南区	3	0	1	6	10	6	3	1	3	5	1	1	40
美原区	2	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	0	7
堺市外	22	20	21	16	14	18	5	9	10	9	5	23	172
県外	1	2	3	0	2	1	0	1	2	1	3	1	17
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	23	24	20	29	29	14	15	20	7	15	16	23	235
合 計	77	102	95	110	124	65	71	59	50	77	70	84	984

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入退院支援加算	600点	463	463	468	485	524	530	525	502	570	466	505	536	6,037
入院時支援加算(新)	200点	40	94	126	126	133	123	116	106	95	95	120	116	1,290
在宅患者緊急入院 診療加算	2,500点	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2,000点	21	19	27	21	30	23	23	29	32	27	21	30	303
	1,000点	33	31	27	22	22	27	27	16	19	24	23	26	297
退院時共同指導料 2	400点	9	12	3	11	6	11	10	6	10	7	26	52(4)	163
多機関共同指導加算	2,000点	0	1	0	0	1	0	0	1	4	2	7	14(2)	30
小児加算(新)	200点	3	3	1	6	10	8	4	15	20	7	11	11	99
総合評価加算	100点	481	501	502	474	524	513	522	517	517	562	502	477	6,092
介護支援連携指導料	400点	136	133	120	112	101	114	121	122	107	125	134	125	1,450
在宅寝たきり患者 処置指導管理料	1,050点	23	21	24	22	21	16	26	24	30	9	21	23	260
在宅療養指導料	170点	2	10	4	1	4	5	0	7	0	1	11	3	48

## 地域連携室 紹介状況

	初診患者数	紹介患者数	他院所への 紹介患者数	紹介率 (他院からの紹介)	逆紹介率 (当院からの紹介)
4月	1,233	505	785	88.3%	137.2%
5月	1,312	521	1,132	82.0%	178.3%
6月	1,103	533	901	88.5%	149.7%
7月	1,224	518	912	97.2%	171.1%
8月	1,170	499	987	90.4%	178.8%
9月	1,065	450	868	97.6%	188.3%
10月	1,068	570	1,012	98.6%	175.1%
11月	1,009	502	806	95.8%	153.8%
12月	1,107	423	886	96.1%	201.4%
1月	1,574	498	909	99.6%	181.8%
2月	1,023	467	906	99.4%	193.0%
3月	1,010	512	994	97.7%	189.7%
合計	13,898	5,998	11,100	93.9%	173.7%

## 検査紹介数

	C T	MR	シンチ	X-P	マンモ	胃カメラ	T C F	生理機能	エコー
4月	33	40	1	3	10	33	32	4	6
5月	46	57	1	3	9	21	38	7	6
6月	34	61	4	3	13	30	31	8	10
7月	49	36	1	0	15	24	24	2	8
8月	39	38	3	0	7	28	24	6	11
9月	30	39	1	3	15	25	25	5	3
10月	48	56	3	1	17	40	27	6	13
11月	39	49	2	3	12	37	40	5	4
12月	32	39	2	3	16	29	21	7	5
1月	32	43	3	2	5	20	24	9	3
2月	49	40	1	1	15	24	20	8	4
3月	49	38	2	6	14	28	33	10	8
合計	480	536	24	28	148	339	339	77	81



耳原総合病院 登録医療機関

(★は今年度の登録医療機関)

■堺市堺区■

1	尾花医院	56	堀井医院
2	はら腎・泌尿器科クリニック	57	富田内科医院
3	小児科林医院	58	かねの小児科医院
4	なかしま内科クリニック	59	脇医院
5	坂口クリニック	60	別所外科診療所
6	兵田堺東クリニック	61	井筒眼科医院
7	村上医院	62	医療法人守人会
8	上野内科・小児科クリニック	63	塚田内科クリニック
9	黒田クリニック	64	(医)医潤会内視鏡クリニック
10	清水レディースクリニック	65	田端医院
11	かめだクリニック	66	ほり眼科
12	すぎうら内科小児科クリニック	67	松浦クリニック
13	石村小児科医院	68	大小路診療所
14	喜多クリニック	69	佐藤内科医院
15	森口クリニック	70	いしだクリニック
16	児玉泌尿器科	71	高安内科・循環器科クリニック
17	谷和医院	72	養田医院
18	いしだ医院	73	斎藤医院
19	飯田一条通診療所	74	玉井クリニック
20	松崎医院	75	田辺医院
21	グレース堺	76	吉田診療所
22	堺京町・ヒロクリニック	77	おので整形外科
23	大川内科医院	78	池上医院
24	山田医院	79	沈沢医院
25	福島小児科	80	かげやま医院
26	大住医院	81	国枝医院
27	荒木産婦人科・肛門科	82	しんほうかい診療所
28	椎名医院	83	熊野クリニック
29	東皮フ科医院	84	大浜クリニック
30	近藤眼科	85	にしきこどもクリニック
31	なかクリニック	86	南生クリニック
32	まなべ形成美容外科	87	さい小児科
33	白井内科クリニック	88	ルナレディースクリニック
34	いしかわクリニック	89	長山整形外科
35	高田クリニック	90	ベルクリニック
36	たちばな内科クリニック	91	松並診療所
37	安田整形外科クリニック	92	中村クリニック
38	若山眼科	93	なかしま内科クリニック
39	八星内科クリニック	94	宮前医院
40	山県クリニック	95	藤本クリニック
41	たつだクリニック	96	にしの内科診療所
42	つげ内科医院	97	松屋茶論クリニック
43	神原医院	98	江藤内科医院
44	白井内科・消化器科クリニック	99	淵レディースクリニック
45	いづみ医院	100	三重野医院
46	石原医院	101	かねしろクリニック
47	中川クリニック	102	小瀬整形外科
48	加藤内科みなとクリニック	103	川崎医院
49	やまだ眼科クリニック	104	泉谷診療所
50	北庄司眼科医院	105	しんとうクリニック
51	星クリニック	106	たにわレディース
52	いのうえクリニック	107	もりぐち内科・糖尿病クリニック
53	橋本医院	★108	池田産婦人科
54	堺北診療所	★109	整形外科よねだクリニック
55	八木クリニック	★110	さかい社の杜クリニック

■堺市西区■

1	都健幸会 石津川クリニック
2	友田クリニック
3	たつみクリニック
4	くげクリニック
5	南医院
6	中谷クリニック
7	小田医院
8	高田外科
9	高田眼科
10	横田クリニック
11	ナカイクリニック
12	松井医院
13	法師山眼科
14	徳川レディースクリニック
15	ますたにクリニック
16	しまキッズクリニック
17	市橋内科
18	柿原クリニック
19	吉田診療所
20	加藤内科
21	オサダ整形外科クリニック
22	近江内科医院
23	星田医院
24	近江内科医院
25	近江眼科
26	唄医院
27	河面医院
28	よしもと整形外科
29	かみたにクリニック
30	さかぐちクリニック
31	はるお内科クリニック
32	玉置医院
33	木村ファミリークリニック
34	いしいこどもクリニック
35	安武医院
36	きたがわ医院
37	かとうクリニック
38	上野内科医院
39	近藤医院
40	西原医院
41	面川外科胃腸科
42	津久野藤井クリニック
43	増本医院
44	かとう鳳クリニック
45	吉川医院
46	井上医院
47	おしうみ内科
48	楠本小児科
49	坂下眼科
50	藤田クリニック
51	村野内科クリニック
52	田村外科医院
53	岩本内科クリニック
54	たなかクリニック
55	岡原クリニック
56	ひとしクリニック
57	樋上小児科

58	西野内科
59	なかい心のクリニック
60	入口眼科
61	石山診療所
62	三谷ファミリークリニック
63	みずきクリニック
64	えずみクリニック
65	裕本内科クリニック
66	白島内科
67	やまさき内科・胃腸科クリニック
68	中村クリニック
69	朴井診療所
70	木寺クリニック
71	すぎもとキッズクリニック
72	こにし小児科・アレルギー科
73	楠本小児科
74	瀬野クリニック

■堺市北区■

1	典子エンジェルクリニック
2	いけだこどもクリニック
3	紺屋泌尿器科
4	花田医院
5	瓦谷クリニック
6	藤田医院
7	新宮診療所
8	なかもずクリニック
9	なかもず河田クリニック
10	高田内科クリニック
11	岡クリニック
12	小林小児科医院
13	ほり泌尿器科クリニック
14	はやし内科クリニック
15	ぐんぐんキッズクリニック
16	もじ子どもクリニック
17	泌尿器科かわだクリニック
18	藤原内科クリニック
19	岩本診療所
20	大西内科クリニック
21	北野医院
22	西谷内科
23	中内こどもクリニック
24	三条クリニック
25	山戸クリニック
26	いずみクリニック
27	佐々木内科クリニック
28	奥村医院
29	山田内科医院
30	今井医院
31	松永医院
32	高村医院
33	黒部医院
34	辻野医院
35	明石医院
36	なかの医院
37	もり耳鼻咽喉科
38	くさか内科医院
39	だんホームクリニック

40	いこま内科・眼科クリニック
41	まつだ消化器・糖尿病クリニック
42	やまもと消化器内視鏡・外科クリニック
43	なかむら胃腸肛門クリニック
★44	赤星神経内科クリニック
★45	レディースクリニックやぎ

■堺市南区■

1	赤井マタニティクリニック
2	澤田整形外科医院
3	かがやきクリニック
4	伊東皮膚科
5	奥中診療所
6	くわ総合クリニック
7	長谷川内科
8	大槻レディースクリニック
9	すが内科クリニック
10	きしぐち子どもクリニック
11	宮崎内科
12	植月医院
13	中田内科医院
14	飯田原山台診療所
15	银杏会クリニック
16	高橋計行クリニック
17	ぼらんのひろば井上診療所
18	かたぎり小児科医院
19	大平産婦人科
20	嶋田クリニック
21	桃山台山本内科
22	小林内科医院
23	石上整形外科
24	久保内科クリニック
25	小川クリニック
26	米田外科クリニック
★27	ひらいクリニック

■堺市東区■

1	北野田診療所
2	岡本内科
3	にしがき小児クリニック
4	岡原診療所
5	しんたに内科クリニック
6	はつしば山本クリニック
7	西川クリニック
8	村上小児科クリニック
9	にしじまクリニック
10	林小児科クリニック
11	西松医院
12	中村診療所

■堺市中区■

1	唐崎内科クリニック
2	中尾内科クリニック
3	杉山クリニック
4	ホームケアクリニック堺
5	石橋レディスクリニック

6	村田医院
7	みやわき診療所
8	松本クリニック
9	佐藤小児科
10	永田整形外科
11	たかたクリニック
12	小川内科
13	もりい整形外科
14	日野クリニック
15	中村医院
16	いむた内科
17	大坪医院
18	落合医院
19	青笹内科クリニック
20	井畑クリニック
21	村木クリニック
22	中村診療所
23	やなぎクリニック
24	井上内科クリニック
25	ふじわらしんいち総合クリニック
26	みさきファミリークリニック
★27	高杉医院

■堺市美原区■

1	中村医院
2	戸田子どもクリニック

■堺市外院所■

1	うつのみやクリニック
2	小出内科神経科
3	みなと生協診療所
4	土田クリニック
5	山下医院
6	西成民主診療所
7	はやし泌尿器クリニック
8	河野クリニック
9	杉本診療所
10	住吉民主診療所
11	ふくろく整形外科クリニック
12	小澤診療所
13	小野内科医院
14	加賀屋診療所
15	李クリニック
16	コープ診療所
17	あいしんクリニック
18	今井内科小児科医院
19	狭山みんなの診療所
20	石田医院
21	片山内科循環器科医院
22	玉川診療所
23	王クリニック
24	沢田レディースクリニック
25	とのぎ内科クリニック
26	耳鼻咽喉科竹本クリニック
27	山口クリニック
28	やまだクリニック

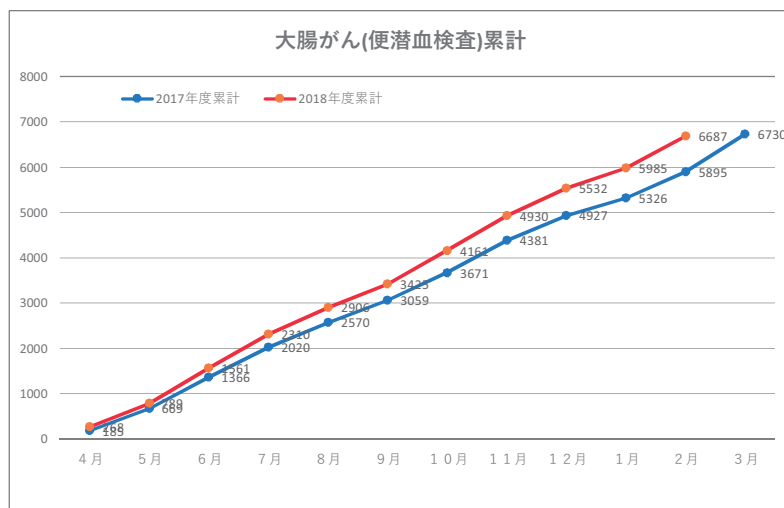
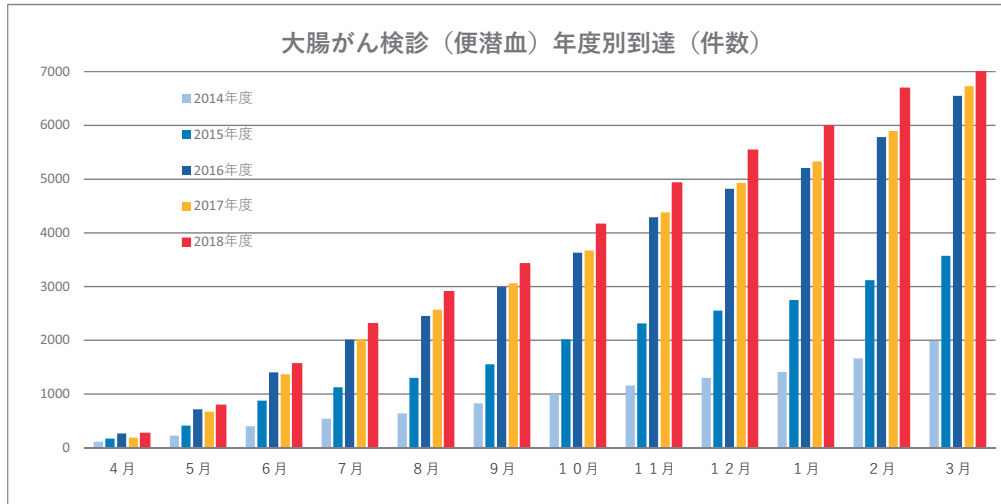
29	小田クリニック
30	西村クリニック
31	廣瀬クリニック
32	市田内科クリニック
33	ねぎた腎・泌尿器科クリニック
34	泉谷クリニック
35	水田内科クリニック
36	原田内科クリニック
37	戎野内科医院
38	真嶋医院
39	阪南医療生協診療所
40	あずま内科クリニック
41	乳腺ケア泉州クリニック
42	都健幸会クリニック
43	おおさわ. クリニック
44	上森医院
45	大久保内科クリニック
★46	IGTクリニック
★47	長尾クリニック

■ 歯科 ■

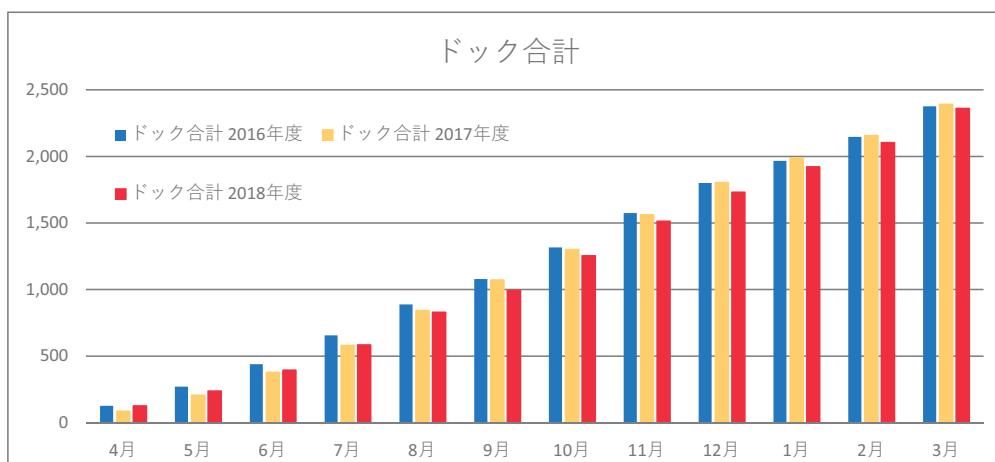
1	吉田歯科医院
2	島田歯科クリニック
3	こいずみ歯科医院
4	和田歯科医院
5	酒井歯科医院
6	津田歯科医院
7	阪田歯科医院
8	重地歯科医院
9	桑原歯科医院
10	たけとし歯科医院
11	西本歯科医院
12	小林歯科医院
13	中川歯科医院
14	西川歯科医院
15	中西歯科医院
16	保富歯科医院
17	野口歯科医院
18	(医)二和会 なかもず田中歯科
19	甲田歯科医院
20	河村歯科
21	吉田歯科クリニック
22	高田歯科医院
23	石川歯科医院
24	ますもと歯科クリニック
25	堀内歯科医院
26	原歯科医院
27	大宮歯科医院
28	大曲歯科医院
29	なかざわ歯科・小児歯科
30	かたおか歯科
31	平野歯科医院
32	がん歯科
33	クレモト歯科診療所
34	たかぎ歯科・矯正歯科

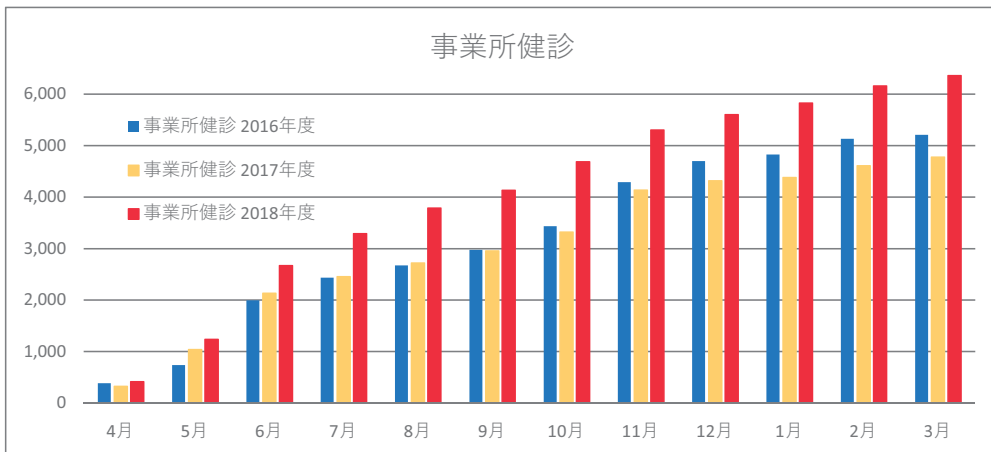
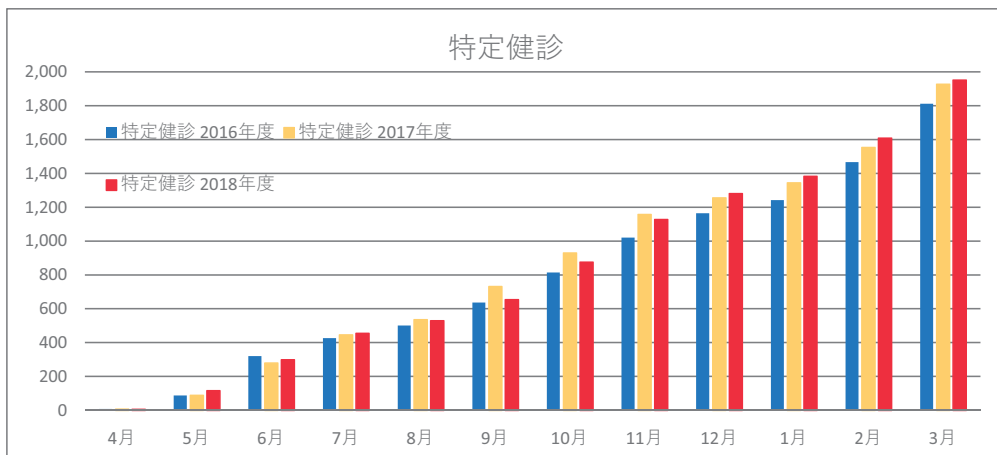
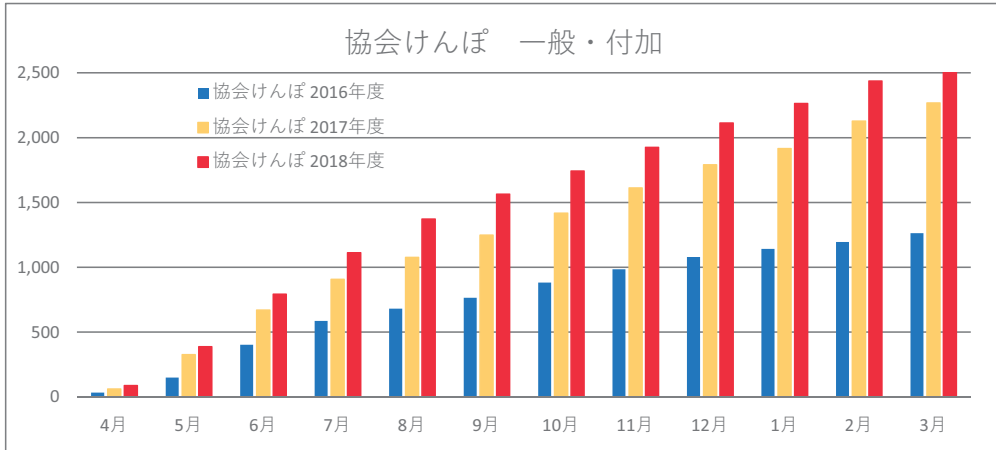
35	木田歯科医院
36	のぐち歯科クリニック
37	堀歯科医院
38	八百歯科医院
39	おおた歯科口腔外科クリニック
40	あおき歯科医院
41	つじお歯科医院
42	坂田歯科
43	井上歯科医院
44	西村歯科
45	ながやま歯科
46	森歯科医院
47	上田歯科医院
48	中村歯科医院
49	古川歯科医院
50	山田歯科医院
51	浦田歯科クリニック
52	さわい歯科
53	谷歯科医院
54	杉本矯正歯科医院
55	幸前歯科
56	酒井歯科医院
57	藤田歯科 矯正歯科
58	赤井歯科医院
59	江原歯科診療所
60	活生会 筒井歯科医院
61	三宅歯科医院
62	小林歯科医院
63	さこ歯科医院
64	なかえ歯科医院
65	二宮歯科クリニック
66	ひろせ歯科医院
67	ひうら歯科口腔外科
68	吉田歯科医院
69	中政会 中辻歯科医院
70	松本歯科医院
71	堀野歯科 東湊診療所
72	まさお歯科
73	河田歯科
74	宮本歯科医院
75	よしかわ歯科医院
76	吉村歯科医院
77	はまうず歯科医院
78	高田歯科クリニック
79	仲谷歯科医院
80	なかむら歯科医院
81	山口歯科医院
82	祐愛会 西村歯科
83	真愛会 やまさき歯科
84	星野歯科
85	倉橋歯科医院
86	深野歯科医院
87	みにに歯科

## 2018年度 組織健診科到達報告



## ドック、特定検診等進捗





# 感染制御室

## 2018年度 MRSA 動向調査（実患者数・陽性検体）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
比率 B/A	0.05%	0.11%	0.01%	0.08%	0.05%	0.03%	0.03%	0.04%	0.06%	0.07%	0.06%	0.04%	0.05%
入院延べ数(月) A	10,920	10,060	10,681	10,393	10,904	10,415	10,555	10,828	10,605	10,765	10,308	10,806	10,603
陽性患者数 B	5	11	1	8	5	3	3	4	6	7	6	4	5.25

## MRSA陽性患者数/入院延べ数(月)

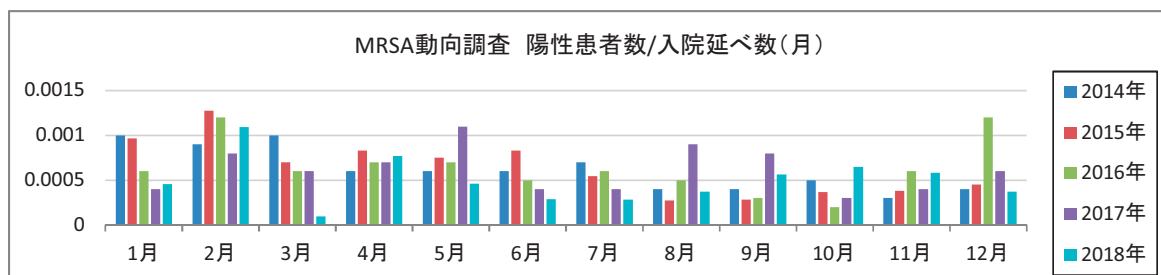
2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
0.15%	0.12%	0.15%	0.11%	0.07%	0.07%	0.06%	0.05%	0.06%	0.06%	0.06%	0.06%	0.05%

## 黄色ブドウ球菌中のMRSAの比率

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
76.2%	65.5%	72.2%	57.6%	56.7%	51.2%	41.0%	45.8%	53.6%	57.7%	52.2%	51.6%	59.3%

## MRSA動向調査 陽性患者数/入院延べ数(月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2014年	0.10%	0.09%	0.10%	0.06%	0.06%	0.06%	0.07%	0.04%	0.04%	0.05%	0.03%	0.04%
2015年	0.10%	0.13%	0.07%	0.08%	0.08%	0.08%	0.05%	0.03%	0.03%	0.04%	0.04%	0.05%
2016年	0.06%	0.12%	0.06%	0.07%	0.07%	0.05%	0.06%	0.05%	0.03%	0.02%	0.06%	0.12%
2017年	0.04%	0.08%	0.06%	0.07%	0.11%	0.04%	0.04%	0.09%	0.08%	0.03%	0.04%	0.06%
2018年	0.05%	0.11%	0.01%	0.08%	0.05%	0.03%	0.03%	0.04%	0.06%	0.07%	0.06%	0.04%



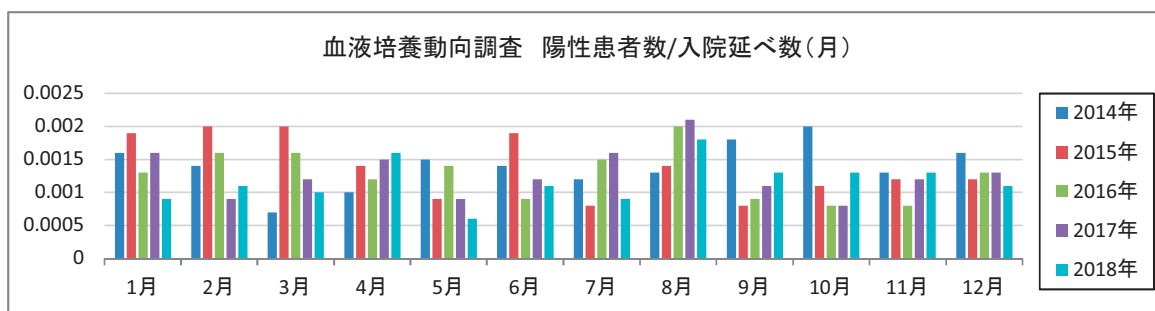


## E.coli ESBL

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2014年	6	7	8	3	2	4	4	3	5	7	5	3	57
2015年	6	5	6	5	7	10	8	2	2	7	6	6	70
2016年	7	4	8	5	4	4	6	5	2	6	4	10	65
2017年	8	8	7	8	8	6	2	2	8	3	3	2	65
2018年	2	3	5	9	5	7	4	11	4	8	5	6	69

## 血液培養動向調査 陽性患者数/入院延べ数(月)

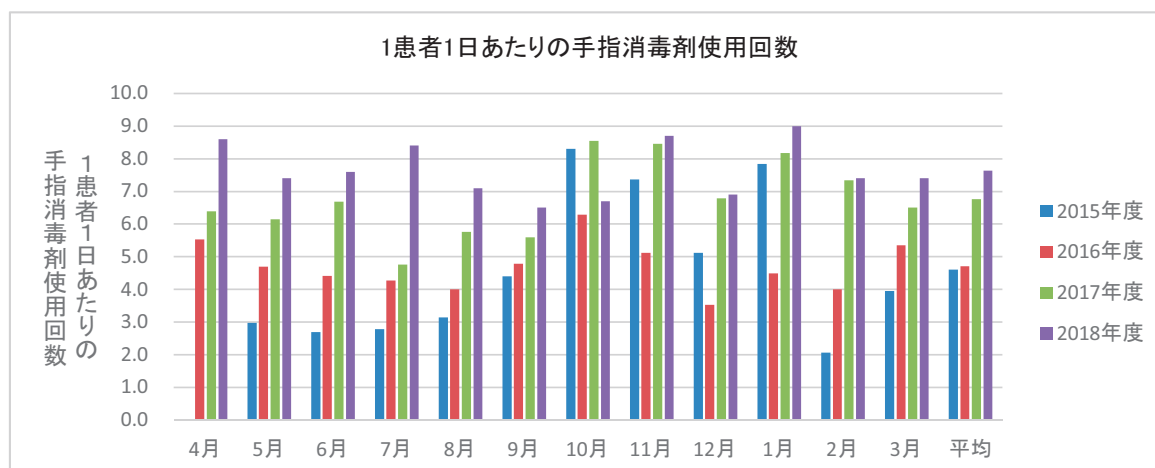
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2014年	0.16%	0.14%	0.07%	0.10%	0.15%	0.14%	0.12%	0.13%	0.18%	0.20%	0.13%	0.16%
2015年	0.19%	0.20%	0.20%	0.14%	0.09%	0.19%	0.08%	0.14%	0.08%	0.11%	0.12%	0.12%
2016年	0.13%	0.16%	0.16%	0.12%	0.14%	0.09%	0.15%	0.20%	0.09%	0.08%	0.08%	0.13%
2017年	0.16%	0.09%	0.12%	0.15%	0.09%	0.12%	0.16%	0.21%	0.11%	0.08%	0.12%	0.13%
2018年	0.09%	0.11%	0.10%	0.16%	0.06%	0.11%	0.09%	0.18%	0.13%	0.13%	0.13%	0.11%



## 2018年度 手指消毒剤使用状況

1日1患者あたり的手指消毒剤使用予測回数 手指消毒剤払い出し量÷延べ入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2015年度		3.0	2.7	2.8	3.1	4.4	8.3	7.4	5.1	7.8	2.1	4.0	4.6
2016年度	5.5	4.7	4.4	4.3	4.0	4.8	6.3	5.1	3.5	4.5	4.0	5.3	4.7
2017年度	6.4	6.1	6.7	4.8	5.8	5.6	8.5	8.5	6.8	8.2	7.3	6.5	6.8
2018年度	8.6	7.4	7.6	8.4	7.1	6.5	6.7	8.7	6.9	9.0	7.4	7.4	7.6





# 各科活動報告



## 集中治療科

### 担当医

○北山 仁士(集中治療科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／心臓血管外科専門医・指導医／臨床研修指導医／近畿大学心臓血管外科客員教授

○吉川 健治(集中治療科医長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○鎌本 洋通(麻酔科部長)

認定資格：医学博士／日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医／厚生労働省麻酔科標榜医／日本ペインクリニック学会専門医／日本心臓血管麻酔学会専門医／日本周術期経食道心エコー認定医／臨床研修指導医／麻酔科標榜医

### 活動報告

2018年度もclosedシステムのICU 4床と、ICU横に併設したopenシステムのHCU 4床を集中治療科として担当し、満床運用を心がけ、看護部門の協力を得て適時のベッドコントロールを行いながら、効率的な病床管理を行いました。2018年は特定集中治療室管理料1取得に伴い、入室基準を厳密化したため、稼働率はICU93.1%(2017年度95%)HCU97%(2017年度98.2%)と、入室対象者の減少という望まざる結果をもたらしましたが、密度の濃い集中治療を行い得たと考えられます。

毎朝、多職種によるICUカンファレンスを行い、全職種が主体的に発言することで、患者さん個々の問題点や治療方針の確認をし、午後にはICUとHCUを合わせた中間カンファレンス「ハドル」を行っています。主治医が一貫して管理を行うopenシステムと異なり、closedシステムでは治療方針の一貫性を保つ事と、円滑なチーム医療が不可欠ですが、この朝のカンファレンスと午後のハドルは、良好なチーム医療の実践に寄与するとともに、治療方針の一貫性を保つ事に貢献しています。

早期消化管栄養開始の取り組みも医師、栄養科、看護師によるプロトコールが定着しつつあります。

### 今後の展望と課題

満床運営を引き続き目標としています。

ICU入室対象手術症例数の増進が前提となりますが、術後入室症例数の増加を進めて行きたいと考えています。2019年度は心臓血管外科の体制が強化されたことで心臓血管外科手術症例数の増進に伴うICU受け入れ症例増加が期待されます。

## 総合診療センター

### 担当医

○田端 志郎(副病院長／総合診療センター長)

認定資格：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医／日本循環器学会循環器専門医／日本救急医学会救急科専門医／臨床研修指導医

○藤本 卓司(救急総合診療科部長)

認定資格：ICD(Infection Control Doctor)麻酔科標榜医／京都大学医学部臨床教授

○大矢 亮(救急総合診療科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLSディレクター・インストラクター／日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医・SDH検討委員会委員／大阪府医師会ACLS大阪 認定ディレクター・認定インストラクター／臨床研修指導医プログラム責任者講習修了／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了／日本老年医学会高齢者医療研修会修了／HANDS-FDF2014修了／認知症サポート医／日本HPHネットワーク運営委員

○岩嶋 佳子

認定資格：日本内科学会総合内科専門医／JMECCインストラクター／日本消化器病学会消化器病専門医／日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医／日本救急医学会ICLSインストラクター／日本循環器学会AHA BLSインストラクターACLSインストラクター

○川尻 英子

認定資格：日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医

○藤本 翼

認定資格：日本内科学会総合内科専門医／JMECCインストラクター／日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導

医／日本救急医学会ICLSディレクター・インストラクター／大阪府医師会ACLS大阪 認定ディレクター・認定インストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○杉本 雪乃

認定資格：日本内科学会認定内科医／JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLS認定ディレクター／大阪府医師会ACLS大阪認定インストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○河村 裕美

認定資格：日本内科学会認定内科医／JMECCインストラクター／日本救急医学会ICLSインストラクター／臨床研修指導医／日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了

○松瀬 房子

認定資格：日本内科学会認定内科医

○櫻井 史歩(後期研修医)

認定資格：日本内科学会認定内科医

○木村 信之(後期研修医)

所属学会：プライマリケア連合学会

## 活動報告

総合診療センターは、現在「総合診療センター外来」「ER」「病棟」「ICU」を主たるフィールドとして活動しています。

総合診療センター外来では、現在も内科系各診療科の応援を得ながら運営していますが、2018年度に管理体制を確立し、総合診療センター外来運営会議を定例化しました。

ERでは、2018年度もこれまで通り「断らない救急」をスローガンに医療活動を行い、2018年度救急搬送数は6,199台と過去最高を記録し、ERの総受診傷病者数は14,101名でした。また「地域のER」として5床ある救急病棟を積極的に活用し、当院が満床でも救急要請を断らずに受け入れ、適切な初期トリアージを行ってから転送し、地域の医療機関のベッド全体を活用する取り組みをさらに前進させることができました。また、救急医療の質向上のために各種プロトコルを作成しました。

病棟では、研修医や若手医師に対する教育回診、カンファレンス、感染症教育を充実させてきました。また、他併存疾患の高齢者の診療、診断が難しい患者の診療を中心に担いました。認知症高齢者ケアを進めるべく、「ユマニチュード」の学習に取り組みました。京都GIMカンファレンスには積極的に参加し、症例提示も行いました。

ICUでは、集中治療科と共にカンファレンスなどで内科重症患者の診療に関わりました。

## 今後の展望と課題

今後は総合診療センターのフィールドを、「総合診療センター外来」「高砂クリニック総合外来」「ER」「病棟」「在宅医療」とし、地域から難民を出さない「質の高い受け皿」の医療をさらに前進させたいと考えます。

ERは、「断らない救急」だけでなく救急医療の質と標準化をさらに高めてゆく必要があり、「高齢者救急」、「がん救急」、「セーフティネット救急」を念頭に質向上を今後の重点課題とします。また、医療機関や福祉施設などの「地域リソース」と連携し、救急受診や緊急入院を回避できるような地域づくりを目指してゆきます。

病棟医療は、教育と内科重症患者管理に重点を置いた医療展開を進めてゆきます。

在宅医療は、総合診療センターとして十分に組み合っていないフィールドです。しかし、超高齢化社会が進み在宅医療の発展が必要不可欠になる状況の中、「病院総合医」としての関わりのあり方を模索してゆきたいと思えます。

# 循環器センター

## 担当医

○石原 昭三(循環器センター長 兼 副病院長)

認定資格：日本内科学会認定内科医 総合内科専門医・指導医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)

○井上 剛裕(心臓血管外科部長)

認定資格：日本胸部外科学会認定医／日本外科学会外科専門医／心臓血管外科専門医・指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)

○鈴鹿 裕城(循環器内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本循環器学会循環器専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医

○具 滋樹(循環器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本循環器学会循環器専門医／臨床研修指導医／心臓リハビリテーション指導士

○松岡 玲子

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本循環器学会循環器専門医／植え込み型除細動器(ICD)・ペースングによる心不全治療(CRT)実施医

○梁 泰成

認定資格：日本内科学会認定内科医

○小笹 祐

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本心血管インターベンション治療学会認定医

○鷺見宗一郎(後期研修医)

認定資格：日本内科学会認定内科医

○南里 直美(後期研修医)

所属学会：日本内科学会／日本循環器学会

## 活動報告

循環器内科では2018年4月から2019年2月末まで医師1名が外部研修に出ていましたが、6人体制で何とか件数の維持ができました。しかし、診療報酬の改定も影響し経皮的冠動脈カテーテルインターベンションの件数は2017年度に比べると減少しました。しかし、不整脈部門では医師がリーダーシップをとりコミディカルとともにアブレーション治療の件数を大きく伸ばすことができました。心臓リハビリに関して質の向上に務めました。また、リードレスペースメーカーであるmicraや大動脈弁バルーン拡張術などの新たな分野にも挑戦した1年となりました。

## 今後の展望と課題

1) カテーテル治療のレベルの維持、件数の維持

今後、大幅な増加は見込めないかと思われるが、開業医訪問で他院からの紹介患者数は増加しており、虚血の精査加療の必要な患者様を的確に評価し、件数は維持したい。その中で合併症に注意し皆が高いレベルで治療できるように教育・指導していく。

2) 末梢動脈治療のレベルアップ

外部研修に出ていた医師1名が帰任。他院で学んだ知識と技術を当院のスタッフでも共有し、末梢動脈治療のレベルアップとフットケアチームの立ち上げに期待する。

3) 心臓血管外科との協力

心臓血管外科医師が着任。心臓の手術が必要な患者様は多く存在し、循環器内科としても手術件数の増加に貢献できればと考える。また、心臓血管外科と協議することで、心疾患に理解を高め循環器内科のスタッフのレベルアップができればと考える。

# ● 消化器センター

## 担当医

○山口 拓也(副病院長 兼 センター長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○岩谷 太平(消化器内科主任部長)

認定資格：日本内科学会 総合内科専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会専門医・指導医／日本消化器病学会専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○岡田 正博(消化器内科部長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化器病学会専門医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肝臓機能障害)

○松田 友彦(消化器内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／臨床研修指導医

○河村 智宏(後期研修医)

認定資格：日本救急医学会ICLSインストラクター

○平林 邦昭(大腸・肛門科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会認定医・臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(小腸機能障害)(膀胱又は直腸機能障害)



○**裕野 孝治**(乳腺甲状腺外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会認定医／臨床研修指導医

○**吉川 健治**(肝胆膵外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肝臓機能障害)／緩和ケア指導者研修会修了

○**戸口 景介**(外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／厚生労働省認可麻酔科標榜医／日本消化器内視鏡学会専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医／日本ヘリコバクター学会H.Pylori(ピロリ菌 感染症認定医／麻酔科標榜医／緩和ケア指導者研修会修了

○**外山 和隆**(がん支援副センター長 兼 外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

○**中江 史朗**(腫瘍内科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本大腸肛門学会専門医・指導医／日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員／日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・暫定指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医／緩和ケア指導者研修会修了

○**矢野 佳子**(総合診療外科部長)

認定資格：日本外科学会外科専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医／日本消化器病学会専門医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／日本肝胆膵外科学会評議員

○**今井 稔**

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医

○**富岡百合子**

認定資格：日本救急医学会救急科専門医・ICLSインストラクター

## 活動報告

消化器センターは大きく前進しました。消化器センター内科では食道、胃、大腸の内視鏡検査及びESDも大きく件数をのばしております。内視鏡検査では“痛くない”を合言葉にスタッフ一同邁進しております。また、上部、下部の出血に対しては24時間365日緊急対応できるように体制を強化しています。悪性疾患等による消化管閉塞に対してはステント治療を広くとりいれ、速やかな手術療法への移行を行い低侵襲な治療を可能にしています。

消化器センター外科では消化管外科、肝胆膵外科、乳腺甲状腺外科、ヘルニア外科などを主に行っています。腹腔鏡下手術が大勢を占めており、胃、大腸にとどまらず、肝胆膵まで腹腔鏡下手術で行うようになってきました。肝臓腫瘍に対しても、腹腔鏡下エコーを用いたラジオ波治療も積極的におこなっており南大阪でも指折りの件数となっております。ヘルニア外科では数多くの紹介をいただき過去最高の症例数までのびています。今年度は2台の4K内視鏡カメラへの移行を行いました。今後はロボットの導入に向かい準備中です。

2018年度もおかげさまで過去最高の緊急症例(消化管穿孔、胆嚢炎など数多い症例)をご紹介いただきました。このように消化器センター内科、外科、専門スタッフのコラボレーションの上、患者様には最善、最短、低侵襲を合言葉に満足度のいく質の高い治療を提供できていると自負しております。

がん診療拠点病院としての使命を果たすことができるよう、ますますシームレスな医療を展開し、患者さんに対して満足度の高い、質の高い治療を提供しつづけてまいります。

## 今後の展望と課題

○2019年度は2018年以上に、がん診療もさらに充実させ、集学的治療、放射線治療導入への道筋をつけてまいります。

○専門的な治療を拡充し専門スタッフの更なるスキルアップを行い患者さん満足度の高い医療を提供して参ります。

○全職種横断的な総合カンファレンスを毎週開催となり、一層、患者さんやご家族の想いを充分かなえるような治療をチームで提案します。

○上部、下部消化管、肝胆膵分野ごとのエキスパートの育成を行い、患者さんにさらに質の高い治療を提供しつづける努力をおしませぬ。

○腫瘍内科、緩和ケアチームと密接に連絡をとりあい、漢方治療などの補完医療もとりいれ、質の高いケアを提供してまいります。

# 腎・透析センター

## 担当医

○大矢 麻耶(センター長 兼 腎臓内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医／臨床研修指導医

○植田祐美子

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本腎臓学会認定腎臓専門医／日本フットケア学会認定フットケア指導士

○熊澤 実

認定資格：日本内科学会認定内科医／日本腎臓学会専門医・指導医

○林 研(非常勤)

所属学会：日本内科学会／日本腎臓学会／透析療法学会／日本下肢救済・足病学会／日本フットケア学会

## 活動報告

当院糖尿病医および地域の糖尿病医とともに、地域スタッフへむけて糖尿病性腎症予防の取り組みとして、勉強会を積み重ねていくことができた。今後もより発展させ、地域で糖尿病性腎症を守っていく仕組みを構築していきたい。当院への腎臓病紹介も増えてきており、腎後性腎不全として泌尿器科の処置で改善するものや、全身性疾患が基礎に見つかり、治療に結びつられたものなど、治療介入できたことで予後がよくなった症例が多々見られており、早期に受診いただくことがメリットになっていると考える。また 腎生検の件数も年々増加しており、積極的に診断をつけることの重要性を感じる。積極的治療を進める上で、必要な検査であり、今後ますます腎生検の読み解く力が大事であり、他院のカンファレンスに参加させていただき、研鑽中である。

## 透析科：

血液透析の患者増は続いているが、ますます高齢化、全身状態の低い方、透析に対して受け入れしがたい方、進行癌の併発など、多様な問題が増えている。それぞれへの対応は、難しくまた悩ましいことが多く、医師単独での解決が難しいことが多い。この1年は、看護師、技師、MSW始め、地域の連携職員などチームワークが鍵となった。チームワークで解決できたことは多いと感じる。今後ますます他職種連携が必要になると感じる。透析室内での技術UPとして、シャント管理、透析中リハ、フットケア対策として、それぞれチーム制でレベルアップを図り、充実していった。地域の透析病院とも連携し、勉強会の開催を行えた。企画を含め、今後堺の透析レベルアップを目指し、一緒に企画、開催できる勉強会を継続、発展させていきたい。

## 今後の展望と課題

他部署、院外部署とのしっかりとした連携、システムを作れることが課題だと考えている。

# 糖尿病内分泌科

## 担当医

### ○川口 真弓(代謝・膠原病内科部長)

認定資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医／リウマチ登録医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肢体障害)

### ○岩崎 桂子(代謝・膠原病内科医長)

認定資格：日本内科学会認定内科医／臨床研修指導医

### ○松廣 有紀(後期研修医)

認定資格：日本内科学会認定内科医

## 活動報告

当院では糖尿病と腎臓病は診療において関連が強い為、腎臓病グループと同じ病棟でチームとしてカンファレンス・回診を行い入院・外来診療にあたっています。

### 【糖尿病内科】

#### ○2018年度診療内容

- ・年間を通して教育入院患者の受け入れ
- ・糖尿病を基礎疾患にもつ重症入院患者の加療
- ・他院からの重症例の受け入れ
- ・外科系各診療科の内科マネージメント
- ・南大阪糖尿病協会糖尿病ウォークラリー共催
- ・総合病院 糖尿病紹介外来担当、サテライト診療所(高砂クリニック)での糖尿病外来を担当(約1,200名)
- ・堺北診療所 糖尿病外来を担当
- ・開業医からの紹介を受け入れ、入院及び外来フォロー等で連携

#### 今後の展望と課題

外来部門との合同カンファレンスなどを通じて更なる連携を深めるとともに開業医の先生との関わりも深めていくことで多くの患者さんが安心して病気とつき合っていけるよう支えていきたいと思っています。また、FGMを使用することで、患者さんと共に血糖の状態を理解しよりよいコントロールになるよう考えていきたいと思っています。

糖尿病診療のスキルを生かし、急性疾患のみならず、慢性疾患を診ることのできるチーム医療を目指します。

# 呼吸器内科

## 担当医

### ○緒方 洋(副病院長 兼 呼吸器内科部長)

認定資格：日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医／日本内科学会評議員・認定内科医／日本内科学会JMECCディレクター／日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医／日本救急医学会ICLS認定インストラクター・ICLS認定ディレクター・ICLS認定指導者養成ワークショップディレクター／大阪府医師会ACLS大阪認定インストラクター・ACLS大阪認定ディレクター／堺市身体障害者福祉法指定医師(呼吸機能障害)／臨床研修指導医

## 活動報告

気管支喘息重責発作、閉塞性肺疾患急性増悪に迅速に対応しています。また、高齢者肺炎を中心に、各種肺炎、間質性肺炎の診断治療にも携わっています。

気管支喘息の治療として気管支熱形成術を導入し、良好な成績を得ております。

#### 今後の展望と課題

肺がん診断の精度を向上させるべく、超音波気管支内視鏡を導入しました。今後、肺がん診療にさらに貢献していきます。

## 呼吸器外科

### 担当医

○佐藤 泰之(呼吸器外科部長)

認定資格：医学博士／日本外科学会外科専門医／日本消化器外科学会認定医／身体障害者福祉法指定医師

### 活動報告

呼吸器外科は、2018年10月赴任に伴い、同年11月から2019年3月までの5カ月間での業績となります。

手術は全て全身麻酔手術で21件となり、内訳は、肺癌などに対する肺葉切除術が7件、肺癌や気胸などに対する肺部分切除術が9件、膿胸に対する手術が4件、その他1件です。肺動脈浸潤の疑いが強い1例には安全のため開胸手術としていますが、他の20例は全て完全鏡視下での胸腔鏡手術で行っています。術後合併症による再手術はなく、全て軽快退院となっています。

### 今後の展望と課題

まずは手術助手の定着化が最大の課題ですが、この特殊なカメラワークを要するスコピストの定着の実現とともに、手術件数の増加を目標とします。また、環境を整えば手掌多汗症の手術も進めていく予定です。

## チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(小児科)

### 担当医

○藤井 建一(センター長 兼 小児科部長)

認定資格：日本小児科学会小児科専門医・指導医／臨床研修指導医

○田中 充

認定資格：日本小児科学会小児科専門医・指導医／堺小児科医会理事／臨床研修指導医

○金子 愛子(小児科医長)

認定資格：日本小児科学会小児科専門医／日本プライマリ・ケア連合学会認定医／家庭医療専門医

○瀧 栄志郎

認定資格：日本小児科学会小児科専門医

○瀬戸 司

認定資格：日本小児科学会小児科専門医

○森定 基裕

認定資格：日本周産期・新生児医学会認定新生児蘇生法専門コース認定

○瀬邊 翠

認定資格：日本小児科学会／日本小児感染症学会／日本小児神経学会

### 活動報告

小児科医師としては、昨年度と同じ、6名の常勤医と1名の後期研修医という体制でした。病棟は、婦人科と内科・外科との混合病棟(33床)で、小児科は、年間1,250件の入院(病棟全体の75%)を受け入れてきました。地域の2次病院という位置付けで、感染症を中心に患者を受け入れていますが、川崎病や肥満症など小児特有の疾患にも積極的に対応しています。また、4年前から始めた重症心身障害児者のレスパイト入院(スマイルケア入院)も、順調に登録者を増やし、今年度は小児科入院の23%を占め、メインの4床部屋が一杯になり、大部屋を2室利用する日も増えています。そして、初期研修医の小児科研修も受け入れており、病棟医療を中心に研修指導しています。救急対応としては、今年度4月より、22時までの拘束体制から、翌朝までの当直体制(日曜日を除く)に変更し、地域の小児救急に少しでも役立つように夜間の体制を強化しました。

### 今後の展望と課題

2018年4月より、小児科としてはより救急対応に力を入れるために、週に6日(日曜日を除く)の小児科当直を開始しました。今年度は、救急車については、月平均44件受け入れており、地域の開業医の先生からの紹介もほぼお断りせずに受けれる事が出来ました。2019年度は、開業医の先生方からさらに紹介を増やしていただけるように、連携を強めていきたいと考えています。レスパイト入院についても、年々利用者数が増えています。さらに満足度を上げるべく、重症度にかかわらず入浴やリハビリを実施できるような体制も検討していきたいと考えています。



# チルドレン&ウィメン・ヘルスケアセンター(産婦人科)

## 担当医

### ○坂本 能基(産婦人科主任部長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医／日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医／日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医・指導医／日本東洋医学会漢方専門医／母体保健法指定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

### ○内田 学(産婦人科部長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／母体保健法指定医／麻酔科標榜医／日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影認定医／産業医／堺市身体障害者福祉法指定医師(小腸機能障害)(膀胱又は直腸機能障害)／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／臨床研修指導医

### ○松岡 智史(医長)

認定資格：日本産科婦人科学会産婦人科専門医／日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医／日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コース修了

### ○高木 力

認定資格：臨床研修指導医

### ○三武 普

認定資格：日本産科婦人科学会専門医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コース修了／ALSOインストラクターキャンディデート／日本母体救命システムJ-CIMELSベーシックインストラクターコース修了

### ○嶋田 真弓

所属学会：日本産科婦人科学会専門医

### ○後藤 剛(後期研修医)

所属学会：日本産科婦人科学会

### ○小川 萌(後期研修医)

所属学会：日本産科婦人科学会

## 活動報告

病診連携の強化を図る努力を行っている。オンラインによる産婦人科予約システムの導入。クリニックからの緊急対応は必ずお受けする、など。

《産科》 妊婦から見た当院の魅力である以下の点を特に意識して取り組みました。

- ・総合病院であり、安全、安心、信頼がある  
帝王切開率は一般病院と比較して低いが、新生児仮死が少なく、安全・安心・信頼のお産を実現できている  
無痛分娩を安全に管理出来るように、ガイドライン安全基準を満たしている  
超緊急帝王切開を施行できる(年3回の訓練を行っている)
- ・分娩費が他院と比較して安く、良心的である  
分娩一時金内に分娩費用を設定
- ・母子同室 全室個室化(差額室料は無料)  
家族のふれあいの実現が達成できている  
休養をとりやすい環境を提供できている
- ・立ち会い分娩 陣痛期、分娩期を通して、家族とともに過ごせる環境づくり
- ・小児科との連携強化

《婦人科》

- ・婦人科3分野、腫瘍、内分泌、ウーマンズヘルスケアを網羅している。
- ・腫瘍  
がん 婦人科がん全ての癌手術が可能。放射線療法は他院と連携。  
内視鏡下手術(腹腔鏡・子宮鏡) 婦人科手術の約60%は視鏡下手術  
手術は美容面に配慮し、開腹術でも術創を最小にするよう工夫している。
- ・不妊症は保険適応内診療が可能。
- ・ウーマンズヘルスケア 専門医による診療  
女性心身症、更年期障害、適応障害、不安障害、産後うつ病、骨粗鬆症  
婦人科内分泌学、心身医学、東洋医学をバランス良くミックスし、幅広い治療を行っている。

## 今後の展望と課題

医療の質をさらに高める努力をします。

- ・新たな命の誕生を祝福できる環境の整備を継続します。
- ・医師・助産師・看護師の数・質ともに向上させます。

# 泌尿器科

## 担当医

○田原 秀男(副病院長 兼 泌尿器科部長 兼 がん支援センター長)

認定資格：日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医／日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医／堺市  
身体障害者福祉法指定医師(膀胱又は直腸機能障害)／医学博士

○沖 貴士(泌尿器科医長)

認定資格：日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医／日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本がん治  
療認定医機構がん治療認定医

○高橋 智輝

所属学会：日本泌尿器科学会

○大森 直美

認定資格：日本病態栄養学会NSTコーディネーター

## 活動報告

2018年度の総手術件数は512件と、過去最高の件数でした。全身麻酔の件数も109件と、以前に比べて3倍近く増加しました。また緊急手術も47件になり、毎週1件の割合で緊急手術を行っていることとなります。手術件数が増加した背景に、尿路結石に対するレーザー手術を導入し、この治療に対する紹介患者が増えたことが挙げられます。3月ごろから治療を開始し、徐々に他施設からの紹介も増え合計89件を行いました。2019年4月現在も10件/月のペースで順調に経過しています。また11月に近畿厚生局から、近畿圏内では3番になる前立腺がんに対するTRUS/MRIフュージョン生検の高度先進医療の認可を受け、12月から開始しました。現在紹介患者はまだ少ない状況ですが、講演依頼を受け2019年5月に南大阪の泌尿器科医が集まる研究会で詳細を報告する予定です。

学会活動に関しては、日本泌尿器科総会と関西地方会に2演題発表しました。

## 今後の展望と課題

結石治療におけるレーザー碎石術は、安定して紹介患者を獲得することができるようになりました。そのため今後も症例数を増やすとしたら、前立腺癌に対するTRUS/MRIフュージョン生検の紹介患者を獲得することが展望と考えています。そのため、今年度は様々な研究会や学会で報告する予定にしています。

# 整形外科

## 担当医

○河原林正敏(副病院長 兼 整形外科部長)

認定資格：日本整形外科学会整形外科専門医／臨床研修指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(肢体不自由)

○吉岡 篤志(整形外科医長)

所属学会：日本整形外科学会／中部日本整形外科災害外科学会

○小松 俊介(後期研修医)

○守津 汀(後期研修医)

所属学会：日本神経学会／中部日本整形外科災害外科学会

## 活動報告

- ・当院整形外科では、骨折を主とした外傷の手術に加え、脊椎手術や人工関節置換術にも力を入れています。脊椎の手術は、大半の症例を顕微鏡視下で行っております。人工関節置換術には侵襲の少ないアプローチ法を導入しております。治療を受けられる患者さんの身体への負担を極力減らすべく、当科では低侵襲手術の導入と実践に引き続き取り組んでいきます。
- ・2018年度の総手術件数は486件で前年度の424件から約15%の増加でした。中でも脊椎手術が131件と多く、前年度の106件から約24%の増加となりました。
- ・2018年度に初期研修医6名の研修、医学部生1名の臨床実習を受け入れました。

## 今後の展望と課題

- ・2019年度には医師1名が1年間の外部研修に出向します。当面は診療体制が厳しくなりますが、研修を終え帰任する2020年度にはさらに診療内容の充実が期待されます。

# 心臓血管外科

## 担当医

○井上 剛裕(心臓血管外科部長)

認定資格：日本胸部外科学会認定医／日本外科学会外科専門医／心臓血管外科専門医・指導医／心臓血管外科指導医  
／堺市身体障害者福祉法指定医師(心臓機能障害)

## 活動報告

周囲施設や医院から患者様の受け入れやご紹介も多くなっています。専門的手術治療を目的とした他院へのご紹介も増加しています。地域連携、循環器センター・サポートチーム、医療スタッフとの協働も増加し複雑化しており連携の流れがスムーズにいくように、またさらなる地域医療のハブ的役割を担えるように従事・努力しています。2018年度は、心臓血管外科専門医認定修練施設の関連施設認定(血管外科)を取得しています。その維持に手術治療・周術期管理の向上に努めています。

## 今後の展望と課題

入院契機に心不全増悪なく筋力低下や臥床などのために、術後に自宅退院困難になることが見受けられるようになってきています。ときに介護できる御家族様が不在のこともあり、退院後も安心して生活できることを目標にスタッフそれぞれが業務範囲を超越した医療サービスを行うよう努力していきます。当院心臓血管外科で外科的治療の介入可能な患者さんに安全・安心な医療を提供するために、組織横断的な患者様情報を共有し、術前からの医療介入に努めていきます。また将来、医療経済面で困難な状況がくることが予測され、不利益な経済的侵襲を回避し、患者さん・医療者、両者の経済的負担を軽減していく医療をめざしていきます。

# 脳神経外科

## 担当医

○田中 禎之(脳神経外科部長)

認定資格：医学博士／日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医／日本脳神経外科学会近畿支部学術評議員／日本脳卒中学会認定ICLS・BLSコースディレクター／日本救急医学会・日本神経救急学会認定ISLSディレクター／医師臨床研修指導医講習会終了／共用試験医学系OSCE 評価認定講習会修了

## 活動報告

2018年8月1日付けで脳神経外科部長として着任。

同年10月から毎週木曜日午後より完全予約制で脳神経外科外来を開始する。

主な疾患は、脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、てんかん、顔面痙攣、三叉神経痛など。

2018年5月27日：第21回和歌山ISLSコース参加 インストラクター ランチョンセミナー座長

2018年12月9日：第22回和歌山ISLSコース参加 インストラクター

2019年1月20日：第16回和歌山生協病院ICLSコース開催 コースディレクター

2019年2月17日：第65回耳原総合病院ICLSコース参加 インストラクター

## 今後の展望と課題

2019年4月より外来日は木曜日から月曜日に変更。

かかりつけ医と地域連携をはかり、紹介・逆紹介患者数を増やす。

脳外科連携病院に、外科治療が必要な患者を速やかに紹介する。

脳神経外科医、脳神経内科医、研修医の獲得を目指す。

2019年4月14日：第1回みみはらISLSコース開催予定 コースディレクター

2020年3月1日：第2回みみはらISLSコース開催予定 コースディレクター



# ● リハビリテーション科

## 担当医

○田中 禎之(脳神経外科部長)

認定資格：医学博士／日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医／日本脳神経外科学会近畿支部学術評議員／日本脳卒中学会認定ICLS・BLSコースディレクター／日本救急医学会・日本神経救急学会認定ISLSディレクター／医師臨床研修指導医講習会終了／共用試験医学系OSCE評価認定講習会修了

## 活動報告

- 【スタッフ数】理学療法士42名、作業療法士15名、言語聴覚士10名
- 【リハビリ処方数】平均月323件(回りハ病棟除く)
- 【入院からリハ処方までの日数】平均1.1日 2日以内の処方割合88.5%
- 【回りハ病棟】50床 平均提供単位数5.7単位
- 【在宅復帰率】93.8%
- 【FIM利得】19.1点
- 【実績指数】平均45.1点

ICUの超急性期から一般病棟、回復期リハ病棟、緩和ケアと多方面にリハビリを提供しています。リハビリは2日以内に処方し、早期介入による廃用症候群予防、合併症予防に取り組んでいます。心臓リハビリテーション指導士による心臓リハビリを提供しています。呼吸療法認定士による呼吸リハなど専門分野にも取り組んでいます。がんリハビリテーションに取り組んでいます(16名研修終了、2019年8名研修予定)。一般病棟では集団レクや認知症・せん妄対策に取り組んでいます。新人教育ではユマニチュードを用いて、よりよい療養生活の提供を迫っています。回復期リハビリ病棟では、提供単位数の増加とともに、休日リハビリを導入しました。

## 今後の展望と課題

- 2025年度問題に向け、今後益々回復期病棟の需要が高まるとされる。
- 2019年4月近隣に回復期リハビリテーション病院が新設、競争の激化が予測される。
- 回復期リハ病棟における疾患割合を脳血管疾患リハビリテーションにシフトする。
- レスパイト入院におけるリハビリ介入を開始する。
- 術前呼吸器リハビリ開始する。
- 外来リハビリテーションの縮小、中止を検討する。

脳外科専門医としてリハビリスタッフの教育を充実させ、質の高いリハビリ医療の提供を目指す。

2019年5月11～12日：第17回回復期リハビリ病棟専従医研修会に出席予定

# 緩和ケア外科

## 担当医

### ○奥村 伸二(病院長)

認定資格：日本外科学会外科専門医／日本麻酔科学会麻酔科認定医／厚生労働省麻酔科標榜医／プライマリケア連合学会指導医／堺市身体障害者福祉法指定医師(呼吸機能障害)／産業医

### ○坂本 英代

認定資格：日本緩和医療学会認定医／緩和ケア指導者研修会修了

## 活動報告

がん患者さんの急変、特に在宅で療養中の方への対応をするために、一般病棟を緩和対応としたことで、かなりの患者さんを収容することが可能となった。地域支援病院、がん拠点病院としてもその役割を大いに果たしていると自負できるものだったと思います。

## 今後の展望と課題

2019年度は緩和ケアを経験してきた医師が参加予定で、医療内容の充実が見込める。2020年度の診療報酬改定に向けて地域の医療機関や介護機関との連携を強める展開を行っていききたい。また、がん治療中でも症状緩和を行えるように、積極的に緩和医療をアピールしていく土台作りを行いたい。

## 緩和病棟関連資料

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
入院数	300	306	297	306	199
延べ患者数	6,857	7,755	7,563	7,274	8209
病床利用率	89%	92%	89%	87%	96%
平均在科日数	23.6日	24.2日	22.6日	20日	24日

### ①主な紹介元医療機関(2018年度)

医療機関名称	紹介件数
院内紹介/法人内紹介	166
堺市立総合医療センター	111
大阪労災病院	50
近畿大学医学部附属病院	29
大阪国際がんセンターがんセンター	15
大阪急性期・総合医療センター	10
鳳胃腸病院	9
近畿中央呼吸器センター	8
大阪市立大学医学部附属病院	8
その他	110

### ②退院経路一覧

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
死亡	256	262	282	281
退院	42	26	41	49
転院	4	1	6	1
転棟	4	15	13	6

## 精神科

### 担当医

- 森田 大樹(非常勤)  
認定資格：精神保健指定医／日本精神神経学会精神科専門医
- 杉田 義郎(非常勤)  
認定資格：精神保健指定医
- 大野 草太(非常勤)  
認定資格：精神保健指定医／日本精神神経学会精神科専門医
- 金 詩園(非常勤)  
認定資格：精神保健指定医
- 鈴木 基之(非常勤)  
認定資格：精神保健指定医

### 活動報告

外来診療において、精神疾患全般の診療に当たりました。初診患者数は年間35人でした。受診年齢層は思春期から高齢層まで幅広く広がっています。対象症例としては、家庭内や職場のストレス、トラブルが原因の神経症圏が最も多く、次にうつ病、続いて精神病の急性期や慢性期、認知症症状などを中心に診断・治療にあたりました。他の医療機関からの紹介外来も多く、年間24件ありました。

当院が総合病院である為、他科からの診療依頼も多くコンサルテーション・リエゾン活動も活発に行いました。また、介護老人保健施設みみはらに入所されている方の精神症状が顕著となった場合の診察や、月1回の往診を継続しました。

### 今後の展望と課題

当院の精神科外来診療の特色と致しましては、当院が総合病院であるため、地域の精神科クリニックとは異なり、他科との併診という形の多さが挙げられます。つまり、当院他科も受診している患者さんの当科受診希望に対応していくことは、地域のニーズに応えるために欠かせないポイントであると考えており、今後も実践していく所存であります。

また、当科は病床を有しておりませんが、他科入院中の患者さんが様々な精神症状を呈した際に、主治医や病棟スタッフと共にアプローチを講じていく、いわゆる「リエゾン・コンサルテーション」にも重点をおいていきます。

更には老人保健施設みみはらへの定期的な往診を継続して実施し、施設入所者さんの精神症状へのアプローチにも取り組んでいきます。

## 麻酔科

### 担当医

- 鎌本 洋通(麻酔科部長)  
認定資格：医学博士／日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医／厚生労働省麻酔科標榜医／日本ペインクリニック学会専門医／日本心臓血管麻酔学会専門医(正式認定)／日本周術期経食道心エコー認定医／臨床研修指導医／麻酔科標榜医
- 杉山 円(麻酔科医長)  
認定資格：日本麻酔科学会麻酔科専門医／麻酔科標榜医／日本周術期経食道心エコー認定医／臨床研修指導医
- 木下みやび(麻酔科医長)  
認定資格：日本麻酔科学会麻酔科専門医／厚生労働省麻酔科標榜医
- 岩崎 紗世(麻酔科医長)  
認定資格：日本麻酔科学会麻酔科専門医／厚生労働省麻酔科標榜医

### 活動報告

当麻酔科は2014年度から日本麻酔科学会認定病院となり、2015年度から麻酔科専門医研修プログラムに基づく近畿大学の病院群の基幹研修施設となりました。現在4名の常勤医と近畿大学麻酔科からの応援医師で手術室管理を行っています。新病院に移行してから4年たちますが、手術件数は2,172件、そのうち全身麻酔症例は1,295件と順調に増加しています。麻酔科の主な業務は臨床麻酔のほか、術前術後診察、研修医指

導、緩和ケアや院内ペインクリニック関係のコンサルト、など多岐にわたりますが、一番の仕事は安全な手術麻酔管理により中央手術部門を円滑に運営することだと考えています。手術麻酔管理・集中治療はともに中央部門である為、他科の医者だけではなくコメディカルの方たちとのチーム医療が重要であり、良いチーム医療を遂行することは安全性の向上のみならず、医療の質の改善にもつながるものと思ひ、日々努力しております。

### 今後の展望と課題

今日の当院麻酔科の課題は、絶対的な麻酔科医不足にあります。麻酔科医不足が解消されれば、今後集中治療管理やペインクリニック開設など麻酔科のサブスペシャリティを生かした活動を展開する予定です。

## ● 病理診断科

### 担当医

○木野 茂生(副病院長 兼 病理診断科部長)

認定資格：日本病理学会病理専門医・指導医／日本臨床細胞学会認定細胞診専門医／臨床研修指導医

### 活動報告

患者さんが病院に来られて、適切な治療を受けていただく為には、まず、適切な診断がなされることが必要です。その際に、しばしば「病理診断」が最終診断として大きな役割を果たしています。病理診断科の主な業務は 1. 細胞診断 2. 生検組織診断 3. 手術材料組織診断 4. 手術中迅速検査 5. 病理解剖の5つで、特に、がん死亡の2次3次予防について重要な役割を果たしています。

当科では、通常の染色や特殊染色に加え、一定の免疫組織化学的検索(50種以上)を活用し、正確な組織診断がなされる為の努力を行っています。さらに、診断に難渋する場合は、他施設の病理医を含めた検討や学会コンサルテーションなどの積極的活用を行っています。対象疾患は、内科系・外科系あるいは腫瘍・非腫瘍を問わず全ての疾患ということになります。特に、外科系であれば、消化器一般、呼吸器、婦人科、泌尿器の検体が多く、内科系では、肝生検、腎生検、皮膚生検、肺生検、骨髄生検をはじめ一般内科が取り扱う非腫瘍性病変全般も取り扱っています。また、各臓器の一般的な塗抹細胞診や吸引細胞診はもとより、細胞診断が重要な子宮がん、肺がん、膀胱がんなどのスクリーニング検査も行っています。

### [主な検査機器]

1. 自動染色装置
2. 自動包埋装置
3. 自動尿標本作製装置

### [カンファレンス等]

毎週行われる消化器外科、乳腺甲状腺外科、婦人科の術前術後カンファレンスに、病理医が直接参加し、総合的に患者さまの診断や治療方針に関する検討を行っています。また、解剖症例については、定例の院内臨床病理カンファレンス(CPC)や年数回の公開CPCを開催しています。

### 診断方法：

HE染色による病理組織診断、各種の特殊染色、酵素抗体染色による補助的組織診断。

パパニコロウ染色およびギムザ染色による細胞診断、各種の特殊染色、酵素抗体染色による補助的細胞診断、セルブロック作製による診断。外注検査として、EGFR遺伝子変異解析、RAS遺伝子変異解析、ROS-1、Her2/neu(FISH)やALK-IHCなどの検査を利用しています。

### 今後の展望と課題

新専門医制度に対応するべく、専門医研修病院としての要件を満たす為に、協力いただける基幹型研修病院である大阪市立大学との連携を早期に実現していくことが求められています。また、現在、受託を行っている院所については、診断についてのさらなる精度管理、迅速性を追求し、的確な病理診断を提供できるように、随時、努力していきたいと考えております。一方、一人病理医の欠点を補うための方策として①嘱託病理医との連携②基幹型病院が行うカンファレンスへの参加③病理学会コンサルテーションや近隣の病理医のコンサルテーションの積極的活用などを追求していきます。また、現在参加している乳腺外科、一般外科系のカンファレンスのみならず、呼吸器科や泌尿器科など他科のカンファレンスへの参加を具体化していく必要があります。

## 放射線科

### 担当医

○岩本 卓也(放射線科部長)

認定資格：日本医学放射線学会放射線診断専門医／日本インターベンショナルラジオロジー学会IVR専門医／日本核医学会PET核医学認定医

### 活動報告

2018年度は読影数はCT、MRI、消化管造影、RI等を含め年間約29,800件となり、昨年比10.5%の増加がみられた。

CTおよびMRIの所見は翌日にはおよそ85%以上の所見の返却を達成することができた。またIVR件数も年間157件とほぼ昨年と変わらず、TACEやシャントPTA、中心静脈ポートを中心に各科の依頼に対応している。

今後もより一層、各科の診療に貢献したいと考えている。2月には院内の勉強会で、地域のスタッフ等に対して“中心静脈ポート留置術”の講演を行った。

### 今後の展望と課題

和歌山医大放射線科との遠隔読影システムの運用をうまく行い、一層の所見時間の短縮や内容の充実を目指し、読影量の増加にも対応したいと考えている。また日本医学放射線学会認定の修練機関として認定されているため、常勤医の増加を期待している。

## 歯科口腔外科

### 担当医

○荻澤 良治(歯科口腔外科医長)

認定資格：日本口腔外科学会口腔外科認定医／日本口腔感染症学会院内感染予防対策認定医／日本口腔ケア学会口腔ケア4級認定／歯科医師臨床研修指導医／AHA-BLSヘルスケアプロバイダー／日本救急医学会ICLSコース修了／PDN嚥下機能評価研修会修了

○長谷川 淳子(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

○岸本 裕充(非常勤医師)

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 主任教授

○船岡 勇介(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

○服部 洋一(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

○押谷 将之(非常勤医師)

所属学会：日本口腔外科学会

### 活動報告

外来診療は地域医療機関からの紹介患者が増加、外来手術件数も増加した。今年度も継続して近隣医院に訪問も積極的に行った。入院患者は53件と昨年度と同等の件数であった。

全身麻酔下手術は22件と昨年より微増。鎮静手術は7件、総数29件と昨年度を上回った。手術症例は増加傾向で、対応すべく研鑽に努める。

周術期口腔機能管理も昨年度に引き続き医科との連携を重視し行った。今年度は1,282件対応を行った。緊急・準緊急手術も可能な限り対応するよう努めている。周術期口腔機能管理が必要な患者は今後増加するので、病院歯科として対応するために診療体制の強化を進める。

入院患者の専門的口腔ケアは水曜、木曜の口腔ケアラウンドを継続。看護師の指導、知識や技術向上を目標に対応した。口腔管理の第一人者の兵庫医大の岸本裕充教授を招き、看護師向けの修会も開催した。学会も積極的に参加し、第15回日本口腔ケア学会では当科歯科衛生士が筆頭演者で発表を行った。



## 今後の展望と課題

### <展望>

- ・地域歯科診療支援病院として展開していくことが必要である。
- ・診療スタッフの増員に伴い、更なる患者対応を進める。
- ・地域の歯科医院、医院からの紹介患者数の増加のために、更に訪問等の渉外を進める。
- ・周術期口腔機能管理対応の対応及び医科との連携強化を進める。
- ・入院加療が必要な疾患への更なる対応。
- ・全身麻酔下手術件数の拡大。
- ・口腔ケアラウンドの充実。
- ・NST、RSTへの参加。
- ・救急総合診療科との連携診療や対応の拡充。

### <課題>

歯科口腔外科の充実、更なる発展には診療体制の強化、診療スペースの拡大が必須である。  
その上で、病院歯科としての機能の充実を模索していくことが必要である。

# 各委員會活動





## 倫理委員会

### 2018年度 活動状況

#### <倫理講演会企画>

ACP(アドバンスケアプランニング) 5月 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」伝達講習～倫理委員チームで受講した神戸大学医学部主催の講習を伝達～  
職種研修 新人向け 倫理学習講師依頼(医師・リハビリ)

#### <倫理カンファレンス>24件依頼

#### <研究審査依頼・倫理的観点での検討依頼など>

臨床研究審査など倫理審査(治験委員会との役割分担検討中)・学会誌掲載論文査読依頼・大阪民医連学運  
交抄録チェック・各種調査の倫理的配慮検証(民医連熱中症調査、死亡事例調査)

#### <DNAR同意>

昨年度よりDNAR同意のカルテ記載の重要度登録・テンプレート活用ルールを開始。DNAR重要度、月に約40件うち7～8割「テンプレート使用」。引き続き、医局などでアナウンスを継続。同意書作成件数は増えず来年度の課題とされる。

#### <ガイドライン改訂>

倫理委員会規定患者様の権利章典(当院の姿勢と患者様に望むこと)  
説明と同意に関する方針・手順および説明書同意書の書式・説明内容に関する指針  
耳原総合病院の職業倫理規定  
耳原総合病院終末期医療に関するガイドライン  
耳原総合病院宗教的輸血拒否に関するガイドライン  
耳原総合病院DNARガイドライン  
耳原総合病院臨床研究規定臓器提供を申し出る方への対応手順  
耳原総合病院臨床倫理の基本方針  
臨床倫理討議手順  
症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針  
厚生労働省「人を対象とする医学的研究に関するガイドライン」に基づいた院内規定の整備・改定

#### <意見上申>

- ①大阪民医連熱中症調査学歴聞き取りについて
- ②全日本民医連経済的事由による死亡手遅れ事例調査について

#### <研修受講>

5月全日本民医連医療倫理交流集会 松廣・平井(指定報告)・庄司(全日本委員)

### 2019年度 活動予定

#### ・倫理カンファレンス

開催依頼のない部署へのよびかけ、「M」医学的評価や倫理的過大を現場で一定整理できるよう働きかけを行う。また倫理カンファレンスを進行できる人材を増やす。

#### ・学習ツール

倫理・プライバシーに関する職員教育ツールやe-ランニングにて学習を検討していく。

#### ・DNAR同意

同意書作成件数が増えていないため、学習会を含め検討していく。

#### ・学習会

学部講師を招き、倫理学習会を検討していく。

## 安全衛生委員会

### 2018年度 活動状況

#### 1. 疾病別発生状況(診断書)

精神疾患系22件、筋骨格筋系17件、婦人科12件、一般疾患48件(休業91件と制限勤務6件) 合計105件  
毎月新規発生、継続者に関しての報告を実施し、対応が必要なものについては面談依頼を行った。

#### 2. 職場ラウンドを実施し、改善が必要があれば検討を実施。

4月：サポートセンター 5月：なし 6月：ER 7月：栄養管理課 8月：医事課 9月：11階病棟

- 10月：13階病棟 11月：12階病棟 12月：10階病棟 1月：9階病棟 2月：8階病棟 3月：7階病棟
3. 針刺し事故報告を受け、情報共有、必要事項については感染対策委員会等へ提案を行った。  
針刺し発生数44件、内医師15件、看護師23件、その他6件 HCV追跡対応10件。
  4. 職員健康診断の100%受診を目指し取り組んだが、対象者830名中1名の未受診者となった。結果判定後に要医療以上と出た人278名(36%)の内38名(14%)のみ精査受診済との報告に留まった。
  5. 定期ワクチン接種に加え、麻疹対応も行った。
  6. 45時間超え長時間勤務者について、名簿で確認の上、職場への改善指導を行った。45時間超え長時間勤務者に対しては、産業医面談を随時実施した。

## 2019年度 活動予定

1. 疾患別発生状況(診断書)については、毎月新規発生、継続者に関する報告をおこない、対応が必要なものについては産業医、産業保健師と連携を図っていく。
2. 職場ラウンドを実施し、必要な点についてはすばやく改善していく。
3. 針刺し事故報告を受け、情報共有し、必要があれば感染対策委員会等と協力し改善提案を行う。
4. 職員健康診断の100%受診を目指し、要医療判定者には2次精査受診促進の取り組みを行う。
5. 40時間超え長時間勤務者について名簿で確認の上、職場への改善指導を行う。
6. HB、4種感染症抗体価、予防接種歴について、派遣職員、研修医等についても確認を実施していく。
7. ストレスチェックの結果を踏まえて、職場長対象の学習会を開催していく。

# 医療安全対策委員会

## 2018年度 活動状況

### ①質改善の取り組み

- QIデータの活用：医療安全としては活用できていない。
- 機能評価に向けた質改善の取り組み(ポケットハンドブックの作成、身体抑制マニュアルの見直し、深部静脈血栓予防ガイドラインの見直し、救急カートの見直し)。
- ドクターハート死亡事例の検討(予期せぬ死亡事例の場合)：院内死亡事例の全数把握の取り組みを開始
- QMSの活動とサポート(QMS大会 参加者81名 ⇒今年度から事務局会議を設け、打ち合わせを行うようにした。昨年よりはPDCAは回ってきたが、回しきれていないチームもあった。)
- 報告システムの変更と導入後の活用の周知活動(ドクターハート等の報告管理もファントル君に変更、年間報告数は3,000件/年を2015年以来下回った。)
- 医療安全地域連携加算に関する取り組み(I-I連携：ベルランド総合病院、西淀病院への相互ラウンド、I-II連携：大仙病院、堺山口病院への訪問)。
- 患者影響レベル3b以上の医療事故発生時の報告ルートの見直し。  
Goodjob報告：117件(前年度：221件)。
- 急変・死亡等の事例、インシデント事例検討数 ⇒ 26事例。

### ②研修・教育

『考える職員づくり』を目標に、全職員対象に以下の研修を行った。

e-ラーニング『患者確認と指差し呼称』 参加率90%

e-ラーニング『医療ガス安全』 参加率100%

医療介護安全推進月間学習会と職場学習『タイムアウトを文化に』+e-ラーニング 参加率97%

e-ラーニング『アラームへの不適切な対応』 参加率97%

同仁会 医療介護安全大会(講師；大阪市立大学病院 山口悦子氏) 参加人数191名

看護師1、2、3年目医療安全研修

医師医療安全大会(COML 山口育子氏)

医療介護事故紛争対応交流会(元パイロット 小林宏之氏) 医師11名参加 他職種21名参加

医薬品関連学習会：9回開催

医療機器学習会：20回開催

呼吸器ケア認定制度：認定者27名(2回開催)

全日本民医連医療介護管理者顧問弁護士交流会 堀井 大田 渡辺

全日本医療介護安全交流集会 大田 渡辺

### ③その他

- ・橋本RM退職により渡辺副看護部長が医療安全管理者に就任

#### 【医薬品安全】

##### <総括>

- ・周術期センターとの協同により周術期患者への術前チェックの仕組みが稼働、11月より薬剤師によるチェックを開始。低用量ピルの事例やサプリメントの扱いの基準を統一した。
- ・オペ室と共同で麻酔導入セットを導入し、手術室における筋弛緩薬・抗精神病薬等の管理を強化。
- ・高カロリー輸液投与時の血糖等のチェック項目をNSTと確認し実施開始した。
- ・医薬品に関する学習会は、小規模ながら複数回実施できたが、参加人数が少なかった。  
ハイリスク薬及び新規採用薬においても適正使用のための学習会を実施  
インスリン4回、麻薬・抗精神病薬1回、吸入薬2回、新規採用薬2回
- ・保険薬局との連携強化のため、化学療法のレジメン学習会を実施

##### <方針>

- ・医薬品業務手順の順次改定
- ・周術期患者への術前・術中・術後のかかわりの強化
- ・引き続き医薬品に関する定期的な職員への教育

#### 【医療機器安全】

##### 「2018年度振り返り」

1. 医療安全管理者の次世代育成  
新たな機器責任者が着任し、機能評価でもSランクの躍進を遂げた。  
院内への周知と新たな着眼点を活かした取り組みができた。
2. ～継続～人工呼吸器ラウンド・MEニュース・機器点検・院内学習会  
現状の取り組み以外に、耳原発の【院内人工呼吸器認定】を開催でき、第2回まで継続開催できた。  
今後も、継続して呼吸器の安全使用に貢献したい。
3. 新たな医療機器安全の構築  
OPE室内の機器管理に関与して全貌の把握ができた。  
次年度は、機器の保守点検をスケジュール化して遂行していきたい。

##### 「2019年度目標」

- ～継続～ MEニュース・院内学習啓蒙活動・機器点検など
- ～挑戦～ 医療機器情報発信への取り組み 見える化！
- ～改善～ コスト削減と安全へのApproach

### 2019年度 活動予定

#### ①質改善の取り組み

- ・メディエーション研修へ継続して参加し、メディエーターを育成する。
- ・ヒヤリハット、Goodjob報告数を増加させる取り組みの具体化  
報告数減少の原因分析を行なう。  
報告されたヒヤリハットがどのように活用されたか見える化を行なう。ヒヤリハット報告に対する改善策を発信する。  
多職種で改善案について検討できるような仕組みを構築する。
- ・QMSの認知向上と担当者の活動支援

#### ②研修、教育

- ・医療安全管理室主催でsafety-II、KYTに関する学習会を行なう。
- ・看護部門研修委員会より依頼 ⇒1年目(報告連絡相談)2年目(KYT)3年目(事例分析)
- ・ポケットハンドブックを活用した学習
- ・e-ラーニングの活用  
(大阪民医連医療安全委員会の2019年度活動方針を受けて下記の項目について取り組むことを検討する)
- ・TeamSTEPSツール(SBAR、2回チャレンジルール、ブリーフィング、デブリーフィング)
- ・タイムアウト(手術室、血管造影室、内視鏡室、人工呼吸器)
- ・危険手技のチェックリスト(CVC、気管挿管)
- ・ポジティブインシデント報告システム
- ・医療事故調査制度の適用システム

## ◆◆◆◆◆◆◆◆ 災害対策委員会 ◆◆◆◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

#### 【災害対策/BCP策定プロジェクト】

- ・ER、ICU、OPE室の発災から1時間までの行動計画策定
- ・災害対策本部、診療調整部門のミッションシート見直し
- ・大阪北部地震・台風21号時の対応振り返りによる課題抽出
- ・2018年度BCP訓練の企画
- ・2019年3月2日 BCP訓練開催

#### 【BCPの質管理】

2018年7月29日 レジリエンス認証(国土強靱化貢献団体認証)の新規取得

#### 【教育・啓発活動】

- ・6月29日 非常食調理に関する学習会の開催(主催：栄養管理科)
- ・8月19日 薬剤師対象災害時机上訓練への参加(主催：堺市立総合医療センター)
- ・自衛消防業務講習に、MEとリハビリから1名ずつ参加
- ・SDMEC(堺災害医療教育研修センター)研修への参加
- ・患者安全推進全体フォーラム「減災」への参加

#### 【医療ガス安全管理委員会として】

医療ガスの安全な取り扱いに関する学習企画の実施

#### 【廃棄物適正処理委員会として】

パラフィンブロックの廃棄方法決定

### 2019年度 活動予定

- ・既存BCPのブラッシュアップと訓練の企画・開催
- ・災害対策本部、診療調整部門間での情報伝達(机上)訓練の実施
- ・システムダウン等による電子カルテ停止時のBCP立案

## ◆◆◆◆◆◆◆◆ 入院医療標準化委員会 ◆◆◆◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

#### ・活動状況

事務局会議 毎月第3月曜日 9:00~10:00

定例委員会 毎月第3金曜日 17:00~18:30

#### ・各委員会、部署別報告実績

毎月の委員会開催後の活動報告資料提出

提出資料に基づき報告

#### ・MPOC報告実績

各病棟師長による月交代での病棟倫理カンファレンスの報告資料

提出資料に基づき報告

#### ・学習会

職種の壁なく全職員のスキル、クオリティ、knowledge up目的にて学習会を企画

2018年度は、経営企画4題、感染1題、安全1題 開催

定例委員会は2018年4月~2019年3月まで6回開催。

委員の交代；2019年1月より、渡辺副看護部長から平井副看護部長へ交代

(食栄)長谷川から梁へ交代

### 2019年度 活動予定

2018年度は定例委員会の日程が、他の病棟会議等と重なり、出席者が激減していた。

また、報告資料も他の委員会で既に聞いているという声もあった。

2019年度はこれらを鑑み、変更すべきところは変更し、委員会としての役割をより高めてゆく方針。

定例会の日程は他の会議となるべく重複しないよう、第4火曜日17時開始へ変更した。



時間も1時間で終わるように、前もってレジメを配布し、報告がスムーズになるようにする予定。  
規定を見直し、当委員会活動をより活発にする方向へ。

## クリティカルパス委員会

### 2018年度 活動状況

#### ①既存パスの修正・見直し

1. パス予定表の見直し(全パス)
2. 看護計画の改定作業(104パス)
3. タスクテンプレートの統一  
⇒全パスに検温票の項目追加

#### ②フレキシブルパスの導入

1. 新規パスの作成  
内科：パス名 PD腹膜チューブトラブル  
循環器内科：パス名 PCI：透析患者
2. 既存パスに新規ルート追加  
内科：パス名 EUS(前日入院・当日入院ルート追加)  
循環器内科：パス名 肺静脈隔離術(入院日の曜日別にルート追加)  
外科：パス名 腹腔鏡下胆のう摘出術(前日入院・当日入院のルート追加)  
パス名 緊OPE(穿孔、イレウス、胆嚢炎、ヘルニア)
3. バリエーションオーダー分析を元にパスの検証

担当	パス名	診療科
6階	パスコード：070104 経産分娩産褥期：(6日)	産婦人科
	パスコード：070102 緊急帝王切開術：(7日)	産婦人科
7階	パスコード：010134 CAG：前日入院(3日)	循環器内科
	パスコード：010142 CAG：透析患者・前日開始(3日)	循環器内科
8階	パスコード：040100 整形外科手術：全身麻酔(AM)(3日)	整形外科
	パスコード：040101 整形外科手術：全身麻酔(PM)(3日)	整形外科
9階	パスコード：020011 スマイルケア入院時パス(男性用)	小児科
	パスコード：020010 スマイルケア入院時パス(女性用)	小児科
10階	パスコード：160002 リハビリ病棟入院転入時：(1日)	リハビリ科
	パスコード：160004 回りハパス	リハビリ科
11階	パスコード：030110 腹腔鏡下胆嚢摘出術：前日開始(5日)	外科
	パスコード：030111 大腸癌手術：前日開始(8日)	外科
12階	パスコード：010144 内視鏡的逆行性膵管胆管造影(ERCP)：点滴なし(5日)	泌尿器科
	パスコード：050176 泌尿器科腰椎麻酔パス(当日入院)	泌尿器科
13階	パスコード：010112 シャント閉塞PTA：1泊(2日)	内科
	パスコード：010185 糖尿教育入院：日曜始まり(14日)	内科
14階	パスコード：030126 緩和ケア病棟入院時パス：(1日)	緩和ケア外科

上記パスのパス以外に使用したオーダーを抽出し、抽出したデータを元にパスの検証を行った。

### 2019年度 活動予定

1. DPC分析ソフトを使ってパスの検証を行う
2. 医療安全とコラボレーションを行い、安全性を担保する

## 褥瘡対策委員会

目的：多職種型の対策チームとし、褥瘡予防と早期治療に貢献し、在院日数の短縮と医療の質向上に寄与する

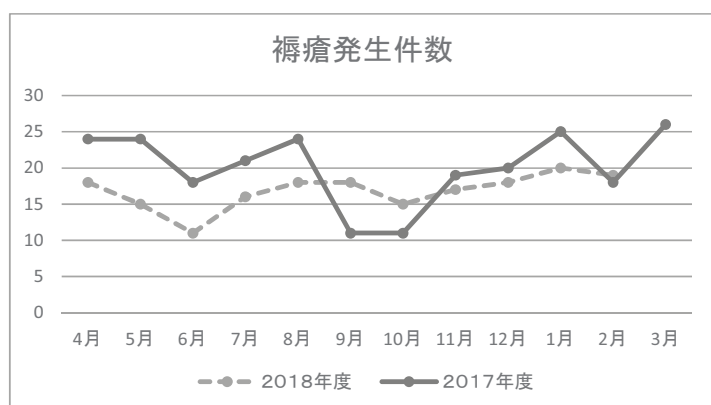
#### ○2018年度の目標

- 前年度より褥瘡発生件数を低下させる
- 褥瘡対策委員会内での学習会の開催し、各部署の褥瘡対策委員の力量をあげ、褥瘡対策委員主体となって

知識の普及をしてもらう

### ○2018年度の月別学習会

- 4月 褥瘡診療計画書の入力方法
- 5月 体圧分散寝具の特徴と選択方法
- 6月 褥瘡対策マニュアル改定に伴うマニュアル説明
- 7月 褥瘡初期アルゴリズム策定に伴う説明
- 8月 DESIGN-R
- 9月 スキンテア
- 10月 上半期目標達成度の発表
- 11月 上半期目標達成度の発表
- 12月 リハビリ科による車いすの除圧
- 1月 栄養科による褥瘡時の栄養について
- 2月 医療関連機器圧迫創傷
- 3月 総括



院内発生総数	
2016年度	178名
2017年度	241名
2018年度	190名

### ○2018年度の目標達成状況

毎月の学習会を行うことと平行して、ラダー教育のコース研修である褥瘡研修を行った事もあり、部署で学習会を開催した病棟は昨年度より増加している。内容としては体位変換やポジショニングを行っている部署が多かった。それに伴って、褥瘡発生件数は2018年度(2月末のデータではあるが)は前年度より低下している。毎月の入院件数は900件台を維持し、病棟稼働率も90%越と業務が多忙であるが、発生件数が低下しているのは褥瘡対策委員の働きかけによる結果と考える。

しかし、体位変換、ポジショニングを学習しているが、体圧分散寝具の適正使用や稼働状況が不明な点が多く、実際に必要な患者に必要な体圧分散寝具が選択されているかの把握が今後の課題となる。

### ○2019年度の目標(上記の課題に基づいて、具体的な目標を記載)

- 褥瘡診療計画書の必要性を理解し、入力不備が減少する
- 褥瘡発生件数(発生率)の減少
  - ・年間総数180件未満、発生率は2%未満
  - ・体圧分散寝具の使用状況の把握を行い適切に体圧分散寝具を選択できる

## ◆◆◆◆◆ NST・給食委員会 ◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

#### NST

- ・有資格者による回診が比較的出来ていた。全体回診に関しては、担当看護師の参加が難しい事があり、来年度からは、全体回診は10階は病棟看護師へ依頼し、担当看護師制は中止していく。
- ・学習会に関しては、新人教育のための学習会は例年通り実施出来たが、委員会が中止となっている期間が長く、後半企画していた学習会が実施できなかった。今年度は学習係を位置づけ、準備等を行って頂いた。
- ・採用栄養剤の見直しは、会議が中止となっていたため会議の中で決定することが難しかったが、新しい栄養剤の学習会を行い、周知することで新規採用に繋げる事ができた。
- ・会議の出席率を上げるために、日程の調整等を行い、委員長が欠席の際は会議後、伝達を行った。



- ・歯科医師連携加算を8階病棟のみにとどまった。

#### 給食

病棟と栄養管理科間で生じた給食に関するトラブル解決、患者さまからの声を給食内容に反映するなど、昨年度に引き続き、この委員会を通じて安全な給食の維持、向上に努める事ができた。特に今年度はパン業者の変更があったが大きな混乱もなかった。

#### 2019年度 活動予定

##### NST

- ・会議参加率を上げる。特に6F、9Fの参加率0%は大きな問題と感じる。会議の参加状況がすぐにはわかるように出席簿を作る。
- ・NST回診件数300件。しかし病棟間でバラつきあり。栄養士のピックアップ時に15人/回を満たしていない場合どうするかを考えていきたい。
- ・学習会の参加が少なかった。数多くの方に参加してもらえる対策作りを考える。

#### 給食

次年度もこの委員会に給食に関する様々な声をあげていただき、活発な討論が出来る場としていきたい。

## 呼吸ケア委員会

#### 2018年度 活動状況

##### ○RCTラウンド

ラウンド回数 45回 実患者数126人 延べ患者数241人

呼吸ケアチーム加算 算定人数93人 算定患者数 139件(150点/件) 2019年3月5日現在

ラウンド対象者のIPPV人数89名 NPPV人数151名(2019年2月末現在)

ラウンド対象者の転帰

呼吸器離脱70名 退院・転院(呼吸器装着のまま)11名 死亡37名(2019年1月末まで)

##### ○委員会活動

今年度より安全管理、標準化、職員教育グループに分けて活動を行った。(グループ活動総括は別紙)

また委員の自己研鑽目的に委員会内での学習会を開催した。

8月「安静臥床の害」11月「qSOFAで敗血症を見逃すな」12月「体位ドレナージ」1月「酸素でーる」2月「呼吸音の聴診」

また、臨床工学科との共催で呼吸器院内認定会を2回(9/15、2/23)開催した。(受講者合計27名)

#### 2019年度 活動予定

##### ○呼吸ケア委員会の運営

委員会規定に基づき、2018年度の運営方法を継続し、院内の呼吸ケアにおける安全管理、標準化、職員教育、自己研鑽の観点に基づく運営とする。

##### ○RCTラウンド

現状通り毎週木曜15時より週1回のRCTラウンドを継続する。対象患者は、呼吸ケアチーム加算算定患者に加え、HCU入室患者とする。小児科患者に関しては、スマイルケア入院以外の患者に限定する。また、呼吸ケア委員会担当者を中心とした各部署のスタッフから依頼を受けた患者に関しては、呼吸チーム加算算定の有無は問わずにラウンドを検討する。

ラウンド時は人工呼吸器の離脱に向けた人工呼吸器設定の変更や人工呼吸器の適切な管理のための援助及び助言を行う。また、離床に向けた援助及び助言、呼吸器に関連した医療関連機器圧迫創傷(以下MDRPU)予防への援助及び助言を中心に行い、対象患者が快適に人工呼吸器管理を受けることができ、速やかに離脱できることを目標とする。

RCTラウンドにおける活動成果を示すためにはデータの集積が不可欠であり、来年度も継続して人工呼吸管理中の体位管理やMDRPUの現状を把握する。また、MDRPUに関しては、皮膚排泄ケア認定看護師との連携を積極的に図る。

## 輸血療法委員会

### 2018年度 活動状況

毎月、ヒアリハット報告とその対応策を検討している。輸血副作用報告も共有している。

今年度は、当日に2パック入れる依頼なのに、病棟間あるいは病棟内での連絡が悪く1パックしか施行できない事例が複数件見られたので、検査科からの払い出し時に“もう1パック有り！”のメモを渡すことで改善が見られた。T&Sオーダー無く、腹腔鏡で大腸癌手術中に5,000mlの出血があり異型適合血O型を投与した。

今年の輸血廃棄率は初めて、目標の3%を下回ることができた。関連スタッフの廃棄率低下の意識が広まったおかげもあると思われる。

【2018年度年間合計】 パック数

購入	RBC	1,152
	FFP	238
	PC	83
	パック数合計	1,472
	購入金額	¥33,642,969

平均廃棄率  
2.40%

パック数

廃棄	RBC	24
	FFP	9
	PC	3
	パック数合計	36
	廃棄金額	¥1,118,786

### 2019年度 活動予定

2019年度も安全な輸血療法ができるよう遂行していきたい。臨床輸血看護師が新たに委員会スタッフに加わり、看護師集団に安全な輸血業務が広めていけるとと思われる。2018年同様血液製剤廃棄率の減少に取り組んでいきたい。

## 診療情報委員会

### 2018年度 活動状況

法令遵守、業務改善、医療の質、診療記録の質の観点を中心に置き、活動を進める。

#### 1. 退院サマリー記載

##### ・医師サマリー

退院後14日以内100%、7日以内90%記載完了を目指し取り組みを強化した。14日以内の記載率は月平均96.8%と前年度より2.6ポイントアップ、7日以内記載率は月平均84.5%で前年度比13.8ポイントと大幅にアップした。未記載のサマリーについても追跡を続けている。毎月、診療マネジメント会議へ記載率を報告。

##### ・看護サマリー

前年度同様、毎月未記載リストを病棟ごとに作成し月1回師長会議へ記載率を報告、毎月の記載率は90~93%を推移している。未記載のサマリーについても記載率100%を目指し追跡を続けている。

#### 2. 診療録監査

##### ・量的監査

重要度登録状況(問題点リストor入院時サマリー、病状説明、カンファレンス)、職業歴記載状況を、毎月診療マネジメント会議で報告。重要度登録活用のために、主要項目はカルテ記事からキーワードで重要度登録されるように設定、登録割合は増加傾向にある。

##### ・質的監査

診療記録監査規定を更新、監査項目・評価基準の統一を行い、各部門で監査を実施した。年2回実施予定だったが1回しか実施できていないため、監査報告のフォーマットを統一し、年2回実施を目指す。

#### 3. 患者情報の管理と運用

今年度は取り組めていない。

#### 4. 診療情報データの活用

院内にQI活動を周知するために、外部講師を招き全職員を対象にQI勉強会の実施、65名の参加があった。また、知識の森に当院のQI指標を掲示、今後は各部門の指標を掲示していく予定。

全日本民医連のQIセミナーに参加(看護1名、コメディカル1名、事務2名)

5. 拡大診療情報委員会  
今年度は開催せず。
6. カルテ記載学習会の開催  
医師をメインとし全職種対象に、診療録の意義やカルテ記載の留意点など、適切なカルテ記載について学習会を開催、44名の参加があった。

## 2019年度 活動予定

法令遵守、業務改善、医療の質、診療記録の質の観点を念頭に置き、活動を進める。

1. 退院サマリー記載  
医師サマリーは退院後14日以内100%、7日以内90%記載完了を目指し、看護サマリーは退院後14日以内90%以上の記載を目指す。医師・看護サマリー共に、全退院患者100%記載完了まで追跡を行う。
2. 診療録監査  
量的監査：同意書や入院診療計画書などの帳票の整備、監査、重要度項目の活用を推進する。  
質的監査：監査報告のフォーマットを統一し、各部門年2回実施する。  
重要度登録の記載内容監査を行う。
3. 患者情報の管理と運用  
患者の継続する身体状況を患者情報「感染・禁忌・身体状況(現在はアレルギー歴)」へ登録することで情報共有を容易にし、また各部門へのシステム連携により安全を管理する。
4. 診療情報データの活用  
QI活動周知のために各部門の指標を作成し知識の森へ掲示、QI指標を活用した業務の改善・見直しを行い、医療の質向上を目指す。  
QIセミナーへ他職種の参加を促す。
5. 拡大診療情報委員会  
必要に応じて開催する
6. 診療情報管理学会学術大会への参加(2019/9/19、20 大阪開催)  
診療情報委員だけでなく、他職種の参加を促す。
7. カルテ記載の質向上を目指し、昨年度に引き続き取り組みを行う。  
学習会の開催(年1回以上)

## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 外 来 診 療 委 員 会 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

1. 収入報告  
今年度は概ね、患者数が減少し、収入が増加する傾向となりました。予算はほぼ毎月、達成となりました。
2. 外来診察室の再編
  - ・心臓血管外科：外来Bから外来Aへ移設。
  - ・呼吸器内科：新規開設。火/金曜日。のち、閉鎖。
  - ・てんかん外来：新規開設。第3水曜日。
  - ・眼科外来：閉鎖。のち、紹介外来として再開設。
  - ・総合診療科：27番エリアへ移設。
  - ・麻酔科(術前外来)：診察室の調整。
  - ・脳神経外科：診察日や運用(読影枠への変更など)等の調整。
  - ・泌尿器科：土曜日の診療枠の閉鎖。
  - ・発達検査外来：9階から27番エリアへ移設。
  - ・呼吸器外科：新規開設。月/金曜日。
  - ・神経内科：新規開設。第2、4、5木曜日(入院患者のコンサルのみ)。
  - ・不整脈外来：新規開設。第1、3、5土曜日。
  - ・ペースメーカー外来：高砂より移管。第2、4土曜日。
  - ・皮膚科：褥瘡ラウンドの担当医師の変更。
  - ・ピロリ外来：外来の縮小。第1、3月曜日。戸口Drが対応します。
  - ・循環器内科/センター：診療体制の変更(医師の帰任、新規採用、外来開設および移管に伴う)
3. 眼科外来のクローズ(他病院への紹介)

約1,000人の患者を他医へ紹介しました。

#### 4. 二人主治医制の推進

外来2人主治医制をスタートさせ、日当円が上昇し、かつI.C時間の確保に繋がりました。

整形外科：日当円⇒27%増(3,987円⇒5,045円)

外科：日当円⇒25%増(18,632円⇒23,232円)

#### 5. WEB予約の導入

• 患者の利便性を上げるため、WEB予約を産婦人科で試験導入した。

⇒WEB予約だけでなく別途予約が必要な場合がある、医師指名があり対応に苦慮する、など課題が多数、見つかった。

結果、他科への導入は一旦見合わせる事となった(産婦人科での課題が解消し次第、再検討)。

#### 6. 周術期センターアジャストナースの設置による業務改善

医療機能評価で指摘された、説明時の看護師の同席およびサインの徹底、患者の理解度の確認と補足が行えるようになった。

#### 7. 不整脈外来の新設、ペースメーカー外来の移管

外来の開設の理由・目的として、アブレーション件数の増加(2017年度：約20件、2018年度：約100件)、これに伴う術後フォローの回数、問診や治療の説明に要する時間が長くなること、等の解消を目指し、開設を計画した(循環器センター)。

サマリー

##### ○診療体制

第1・3・5の土曜日 不整脈外来(新規開設)

第2・4の土曜日 ペースメーカー外来(高砂クリニックより、移管)

##### ○想定されるスタッフ(医師を除く)

看護師：1名、医師事務補助：1名、受付(ニチイ学館)：1名

※検査の件数が多くなれば、検査技師の追加配置を要検討

##### ○想定患者数

不整脈外来：15名程度、ペースメーカー外来：20名程度

##### ○診察エリア

20番エリアで診察を行う(通常の外来と同様)

#### 8. 運用の改善

• ピロリ外来の処方箋を、院内から院外へ変更しました。

• NO Breathの運用について、高砂で機器を購入し、運用するように調整しました(これまで総合で検査していた)

• 紹介MRI患者の受付窓口の変更をしました。

• 待受表示画面(サイネージ)のレイアウトを変更しました。

• 紹介患者向けに、案内を設置した(スムーズに地域連携室へ案内するため)。

### 2019年度 活動予定

#### 1. 二人主治医制の推進

副病院長による、外来2人主治医制に続き、他の医師でも導入し、効果を得る。

#### 2. 日当円が増加する取り組みを検討する

外来で算定可能な指導や加算(未算定もしくは、算定実績の低い指導や加算)に対し、算定フローを作成し、算定件数を増加させる。

収入に対し、前年度比の3%のアップを目指します。現状、3%のアップで年間予算が到達する見込みです。



## コーディング委員会



### 2018年度 活動状況

#### \*活動実績

偶数月第4木曜日 PM3:00~4:00 2018年4月~2019年12月まで開催

#### \*症例検討実績

9症例(うち主治医・担当薬剤師の参加4回)

内科7件・外科9件



## \* 学習会実績

4例 ☆敗血症コーディングについて

☆腰椎圧迫骨折のコーディングについて

☆考え方を共有していくためのミニ学習会

・コーディングのばらつきについて検証 \*心不全のコーディングについて

\*年4回以上は主治医・担当薬剤師・請求担当事務・診療情報担当事務を交え多職種にて症例検討を開催することがDPC病院である要件として施設基準に記されている。

上記要件を満たすことを優先課題とし、2018年度は、外科1回 内科3回の計4回、上記メンバーが参加し10月時点で達成できた。

\*本年度も、主病名の選択に迷う症例を検討課題にし日々の業務に直結する内容の検討が出来た。

\*「スタッフのスキルや理解度によるコーディングのばらつきがあってはならない」との問題提起を受け12月に学習会を開催。今後も引き続き、認識を共有するための学習会を行うなど、対策を追及する。

## 2019年度 活動予定

### 【役割と目標】

1. 診断群分類の適切なコーディングを行う分析と精度の高いデータベース構築を目指す。

2. 標準的な診断群分類決定方法に関する事項の周知徹底と情報共有

委員会の掲げる役割・目的から逸れる事なく運営する。

学習会を積極的に行い委員会メンバーのコーディング能力を向上させ関係職員に学習伝達できる力をつける。

委員会の在り方は診療報酬上の要件が変更ない限り要件を満たす運営を行う。

### 【課題】 コーディング標準化の強化

そもそもマニュアル化が困難なうえ、構成員の入れ替わり等により、コーディングの標準化が増々困難となっている。

### 【活動方針】

1. 【役割と目標】【課題】を実現するために、「主病名の選択に迷う症例検討」と、コーディングの標準化につながるテーマの学習会(主要な病態の理解)の二本立てで会議を開催する。

2. 年度の終わりに症例検討と学習した内容をまとめて、配布かイントラネット配信する。

### 【年間計画】

4/25	症例検討：医事課	ミニ学習「胆石の症例」	講師：外山DR※確定
6/27	症例検討：医事課	ミニ学習「腎不全」	講師：大矢麻DR※依頼予定
8/22	症例検討：医事課	ミニ学習「肺炎」	講師：杉本DR※依頼予定
10/24	症例検討：医事課	ミニ学習「消化器の処置」	講師：河村DR※依頼予定
12/26	症例検討：医事課	ミニ学習：未決定	
2/27	総括&方針		

## 高齢者医療対策推進委員会

### 2018年度 活動状況

1) 精神科リエゾンラウンド再開ー5月末より、毎週(金)ラウンド実施

・カルテ回診+病棟ラウンドー認知症認定看護師、薬剤師、病棟看護師、作業療法士

2) 個室病床へ壁掛け時計開催

・【目的】 BPSD症状の緩和

・【設置日】 2019.1.8~2019.1.10

・【設置数】 97(ER・ICU含め、全病棟個室)

3) ユマニチュード研修

・病院として積極的に研修受講できるよう「起案」上申

・今年度参加者ー7名(看護師6名、OT1名)

・1/31 研修医向け、研修ワークショップ開催

4) アロマセラピー導入

・非常勤スタッフとして雇用されている泉北第二病院(緩和ケア病棟)へ見学

・セラピスト(10年来緩和ケアでボランティアとして施術)+西村ボランティアコーディネーターにて、調整

- ・職員向け、学習会＋ワークショップ
- 5) オレンジカフェ(認知症カフェ)
  - ・奇数月第1(土)実施 5回開催のべ参加者数42名

## 2019年度 活動予定

- 認知症ケア加算I
  - ・ラウンド内容の検証、充実、分析(データ化)
  - ・「認知症サポート医研修」、受講対象医師の明確化と計画的受講
- オレンジカフェ
  - ・堺市、他院との交流
- 法人連携
  - ・訪看、在宅、老健その他事業所との事業連携(学習会、その他)
- 2019.9.27(金) 全日本民医連認知症懇話会(岡山)
  - ・演題準備

## がん診療推進委員会

### 2018年度 活動状況

#### ■大阪府がん診療拠点病院としての府・市部会の参加

- ・がん診療推進ネットワーク協議会をはじめ、各部門(緩和ケア部会、がん相談支援部会、情報部会、パス部会など)へ参加、二次医療圏においても、早期からの緩和ケアの普及など協働している。
- (堺市緩和ケア部会) 市民向けの緩和ケア啓発活動として「まちかどがん相談」に医師2名、看護師5名、MSW1名が参加協力した。
- (堺市) 市民を対象としたがん検診の啓発を目的として、「堺市健康フェスタ」の相談ブースに出店、協力した。
- (堺市がん相談支援分科会) がん相談センターの認知度調査の取り組みに協力した。

#### ■院内活動

- ・院内のがん診療のレベル向上に向けて、8つのワーキンググループ(集学的治療・標準治療の提供、緩和ケア、病病・病診連携、研修・教育、相談支援センター、健診、PDCA)を設けて、院内のがん診療の取り組み状況を把握した。各ワーキンググループの取り組みから特徴的なものをいくつか紹介する。
- (集学的治療・標準的治療の提供)
  - がんの治療方針を複数の診療科・多職種で検討する「がんセンターボード」について毎月1回以上開催した。
  - 認定スタッフの養成について、緩和薬物療法認定薬剤師1名、がん性疼痛看護認定看護師1名が新たに認定資格を得た。
- (研修・教育)
  - がん診療に携わる多職種・職場持ち回りで、ランチョンセミナーを月1回、定例開催した。
  - 緩和ケア研修の受講促進 受講医師数60名 常勤比93% 引き続き100%を目指して
- (相談支援センター)
  - がんサロン(ラ・パンジィ)を定例で毎週1回開催した。また、年に1回の拡大サロンについて、本年は大阪府緩和ケア普及補助事業を活用した。

### 2019年度 活動予定

- \* 引き続き大阪府および堺市主催のがん拠点関連の部会に出席し、がん拠点病院に提起される取り組みに対応していく。また、2019年度中に見直し予定のがん拠点指定要件への対応を準備する。
- \* 職員向けランチョンセミナー、がんサロンについて引き続き定例開催を続けていく。また、参加者の確保に向けて、開催内容を工夫していく。
- \* 医師をはじめ職員のPEACE研修の受講を進める。また、当院で初開催となるPEACE研修を成功させる。
- \* がん予防の取り組みとして、学校等地域への防煙教育に取り組む。

## 2018年度 活動状況

今年度は以下の方針で取り組みを行った。

### ○喫煙予防教室

地域の子どもたちへの保健衛生活動の一環とし、堺区の小学校対象とした喫煙防止教室をHPH委員会と小児科医師を中心に準備を行った。堺市教育委員会の担当者と来年度、堺区の小学校対象に喫煙防止教室実施に向けて内容の具体化をやりとりした。

院内では喫煙予防教室のプロジェクトメンバーの選出を行い立ち上げる準備、また西淀の喫煙予防教室にも行き、具体的にどれだけの人員確保が必要かどうかの算出するなど行った。最終決定の段階となり堺市の校医さん(堺市医師会?)よりストップがかかりこのプロジェクトは打ち切りとなった。

### ○地域の子どもたちと野菜を育てよう

ゆんたく食堂の付近の場所にてプランターで野菜の栽培を行うこととなった。子ども食堂でも宣伝させていただき、地域の子どもたちと一緒に計2回野菜植え実施。採取した野菜は子ども食堂へもっていき、子どもたちの夕食の一部として活用していただいた。

### ○日本HPHカンファレンスで3演題発表

今年度は3演題発表を目標として活動してきた。予定通り3演題、HPHカンファレンスにて発表を行った。

「大仙西校区での健康チェックブースの取り組み」

「地域の子ども、行政とかかわって」

「若者の階段利用、運動促進について」

### ○一緒に活動できる人を増やしていく

アートとして採用された衛藤さんがHPH委員会としてメンバーに入ってくれた。また喫煙予防教室であらたにHPH委員として頑張ってもらおう予定であったがプロジェクトを遂行できなくなったため、来年度も引き続き委員を増やしていきたい。

## 2019年度 活動予定

- ・ 共済会、青年実行委員会とコラボして運動会を開催(職員の健康増進)
- ・ 子どもと関わり強化(野菜植え、地域の子どもたちと遊び企画)
- ・ 腰痛予防教室 リハジムの活用促進
- ・ 階段利用促進のアンケートの実施

## 2018年度 活動状況

### ①医療材料の新規提案

### ②新規購入材料・サンプル材料の検証・承認

### ③既存材料の変更及び同類品の選定と価格検証

### ④医療安全関連 リスクマネージャーからの報告

### ⑤デモ機器申請の承認決定

### ⑥ICNからの報告・医療材料変更提案

例年通り、上記の内容の検討を行い医師・看護師・RM・ICN・事務それぞれの観点から論議を行い検証・決定を行ってきた。

2018年度の医療材料削減結果においては、12項目の材料変更で

月間-193,550円 年間-2,322,596円になった。(3月現在)

来年度も、継続して削減をすすめて行きたい。

また、統計を取り始めてからの積算計は、-139,859,571円になった。(2012年2月~2019年3月データ)

引き続き奮闘したい。

## 2019年度 活動予定

今年度は、7月にSPD業者 ミックスからケアライフへ変更になる。システム変更もともなうが、要望を入れ込んだカスタマイズが出来ることから、OMEC仕様のシステムが可能となる。



また、何十年前からの課題である、医事課との材料請求との突合を可能にする為、医事用ラベルを付け加えるシステムも検討に入っている。

厚労省からの指示で、誤接続防止コネクタの導入が始まる年で、まず神経麻酔領域の導入変更を2020年2月までに完結させなければならない。医療安全上事故を起こさないよう取り組むことが必要となる。

システム・材料コネクタ変更の年になるが、委員会の組織として円滑に行くように取り組んでいきたい。

## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 教 育 学 習 委 員 会 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

#### 【「6つの学習項目」開催状況】

\* ①感染②医療安全③接遇④病院方針⑤患者の権利／倫理⑥個人情報  
のべ開催回数72回(のべ参加者総数7,388名 昨年度比136%)

#### 【当委員会主催学習会】

病院方針＋委員会・臓器別センター総括学習会

- ① 3/15 奥村病院長＋1)クリパス 2)CS 3)CWHC
  - ② 3/19 奥村病院長＋1)安全衛生 2)高齢者 3)消化器
  - ③ 3/25 奥村病院長＋1)外来診療 2)倫理 3)循環器
- 3日間 のべ245名(医師：1名 看護：50名 技師：95名 事務：99名)

#### 【MBO・育成面談 実施確認・促進】

- ・MBO面談 実施率100%
- ・育成面談 実施率 75%
- 制度教育 参加率 85%
- 「次世代育成PJ」第Ⅱ期 運営  
2017年度に続き、第Ⅱ期運営・事務局を担った

### 2019年度 活動予定

<次年度に向けて>

- ①「6つの学習項目」→質向上にむけて
  - ・何を評価軸にするか
  - ・何を成果にするか
- ②「次世代育成PJ」3年目の運営
- ③MBO、BSC、育成面談の有機的結合と活用

## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ C S ・ E S 委 員 会 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

#### ○投書「みなさまの声」の集約・データベース化、対応内容についての検討と立案

- ・毎週回収する投書をカテゴライズし、対象職場へ発信し、事実確認・対策について提案を受ける。
- ・委員会開催時に投書内容と職場からの返答内容を全体共有している。
- ・職場に返答を求める場合は管理職者に直接返答用紙を手渡しし、その場で内容を共有する事で、現場と事務局の投書の重要性に対する温度差を無くす試みを実施している。

#### ○院外見学

- ・院内バリアフリーとCS・ES向上への取り組みを参考にするため。
- ・8月23日(木) 生長会ベルランド総合病院見学。

#### ○改善事項

- ・5月7日よりベルランド総合病院での取組みを参考にシニアカー(ハンドル型電動車いす)の乗り入れ禁止と電動車椅子の使用ルールを実施。
- ・「車椅子に座った状態で使いにくい」という投書から、10階回復期リハビリ病棟のトイレ内手洗いせっけんをプッシュ式から自動ディスペンサー式に変更。

#### ○患者満足度アンケート(外来)

- ・1月末～2月初めに実施。500事例を回収。

### 2019年度 活動予定

- 今年度の重点課題として待ち時間改善(待ち時間改善PJと共同して)とES向上のための企画立案・実施とする。
  - ・HPH委員会とCS委員会コラボし、職員の禁煙に向けての企画(地域医療振興協会から指導員招き8月から9月実施予定)
  - ・「みなさまの声」のフィードバックを工夫して行う(サイネージ、HP、同年会報など)。

## 学 術 委 員 会

### 2018年度 活動状況

委員会 全5回開催

- ①文献複写…他機関への依頼 190件、他機関からの受付 31件
- ②2017年度耳原総合病院活動報告の作成
  - ・620冊発行(地域連携室500冊、関連病院63冊、院内14冊、他院所5冊、図書室38冊)
  - ・経費 620×@710=440,200円
- ③新規図書購入4冊 58,473円
- ④2019年 年間購読雑誌の購入
  - 和雑誌…67タイトル 1,852,975円
  - 洋雑誌…9タイトル 1,420,664円
- ⑤書籍の展示販売会を開催(6/12 2/14)
- ⑥書籍の貸出件数…156冊
- ⑦書籍・雑誌の紛失発見件数…<サイネージに掲示> 書籍4冊雑誌1冊  
その他 雑誌 4～5冊

### 2019年度 活動予定

- 2018年度活動報告の制作
- 職員用の書籍のデータ公開に向けての準備を進める。

## 院 内 アー ト 委 員 会

### 2018年度 活動状況

#### 【企画一覧】

- ・4/21 「たんぼぼの綿毛」ワークショップ(ひまわりの家 蔵前)
- ・5/1-31 「風の伝言」外来エリア 向田美保さん(写真家) 作品展示、当院来院
- ・6/14 異文化コミュニケーションカンファレンス「カラーコミュニケーション」 木村千尋先生  
チェロ演奏 虎頭加奈アート・ディレクター
- ・6/25 堺市と関西大学との地域連携事業 第1回講演会 奥村伸二病院長「ホスピタルアートのとりくみ」
- ・6/28 大江のぞみさん ヴィオラ演奏(14F、8F)
- ・7/19 異文化コミュニケーションカンファレンス「“笑える現代アート”お見せします」 西野昌克教授(近畿大学文芸学部デザイン学科)
- ・7/21 鳳クリニック小児科、内装壁画/外部看板など
- ・8/1 堺市と関西大学の地域連携事業 第2回講演会「ホスピタルアートのある街 堺」  
亀井克之教授(関西大学社会安全学部)/森口ゆたか教授(近畿大学文芸学部デザイン学科)
- ・9/20 異文化コミュニケーションカンファレンス「Spacelive Fantasy～銀河138億年の旅」 星空案内人Imreさん
- ・10/15-28 「たんぼぼの綿毛」作品、エントランス展示
- ・10/30 みみはらホール運営委員会×青年実行委員会×近畿大学「コンテンポラリーダンス公演」
- ・12/6 堺市と関西大学の地域連携事業 第3回講演「英国におけるホスピタル・アートの展開」  
クライブ・パーキンソン先生(マンチェスター・メトロポリタン大学)
- ・1/27- 「風の伝言」作品追加募集開始
- ・2/22 大阪交響楽団出前演奏会(14F、7F、エントランス)

### 2019年度 活動予定

- 「風の伝言」PJ 作品追加募集  
院内外、SNSなど活用し、広くよびかけ早期に病棟へ配架する
- 第1回患者安全推進地域フォーラム(日本医療機能評価機構)  
5/18(土) 森口ゆたか先生講演、参加者へ院内見学対応など
- アートミーツケア学会 11/23、24 近畿大学で開催  
22日エスカーションを耳原総合病院で開催、病院見学と朗読劇を予定
- CS委員会ほか、他部門とのコラボ  
「課題解決」としてのデザイン、「問題提起」としてのホスピタルアートの活用  
多(他)部門・職種など連携する際、架橋する役割を積極的担う  
例)CS委員会-「患者さんの声」掲示、高齢者医療推進委員会-アロマセラピー導入学習会  
無料低額診療PJ デザイン検討など
- ER・透析室からのアート導入要望 実現化へ

## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 拡大CS委員会 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

- 投書「みなさまの声」の情報共有と改善案の検討
  - ・友の会会員と委託業者にも投書から意見を頂く。
- 院内での改善事項の報告、ESについての取り組みを報告し、ご意見を頂く。

### 2019年度 活動予定

- ・HPH委員会とCS委員会コラボし、職員の禁煙に向けての企画(地域医療振興協会から指導員招き8月か9月実施予定)
- ・「みなさまの声」の返答を患者の目がいく場所に掲示する。(サイネージ、HP、同仁会報など)

## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 治験審査委員会 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

### 2018年度 活動状況

#### 1. 審議事項

- 臨床治験(一部変更) 2件 ①②
- 臨床研究(適応外使用等) 以下 3件 ③④⑤⑥
- ①多剤併用療法が適さないRAS野生型切除不能進行再発大腸がんに対する一次治療としてのパニツマブ単剤療法-第Ⅱ相試験-(OGSG1602)
- ②Ramucirumab抵抗性進行胃癌に対するramucirumab+Irinotecan併用療法のインターグループランダム化第Ⅲ相試験(RINDBeRG trial)
- ③「維持透析下の二次性副甲状腺亢進症患者を対象とした長期観察研究」
- ④卵巣顆粒膜細胞腫に「おけるアロマターゼ阻害薬の使用(適応外使用)
- ⑤透析血液回路(アーチループ)の臨床評価研究
- ⑥至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き

### 2019年度 活動予定

- 臨床治験行うにあたっての手順書の整備
- 臨床研究における倫理的審査との整備
- 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に対応した研究教育(倫理委員会と合同)

## 2018年度 開催オープン学習会 一覧

No	名 称	開催日	内 容	院外	院内	全体
1	メディカルカンファレンス (CWHCセンター主催)	4月14日	『妊娠期からの切れ目ない子育て支援～周産期医療の課題』 大阪母子医療センター 周産期統括部長・主任部長 光田信明先生	30	61	91
2	メディカルカンファレンス (消化器センター主催)	4月26日	『胆石症に関する診断・治療について』 耳原総合病院 外山和隆Dr	4	32	36
3	ECPR学習会 (MCCM主催)	6月18日	『第5回ECPR学習会・シュミレーション』	4	39	43
4	メディカルカンファレンス (消化器センター主催)	6月28日	『消化管出血 当院の治療について』 耳原総合病院 岩谷太平Dr	2	35	37
5	メディカルカンファレンス (田辺三菱製薬共催)	9月8日	糖尿病ケアのトータルアクション勉強会～メディカルスタッフのチーム力アップを目指して～ 『糖尿病性腎症患者における予防と治療のためには何が必要であるかを考える』講師：三谷ファミリークリニック 巽 欣子先生	16	22	38
6	第2回みみはら透析セミナー エムラクリームの治療の現状 (腎・透析センター・扶桑薬品・佐藤製薬共催)	9月11日	『エムラクリームの使用経験について』 講師：藤井寺敬任クリニック 中尾弘美先生 『当院での穿刺部痛におけるエムラクリームの使用について』 講師：田中北野田病院 ME部長 荒川昌洋先生 『エムラクリームの使用経験～ボタンホールの痂皮除去～』 講師：共立外科内科 透析室センター長 土岐清秀先生	58	27	85
7	第22回 地域医療連携をすすめる会	9月15日	『がん診療拠点病院として、当院一年の活動報告』 耳原総合病院 奥村伸二病院長 『胆石外来開始！～外科治療から内視鏡治療まで(仮題)』 耳原総合病院 外山和隆Dr 『身体診察の活かし方～紹介いただいた症例から～(仮題)』 耳原総合病院 藤本卓司Dr 『当院産婦人科の特徴(仮題)』 耳原総合病院 坂本能基Dr 『耳原総合病院小児科の今後の展望(仮題)』 耳原総合病院 藤井建一Dr	42	62	104
8	メディカルカンファレンス (協和発酵キリン共催)	9月27日	CKDトータルケアレクチャー血管石灰化対策講習会 『CKD診療ガイドライン2018に準じた日常診療～血管石灰化予防を中心に～』 講師：大阪大学医学部附属病院 腎臓内科学 高橋篤史先生 『血管保護を目的とした糖尿病治療のポイント～どこに気をつければいいのか？～』講師：堺市立総合医療センター 腎代謝免疫内科 藤澤智巳先生	34	24	58
9	メディカルカンファレンス (MSD(株)共催)	10月11日	『埼玉県における糖尿病重症化予防の取り組みと腎機能に応じたDPP-4阻害薬の使い方』講師：埼玉医科大学 名誉教授 片山茂裕先生	10	11	21
10	「虐待」合同学習会 (虐待防止対策委員会主催)	10月20日	「虐待」合同学習会 ※堺市救急隊との合同学習会	13	45	58
11	メディカルカンファレンス (小児科医局共催)	11月24日	『Good health for every child-how can you contribute?』 講師：スウェーデン ウメオ大学教授 アネリ・イヴァルソン先生	0	5	5
12	足病変講座QOLを低下させない治療戦略 (循環器内科/腎臓内科・カネカメディックス共催)	11月27日	『当院のフットケアの実際』 講師：耳原総合病院 齋藤綾乃Ns 『透析患者を含むフットケアとEVTの現状～切断を回避する為のチームの取り組み～』講師：坂総合病院 循環器内科 佐々木伸也先生	53	52	105
13	GP+1カンファレンス (地域連携室・大矢亮Dr・研修医委員会共催)	12月13日	GP+1カンファレンス 『NAFLD/NASH症例における肝繊維化マーカー(FIB4-index,M2BPGi,4型コラーゲン7S等)の検討』講師：杉本診療所 宮田 央先生	3	23	26
14	GP+1カンファレンス (研修医委員会共催)	12月20日	GP+1 特別講演 『吸入療法の重要性と最新のCOPDと喘息の治療』 講師：堺市立総合医療センター 呼吸器内科 郷間先生	33	63	96
15	メディカルカンファレンス (アステラス製薬共催)	1月31日	糖尿病治療セミナー 『糖尿病治療～患者と医療者が生き、成長することを目指す医療～』 講師：奈良県立医科大学 糖尿病学講座 教授 石井 均先生	48	20	68
16	熊本地震から学ぶこと～ 前院長招聘 学習会	2月27日	『熊本地震における南阿蘇村での医療コーディネートと避難所における感染性腸炎・エコノミークラス症候群などの治療・予防』 講師：くわみず病院 松本 久先生	13	57	70
17	メディカルカンファレンス	3月16日	向精神科薬長期処方に関する研修会① 『せん妄・不眠に対する効果的アプローチ』 講師：兵庫県立尼崎医療センター 精神科：見野耕一先生	18	22	40
18	メディカルカンファレンス (田辺三菱製薬/第一三共共催)	3月23日	糖尿病ケアのトータルアクション勉強会 その② 『糖尿病合併CKD患者における予防と治療のためには何が必要であるかを考える』	31	8	39
19	メディカルカンファレンス	3月28日	向精神科薬長期処方に関する研修会② 『不安に対する抗不安薬の適正使用』 講師：吉田病院 宮野栄三先生	22	47	69



# 2018年度「7 大学習項目」参加者数 教学委員会

①感染／②医療安全／③接遇／④病院方針／⑤患者の権利・倫理／⑥個人情報／⑦医療法規等

	ジャンル	タイトル	担当委員会	参加者のべ人数				
				医師	看護	技師	事務	合計
4月	⑥個人情報	○4/3 同仁会新人オリエンテーション	法人 実行委員会	8	40	16	6	70
	①感染②医療安全③接遇	○4/4 同仁会新人オリエンテーション	法人 実行委員会	8	40	16	6	70
	④病院方針	○4/5 同仁会新人オリエンテーション	法人 実行委員会	8	40	16	6	70
	⑦医療法規等	○4/6 同仁会新人オリエンテーション	法人 実行委員会	8	40	16	6	70
	①感染	○4/9 清掃に関わるひとが行う感染対策 * 東洋美装スタッフ	感染制御室				16	16
	④病院方針	○病院方針録画上映会 4/9、11、12、13	教学委員会		14	3	8	25
	②医療安全	○新人看護師研修	看護部/ME		39	3		42
	②医療安全	○除細動器の使用方法(10F)	ME		11	4		15
	①感染	○4/19 抗菌薬の基本 薬剤科 丸岡主任	感染制御室		12	2		14
	①感染 ②医療安全	○4/12 PPE着脱、手指衛生 新人看護師対象	感染制御室		40			40
	④病院方針	○全日本医連総会方針「知識の森」 閲覧レポート	品質管理部	3	25	20	32	80
	⑤倫理	○ACPについて(伝達学習会)	倫理委員会	7	9	3	11	30
5月	②医療安全	○4/28-5/30 Safty Plus「指さし確認」	医療安全管理室	75	424	187	115	801
	②医療安全	○4/19、5/1、2 全12回 事務系職員向け 心肺蘇生法研修	医療安全管理室				183	183
	②医療安全	○5/1、24サーボAirについて	ME+ 9 F	3	16	2		21
	②医療安全	○5/18 人工呼吸器V60 モードとマスクフィッティング	ME+ 7 F		18			18
	②医療安全	○5/11 体温管理システムArctic5000 低体温療法	ME+ICU	1	12	3		16
	④病院方針	○5/14、15 総合入院体制加算届出にともなう学習会	常務委員会	3	45	24	46	118
6月	①感染	○5/17 もっといかそう血液培養 河村裕美医師/リンクNs	感染制御室		12	4		16
	②医療安全	○5/31 グレードAシミュレーション	CWHC	3	10	5	5	23
	②医療安全	○5/9 移乗動作学習会	リハビリ室			8		8
	①感染	○6/18 感染対策研修 看護助手	感染制御室		8			8
7月	①感染	○6/21 AMR対策 藤本卓士部長 リンクスタッフ	感染制御室		12	5	1	18
	①感染	○6/28 感染対策研修 看護助手	感染制御室		7			7
	④病院方針	○6/11、12、13、14、15 総合入院体制加算説明会 事務職員対象	管理事務室				82	82
	①感染	○7/3 感染対策研修 看護助手	感染制御室		10			10
	①感染	○7/9 感染対策研修 看護助手	感染制御室		9			9
	①②安全、 感染	○7/14 医療介護安全大会 山口悦子教授(大阪市大)	法人本部	12	89	44	46	191
	②安全	○医療ガス安全研修 Safty Plus 7/2-7/31	医療安全管理室	85	471	194	140	890
	①感染	○7/20 技術部門新人職員感染対策研修 原之園ICN PPE着脱・手指衛生	感染制御室			12		12
	②医療安全	○7/26 人工呼吸器サーボAir勉強会	ME+11F		12			12
	①感染	○7/19 こんなに役立つグラム染色 河村裕美医師 リンクスタッフ	感染制御室		12	4	1	17
8月	②医療安全	○8/10 輸液ポンプ中級編	ME+12F		11	2		13
	①感染	○7/19手指衛生 直接観察がやってくる 原之園ICN リンクスタッフ	感染制御室		12	4	1	17
	⑦医療法規等	○7/26 労務管理・QMS・経営報のみかた (新任職場長管理研修)	法人総務部		3	2	2	7
	⑦医療法規等	○8/28、8/31、9/3、9/4、9/21 労務管理、ハラスメント研修	法人総務部		31	18	13	62

①感染／②医療安全／③接遇／④病院方針／⑤患者の権利・倫理／⑥個人情報／⑦医療法規等

	ジャンル	タイトル	担当委員会	参加者のべ人数				
				医師	看護	技師	事務	合計
9月 10月	①感染	○8/16検査結果を見てみよう 検査 佐野主任 リンクスタッフ	感染制御室		11	6		17
	①感染	○標準予防策 SaftyPlus 8/15-9/15	感染制御室	84	473	197	145	899
	②安全	○9/15院内呼吸療法認定	ME、呼吸ケア委員会	4	9	5		18
	②安全	○9/1 2018医師医療安全大会 「患者の視点から見た医療安全」	大阪民医連/ 耳原総合病院	16	1	1	3	21
	②安全	○9/1 2018医師医療安全大会 「患者の視点から見た医療安全」	大阪民医連/ 耳原総合病院	16	1	1	3	21
	①感染	○9/6 3年目看護研修 完璧なスタンダードブ リケーション・デバイス感染対策のポイント	感染制御室		16			16
	①感染	○9/7 抗菌薬の基本 丸岡薬剤師 中堅看護師	感染制御室		15			15
	②安全	○9/6 3年目看護師医療安全 「事例を分析してみよう」	医療安全管理室		16			16
	①感染	○9/20 qSOFAで敗血症を見逃すな リンクスタッフ	感染制御室		13	5	1	19
	①感染	○10/11 3年目看護研修 完璧なスタンダード ブ리케이션・デバイス感染対策のポイント	感染制御室		17			17
	①医療安全	○9/5人工心肺と心臓手術	ME+手術室		8	2		10
	②、④	○10/18-21 次世代研修Ⅱ期合宿	担当PJ、常務委員会	6	7	10	9	32
	①感染	○10/19 在宅につながる感染症診療 高山義浩先生	医師研修	15	5			20
	②安全	○10/11 3年目看護師医療安全 「事例を分析してみよう」	医療安全管理室		17			17
	11月	②安全	○10/24 造影剤安全性ライブゼミ 群馬大 対馬義人教授	放射線科	3	15	6	
②安全		○10/31 MEによるNIPPV学習会	ME		13			13
②安全		○11/9 1年目看護師医療安全研修	医療安全管理室		35			35
②医療安全		○11/2 人工呼吸器サーボAairグラフィックモード	ME+HCU	1	5			6
①感染		○11/9 1年目看護師後期研修 感染対策	感染制御室		35			35
②医療安全		○11/14 人工呼吸器トリロジーO <sup>2</sup> モード	ME+ 9 F		10	2		12
①感染		○11/15 各職場で行なうインフルエンザ対策 リンクスタッフ 原之園ICN	感染制御室		12	6		18
①感染		○11/19 2年目看護師 感染対策研修	感染制御室		36			36
12月	②安全	○11/19 2年目看護師医療安全研修	医療安全管理室		36			36
	②医療安全	○11/21 ペースメーカー遠隔モニタリング	ME+ 7 F		9			9
	①感染	○事務職員向け感染処理学習会 12/28、1/21、22	感染制御室				45	45
	①感染	○12/20 ASTとは 丸岡薬剤師・嘔吐物の片 付け方 原之園ICN リンクスタッフ	感染制御室		11	6	1	18
1月	④病院方針	○1/12 新年集会	法人本部	6	27	23	33	89
	②医療安全	○1/30 医療・介護安全推進月間報告会	法人本部	1	14	6	9	30
	①感染	○1/17 インフルエンザ対策マニュアル確認 リンクスタッフ	感染制御室		12	5	1	18
2月	②安全	○2/23 院内呼吸療法認定	ME、呼吸ケア委員会	2	7			9
3月	③接遇	○3/29コミュニケーションスキルアップ 鎌田敏先生(こころ元気研究所)	法人教育委員会		5	3	11	19
	②安全	○2/8-3/27 Safty Plus 医療機器「アラームへ の不適切な対応」	医療安全管理室	72	445	192	140	849
	②安全	○2/8-3/27 SaftyPlus 医療安全「タイムアウト を文化に」	医療安全管理室	73	444	189	140	846
	①感染	○3/11-3/27 感染対策研修	感染制御室	77	397	180	149	803
	④病院方針	○3/15 病院方針学習会①奥村病院長	教学委員会					
	④病院方針	○3/19 病院方針学習会②奥村病院長	教学委員会	1	50	95	99	245
	④病院方針	○3/25 病院方針学習会③奥村病院長	教学委員会					
	法人制度教育	法人教育委員会	20	248	179	91	538	
総 計				621	4,009	1,736	1,606	7,972

## 実習生受入状況(インターシップ含む)

職 種	学校名	受入人数
医 師	愛媛大学	5
	久留米大	1
	宮崎大学	4
	京都府立	2
	近畿大学	8
	金沢医大	2
	金沢大学	4
	広島大学	1
	弘前大学	2
	香川大学	7
	高知大学	1
	札幌医大	1
	三重大学	3
	山口大学	1
	滋賀医大	4
	鹿児島大	1
	神戸大学	4
	大阪医大	4
	大阪市大	8
	大分大学	2
	鳥取大学	2
	島根大学	4
	東京女子医	1
	藤田保健	1
	徳島大学	8
	奈良医大	7
	富山大学	3
	福井大学	7
	福岡大学	1
	兵庫医大	1
北海道大	1	
名古屋大	2	
琉球大学	2	
和歌山医大	6	
獨協医大	2	
<b>合 計</b>		<b>113</b>
看 護 師	泉州看護専門学校	228
	大阪暁商高等学校 看護科・看護専攻科	75
	大阪医専(母子・小児科)	23
	神戸常磐大学短期大学部(通信制)	14
	千里金蘭大学(助産科)	2
	大阪府病院協会付属看護専門学校	3
	白鳳短期大学	2
	ソワニエ看護専門学校	7
<b>合 計</b>		<b>354</b>
理学療法士	畿央大学	1
	大和大学	1
	関西福祉大学	1
	大阪医専	1
	河崎リハビリテーション大学	1
	大阪保健医療大学	1
作業療法士	京都医研専門学校	1
	大阪医専	1
	神戸医療福祉専門学校	1
<b>合 計</b>		<b>9</b>
放射線科	大阪行岡医療専門学校長柄校	1
管理栄養士	羽衣国際大学	2
事務	大原学園	1
<b>総 計</b>		<b>480</b>



## 2018年度 原著・総説・著書

論 文 名	著者・共著者	雑誌名
進行卵巣癌による大腸閉塞に対するbridge to surgeryとしての大腸ステント留置	來間 愛里、松岡 智史、 坂本 能基	日本婦人科腫瘍学会雑誌 (1347-8559)36巻 2号 Page279-284(2018)
出生体重、母体妊娠前BMIおよび母体妊娠中体重増加量の分類による新生児、母体および分娩の特徴に関する検討	坂本 能基	日本周産期・新生児医学会雑誌 (1348-964X)54巻 1号 Page66-75(2018)
腹腔鏡下手術で治療し得たS状結腸憩室炎によるS状結腸膀胱瘻の1例	戸口 景介、外山 和隆、 山口 拓也	日本腹部救急医学会雑誌 (1340-2242)38巻 6号 Page1065-1070(2018)
【診療報酬・介護報酬改定の影響】DPC急性期病院に対する診療報酬改定の影響	森 高志	民医連医療(0285-2241)553号 Page10-11(2018)
【読める！使える！検査値 検査データで理解できる！患者アセスメント】(Part 2)症状・状態でみたいこの検査値 治療中にみる検査値(項目5)「高カロリー輸液」の投与中	河村 裕美	Expert Nurse(0911-0194)34巻 14号 Page84-91(2018)
人工骨頭置換術後脱臼症例の検討	河原林正敏、吉岡 篤志、 小松 俊介	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443)61巻 6号 Page1207-1208(2018)
胸壁の皮下気腫まで及んだ腹壁膿瘍を伴う穿通性S状結腸癌の1例	重留 一貴、外山 和隆、 戸口 景介、山口 拓也	日本腹部救急医学会雑誌 (1340-2242)38巻 7号 Page1133-1136(2018)
胎児発育異常の予測因子としてのヒト胎盤性ラクトーゲン	坂本 能基	日本周産期・新生児医学会雑誌 (1348-964X)54巻 4号 Page1066-1075(2018)
集まれ!! グラ染野郎 第12回	河村 裕美	J-IDEO(2432-7077) 3巻 1号 Page50-51(2019)
入院中の転倒転落事故による骨折事例の検討	河原林正敏、小松 俊介、 吉岡 篤志	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443)62巻 1号 Page137-138(2019)
【出席率アップ、効果的な評価、飽きさせないコツetc…研修・講習会&ICTニュース・ポスター成功のヒケツ】うまくいく！ICTの研修・講習会編 ICT新人職員対象研修会成功のヒケツ	原之園美希	INFECTION CONTROL (0919-1011)28巻 3号 Page224-230(2019)

## 2018年度 学会・研究会等発表

演 題 名	演 者	学会・研究会名	開催地	開催年月日
<b>救急総合診療科</b>				
救急外来で短期間に経験した高齢者肺結核 3 例のまとめ	田端 志郎	第21回 日本臨床救急医学会 総会・学術集会	愛 知	2018. 5.31
Infertility of young people estimated from staircase utilization	重留 一貴	第26回国際HPHカンファレンス	イタリア・ボローニャ	2018. 6. 6
みんなで支えあう救急外来のLIFE SUPPORT	大矢 亮	第 9 回日本プライマリケア 連合学会学術大会	三 重	2018. 6.15
若年者の階段利用率(HPH)	坂本 祥大	第68回日本病院学会	金沢市	2018. 6.29
10年以上の経過の中で診断したACTH単独欠損症の 1 例	難波 広人	第221回日本内科学会近畿地方会	大 阪	2018. 9.22
貧困と救急医療＝無料低額診療制度の適用を必要とした救急患者の医学的社会的背景について	田端 志郎	第46回日本救急医学会学術集会	神奈川	2018.11.18
詳細な病歴聴取が診断に寄与した韓国由来つつが虫病の 1 例	河村 裕美	第11回日本リケッチア症臨床研究会	東 京	2018.12.15
diversion colitisによる菌血症を繰り返した 1 例	北川 綾美	第222回日本内科学会近畿地方会	大 阪	2018.12.15
感染症その他(セッション)座長	藤本 卓司	第34回日本環境感染症学会総会・学術集会	神 戸	2019. 2.23
閉鎖空間での防水スプレー使用とその後の喫煙により肺障害を来した 1 例	坂部 千恵	第223回日本内科学会近畿地方会	京 都	2019. 3. 2
無料低額診療の適用を必要とした集中治療患者の医学的社会的背景について	田端 志郎	第46回日本集中治療医学会学術集会	京 都	2019. 3. 2
<b>循環器センター</b>				
PCIにおける放射線技師の画像支援の在り方	鈴鹿 裕城	KCJL 2018	大 阪	2018. 4.12
左主幹部における不安定プラーク病変	石原 昭三	KCJL 2018	大 阪	2018. 4.14
PCI tips and tricks ～LMT/bifurcation～	石原 昭三	Philippine Society of Cadiovascular Catheterization and Interventions (PSCCI) Annual Meeting	フィリピン	2018. 4.18
CTO PCI with anomalous oriigi	石原 昭三	TCTAP2018	ソウル	2018. 4.28
Efficacy of dual lumen catheter	石原 昭三	第20回 CTO club	愛 知	2018. 6.15
Current Utilization of Trinias Imaging, Complication in Retrograde CTO PCI	石原 昭三	C3	米 国 オーランド	2018. 6.19
ガイドワイヤーが断裂した時の対処	石原 昭三	第8回豊橋ライブデモンストラーション	愛 知	2018. 6.22
短期間に繰り返すステント再狭窄にエキシマレーザーが有効であった 1 例	鈴鹿 裕城	第8回豊橋ライブデモンストラーション	愛 知	2018. 6.22
Successful Bail Out of Coronary Sinus Severe Dissection during CRT implantation	石原 昭三	第65回日本不整脈心電学会学術大会	東 京	2018. 7.11
短期間に繰り返すステント	鈴鹿 裕樹	The 19 CTO Ciub	愛知県	2018. 8.16
RCA CTOのdonar artery治療中に生じた、左主幹部におけるステント脱落(英語)	石原 昭三	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2
冠動脈ステント脱落におけるbailout症例について	石原 昭三	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2
大腿静脈穿刺時の小動脈損傷により後腹膜血腫を生じ、双方向からのコイル塞栓により止血し得た 1 例(英語)	鈴鹿 裕城	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2
A tough case of double CTO treated with retrograde approach and IVUS guided wiring	鈴鹿 裕城	CCT2018	兵 庫	2018.10.25
Complications in CTO PIC	石原 昭三	CIC CTO club 2018	中 国 南 京	2018.11. 2
How to use Guide Extension Catheter	石原 昭三	Singapole Live 2019	シンガポール	2019. 1. 17

演 題 名	演 者	学会・研究会名	開催地	開催年月日
循環器診療における地域連携 チーム連携	石原 昭三	日本医療マネジメント学会 第12回兵庫支部学術集会	西 宮	2019. 2.18
<b>消化器センター</b>				
80歳以上高齢者の腹部緊急手術における治療成績と腹腔鏡下手術の有用性についての検討	福岡百合子	第21回日本臨床救急医学会 総会・学術集会	愛 知	2018. 5.31
ヘルニア困難症例に対する戦略	山口 拓也	第16回日本ヘルニア学会学 術集会	北海道	2018. 6.27
Hybrid Approach to Rectal Cancer Invading to Seminal Vesicle : Laparoscopic and TAMIS	山口 拓也	INTERNATIONAL SOCIETY OF UNIVERSITY COLON AND RECTAL SURGEONS	ロンドン	2018. 8.29
診断困難であった盲腸捻転症	外山 和隆	第80回日本臨床外科学会総 会	東 京	2018.11.22
骨盤内悪性疾患に対する腹腔鏡下後方骨盤内臓全摘の3例	山口 拓也	第31回日本内視鏡外科学会 総会	福 岡	2018.12. 7
大腸穿孔における予後因子としての感受性抗生剤の投与時期	吉川 健治	第45回日本集中治療医学会 学術集会	東 京	2019. 2.21
当院で経験し結腸膀胱瘻4例の検討	河村 勇志	第55回日本腹部救急医学会 総会	仙 台	2019. 3. 7
当院における急性胆嚢炎治療と、腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術手技	外山 和隆	第55回日本腹部救急医学会 総会	仙 台	2019. 3. 7
腸結核による慢性イレウスに対し、イレウス解除術を行った1例	宮里 和佳	第55回日本腹部救急医学会 総会	仙 台	2019. 3. 7
当院における膿瘍形成急性虫垂炎に対するLaparoscopic Internal Appendectomyの治療成績	戸口 景介	第55回日本腹部救急医学会 総会	仙 台	2019. 3. 7
イレウスを繰り返す重症心身障害者の消化管穿孔の1例	成田 亮紀	第55回日本腹部救急医学会 総会	仙 台	2019. 3. 7
<b>整形外科</b>				
人工骨頭置換術後脱臼症例の検討	河原林正敏	第130回中部日本整形外科災 害外科学会学術集会	愛 媛	2018. 4.19
入院の転倒転落事故による骨折事例の検討	河原林正敏	第131回中部日本整形外科災 害外科学会	岡 山	2018.10. 5
<b>糖尿病・内分泌科</b>				
MTXステロイドのSick day対応の理解度の確認とパンフレットを用いた説明効果	川口 真弓	第62回日本リウマチ学会総 会・学術集会	東 京	2018. 4.26
高血糖低カリウム血症アシドーシスを認めトルエン中毒が疑われた1症例	川口 真弓	第61回日本糖尿病学会年次 学術集会	東 京	2018. 5.23
糖尿病患者の薬物依存を考える	川口 真弓	第55回日本糖尿病学会近畿 地方会	兵 庫	2018.10.27
<b>呼吸器外科</b>				
肺動脈形成・S8区切・上葉切除により肺全摘を回避し得た肺動脈下幹・S8に浸潤する舌区扁平上皮癌の1例	板野 秀樹	第59回日本肺癌学会学術集 会	東 京	2018.11.29
<b>産婦人科</b>				
HIV陰性高齢女性に生じた腸腰筋膿瘍が子宮頸部扁平上皮癌の腸腰筋転移であった1例	來間 愛里	第70回日本産婦人科学会学 術講演会	宮 城	2018. 5.11
<b>泌尿器科</b>				
前立腺生検における精嚢生検の意義	高橋 智輝	第106回日本泌尿器科学会総 会	京 都	2018. 4.21
<b>麻酔科</b>				
カテーテルアブレーション中に心タンポナーデをきたし、開胸止血術に至った1症例	鎌本 洋通	日本心臓血管麻酔学会第23 回学術大会	東 京	2018. 9.14

演 題 名	演 者	学会・研究会名	開催地	開催年月日
開腹肝癌ラジオ波治療中にST上昇をきたし、冠動脈攣縮が疑われた1症例	杉山 円	日本心臓血管麻酔学会第23回学術大会	東 京	2018. 9.14
<b>薬剤科</b>				
透析患者におけるデュラグルチド導入における使用調査	村田 衣梨	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
当院におけるAST活動について	丸岡 邦啓	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会	奈 良	2019. 1.20
<b>リハビリテーション科</b>				
若者の階段利用について	大林 達也	第3回HPHカンファレンス	東 京	2018.10.14
側方リーチにおける骨盤側方傾斜角と重心移動速度	中川 佳久	第6回日本運動器理学療法学会学術大会	福 岡	2018.12.16
<b>臨床工学科</b>				
On-line HDFと間歇補充型HDFを組み合わせた前希釈・後希釈条件別の臨床特性比較	宮野 伸也	第45回日本血液浄化技術学会学術集会	名古屋	2018. 4.20
IVUS画像評価におけるネガティブコントラストの有用性	林 直輝	第28回日本臨床工学会	横 浜	2018. 5.27
ME機器勉強会を継続的かつ効果的に行うための取り組み	河原 俊介	第28回日本臨床工学会	横 浜	2018. 5.27
On-line HDFと間歇補充型HDFを組み合わせた前希釈・後希釈条件別の臨床特性比較	宮野 伸也	第28回日本臨床工学会	横 浜	2018. 5.27
On-line HDFにおける膜面積増大によるTMP上昇緩和の効果	宮野 伸也	第63回日本透析医学会学術集会	神 戸	2018. 6.29
よりよい透析治療の処方をめざして 愛pod計画	植田 悠介	第63回日本透析医学会学術集会	神 戸	2018. 6.29
IVUS画像評価におけるネガティブコントラストの有用性	林 直輝	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2
体制変化によるDoor-to-balloon timeへの影響	野田 修司	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2
NVF-H性能評価(On-line HDF前希釈60L)	宮野 伸也	第91回大阪透析研究会	大 阪	2018. 9. 2
よりよい透析治療の処方をめざして 愛pod計画	宮野 伸也	第91回大阪透析研究会	大 阪	2018. 9. 2
皮膚冷却装置TP10と貼付用局所麻酔との疼痛緩和の比較	畑 尚登	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
前希釈On-line HDFにおけるPAESポリフラックス210Hヘモダイアフィルターの性能評価	宮野 伸也	第92回大阪透析研究会	大 阪	2019. 3. 3
<b>放射線科</b>				
院内ライブシステムの構築	向井亮太郎	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2
<b>栄養管理科</b>				
地域と共に HPH委員会の取り組み	古田 剛	日本在宅医学会第20回記念大会	東 京	2018. 4.30
災害備蓄食に関する職員への啓発 災害備蓄食の病棟配置・学習会を開催して	古田 剛	第22回日本病態栄養学会年次学術集会	横 浜	2019. 1.13
<b>看護部</b>				
緩和ケア病棟でのがん終末期における周術期口腔ケア	中瀬 由莉	第15回日本口腔ケア学会総会・学術大会	福 岡	2018. 4.29
手指衛生遵守向上に向けた多角的アプローチ	原之園美希	第7回日本感染管理ネットワーク学会学術集会	仙 台	2018. 5.26
指導士講習・試験(宿泊)	藤原千恵子	第24回日本心臓リハビリ学会学術集会	横 浜	2018. 7.16
救急症例検討会からの学び 救急隊と振り返る急性心筋梗塞	南 真吾	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2

演 題 名	演 者	学会・研究会名	開催地	開催年月日
合併症回避 コメディカルだからこそ防げる 合併症と向き合う	浜矢 早苗	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 2
合併症と向き合う	浜矢 早苗	第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	神 戸	2018. 8. 4
感染対策の取り組み	佐野 広美	第91回大阪透析研究会	大 阪	2018. 9. 2
笑いあふれる透析センター 透析教室を通して	植埜 正毅	第91回大阪透析研究会	大 阪	2018. 9. 2
未受診で経過した乳がん患者の1例	江口真知子	第31回サイコオンコロジー学会・多職種支援コースセミナー	金 沢	2018. 9.22
ANCA関連血管炎から透析導入しADL低した患者	藤本 優衣	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
元気あふれる透析センター 透析教室を通して	長田 宏美	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
笑いあふれる透析センター透析教室	長田 宏美	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
患者ファーストの導入期指導	内間 美和	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
抑制カンファ、はじめました	田中 華恵	救急医療研究会第4回学術交流集会inあおもり	弘 前	2018.11.10
チームで取り組むカテ室業改善	浜矢 早苗	第32回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	大 阪	2019. 2. 9
透析運動療法研究会と評価方法・SPPBを用いて	藤原 教子	第9回透析運動療法研究会	名古屋	2019. 2.10
急性期病院回復期リハビリテーション病棟における集団レクの取り組み	富永 和子	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会	千 葉	2019. 2.22
心臓リハチームの役割を考える	藤原千恵子	第4回日本心臓リハビリテーション学会	京 都	2019. 2.24
アウトブレイクの経験をどのように生かすか 2000年セラチア菌アウトブレイクの経験と現在	原之園美希	第34回日本環境感染学会総会・学術集会	神 戸	2019. 2.23
当院のVA管理の現状と課題 笑いあふれる穿刺を求めて	塩田由美子	第92回大阪透析研究会	大 阪	2019. 3. 3
<b>歯科口腔外科</b>				
当院緩和ケア病棟でのがん終末期における周術期口腔ケア	中瀬 由莉	第15回日本口腔ケア学会総会・学術大会	福 岡	2018. 4.29
<b>事務部</b>				
介護連携をすすめる会を実施して 地域の介護事業所と顔の見える連携	大平 路子	第20回日本医療マネジメント学会学術集会	札 幌	2018. 6. 8
次世代幹部研修への取り組みのゆくえ	柴田 康宏	第20回日本医療マネジメント学会学術集会	札 幌	2018. 6. 9
当院の倫理委員会の活動	大平 路子	第20回日本医療マネジメント学会学術集会	札 幌	2018. 6. 9
病院における音環境“創造のとりくみ 1st.ステップ”	滝沢 洋子	第20回日本医療マネジメント学会学術集会	札 幌	2018. 6. 9
安心・安全の医療を支えて	金城 良子	日本医師事務作業補助研究会第8回全国大会	広 島	2018. 9.16
多職種ワーキングチームによる電子カルテ重要度タイトル見直しの取り組み	福西 茂樹	第44回日本診療情報管理学会学術集会	新 潟	2018. 9.20
みみはらこどもプロジェクト～地域・行政と関わって	織原 花子	第3回HPHカンファレンス	東 京	2018.10.13
院内虐待防止対策委員会立ち上げに至る経過	牧 稚子	第24回日本子ども虐待防止学会学術集会	岡 山	2018.12. 1



## 2018年度 全日本民医連関連の発表

演 題 名	演 者	学会・研究会名	開催地	開催年月日
<b>診療科</b>				
絶対に断ってはいけない当直24時	1年目研修医	第17回全日本民医連臨床研修交流会	東京	2018.11.30
若年者の階段利用率(HPH)	重留 一貴	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
IPPNW北アジア大会 in モンゴル報告	平林 邦昭	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
当院における急性胆嚢炎治療と腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術手技	外山 和隆	第19回全日本民医連消化器研究会	北海道	2019. 3.16
憩室炎穿通によるS状結腸-小腸瘻・S状結腸-膀胱瘻に対し保存的に治療した1例	岩本 摩耶	第19回全日本民医連消化器研究会	北海道	2019. 3.16
憩室炎穿通によるS状結腸-膀胱瘻・小腸瘻に対し保存的に治療した1例	今井 稔	第19回全日本民医連消化器研究会	北海道	2019. 3.16
治療に難渋した重症潰瘍性大腸炎の1例	上角 亮介	第19回全日本民医連消化器研究会	北海道	2019. 3.16
イレウスを繰り返す重症心身障害者の消化管穿孔の1例	成田 亮紀	第19回全日本民医連消化器研究会	北海道	2019. 3.16
Diversion colitisによる菌血症を繰り返した1例	北川 綾美	第19回全日本民医連消化器研究会	北海道	2019. 3.16
C型肝炎治療中に臀部膿腫をきたした1型糖尿病の1例	川口 真弓	第35回全日本民医連糖尿病シンポジウムin新潟	新潟	2018.10.26
重症心身障害者のレスパイト入院(当院の3年間のまとめ)	藤井 建一	第16回全日本民医連小児医療研究発表会	福島	2018. 9.15
フィリピン国際医療ボランティア活動の報告	荻澤 良治	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
<b>薬剤科</b>				
薬剤師による吸入手技の統一と地域連携への貢献について	松葉 尚美	第43回全日本民医連呼吸器疾患研究会	札幌	2018.10.13
透析患者におけるデュラグルチド導入における使用調査	村田 衣梨	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖縄	2018.10.20
心不全治療に関わる薬剤師の役割	丸岡 邦啓	全日本民医連第35回循環器懇話会	福岡	2018.12.15
当院における直接経口抗凝固薬の使用状況	嶋野昌以子	全日本民医連第35回循環器懇話会	福岡	2018.12.15
吸入指導での地域連携について	上中 遥加	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
糖尿病教育入院における薬剤師の関わり	高橋 愛梨	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
病棟における薬剤師の取り組み ～疑義照会のまとめ～	西尾 祐規	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
透析患者のデュラグラチド導入における使用調査	村田 衣梨	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
当院における直接経口抗凝固薬(DOAC)の使用状況調査	嶋野昌以子	2019年学術運動交流集会	大阪	2019. 2.11
<b>リハビリテーション科</b>				
ALS患者の経口摂取をリハビリレベルから生活レベルへ～死んでもいいから食べたい～	加地 勇紀	全日本民医連第28回神経リハビリテーション研究会	大阪	2018.11.17
トイレ内での転倒に対して回復期病棟内での対策と効果	奥宮 裕樹	全日本民医連第28回神経リハビリテーション研究会	大阪	2018.11.17
当院回復期病棟における退院後調査を継続して	森田 優作	全日本民医連第28回神経リハビリテーション研究会	大阪	2018.11.17
看取り患者様に対する理学療法士としての役割	山本 佳穂	全日本民医連第28回神経リハビリテーション研究会	大阪	2018.11.17
離床センサーにスイッチを！「かえるコール」はじめました	一塚 拓男	全日本民医連第28回神経リハビリテーション研究会	大阪	2018.11.17
認知症患者の在宅復帰にむけ悩んだ1例	梅崎穂乃香	全日本民医連第28回神経リハビリテーション研究会	大阪	2018.11.17



演 題 名	演 者	学会・研究会名	開催地	開催年月日
急性心不全患者の離床プログラムパスの作成と取り組み	新井 志穂	全日本民医連第35回循環器懇話会	福 岡	2018.12.15
退院に向けて左上肢と心理面のケアを必要とした症例～他職種連携を通じた関わり～	山口 利哉	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
病的骨折を呈した緩和病棟患者の自宅退院に向けて	本岡 瑞彩	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
在宅復帰に向けて～回復期病棟からのチーム医療を考える～	永居 妙子	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
重度の異常感覚を呈した症例～自宅復帰に向けて～	成本 美優	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
ご家族と協力してリハビリを行い自宅退院出来た症例	丸山 雄志	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
低栄養高齢者において離床に難渋した1症例	吉井 翔吾	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
<b>臨床工学科</b>				
皮膚冷却装置TP10と貼付用局所麻酔との疼痛緩和の比較	畑 尚登	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
Final Check	増井 亮仁	全日本民医連第35回循環器懇話会	福 岡	2018.12.15
IVUSの可能性	赤間 創造	全日本民医連第35回循環器懇話会	福 岡	2018.12.15
ドア・ツー・バルーンの短縮 MEの試み	野田 修司	全日本民医連第35回循環器懇話会	福 岡	2018.12.15
Shock Watch ～振り返って～	増井 亮仁	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
臨床工学士によるDoor to Ballon Time短縮はできるのか？	野田 修司	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
OPE機器の中央管理を目指して	島田 俊亮	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
腹膜透析から血液透析へ移行し腎移植を考え中の患者に対してのプライマリー報告	平井 航輝	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
人工呼吸器V60用マスク AF541 Under-the noseを導入して	植田 悠介	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
人工呼吸器/呼吸療法の院内認定制度を導入して～課題と今後の展開～	河原 俊介	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
医療【危機】管理 ～Turn aroundから始めよう～	野田 修司	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
<b>放射線科</b>				
産婦人科領域のANGIO症例と当院での今後	向井亮太郎	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
当院における心臓CTの実績	向井亮太郎	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
心不全と胸部X線画像	楠本 卓哉	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
半年間で学んだこと	紀野本早咲	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
<b>栄養管理科</b>				
地域納涼祭における管理栄養士のアウトリーチ活動	古田 剛	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
<b>看護部</b>				
がん終末期患者と家族の予期悲嘆期での関わりを通して学んだこと	櫛野 実	第14回全日本民医連看護介護研究集会	仙 台	2018.10. 1
ANCA関連血管炎から透析導入しADL低した患者	藤本 優衣	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
元気あふれる透析センター 透析教室を通して	長田 宏美	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20

演 題 名	演 者	学会・研究会名	開催地	開催年月日
笑いあふれる透析センター透析教室	長田 宏美	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
患者ファーストの導入期指導	内間 美和	第42回全国腎疾患管理懇話会	沖 縄	2018.10.20
糖尿病診療の「今」を知る	浅井 仁美	第35回全日本民医連 糖尿病シンポジウム	新 潟	2018.10.27
PVI業務での業務期改善とコスト削減	伊藤由布子	全日本民医連第35回循環器懇話会	福 岡	2018.12.15
心臓血管特診始めました	濱邊三紀子	全日本民医連第35回循環器懇話会	福 岡	2018.12.15
耳原まんまの会へようこそ	中尾 宏美	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
話し合おう！リハビリテーション！	杉本 祐太	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
褥瘡患者の看護について	井上 佳奈	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
褥瘡を予防するために～病棟での取り組み～	佐藤 捺美	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
手術患者を待つ家族の不安軽減～術中訪問の取り組み	阪口 綾	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
HCUでのせん妄予防の取り組み	甘田 晃士	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
周産期支援センター～アジャストナースの取り組み～	磯尾 恭子	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
患者ファーストの指導を目指して	門通 翔子	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
透析導入に不安がある患者への関わりについて	山本 翔平	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
手術室ホスピタルアートによる、患者の不安軽減を	瀬戸 寛明	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
ターミナル期の癌患者の希望に沿う看護	溝根 隆司	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
入院中に心不全増悪をした患者の家族との関わりで学んだこと	中根愛希乃	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
患者から学んだチーム医療の大切さ	東浦 里紗	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
ほんとうに軽症？患者の訴えの中に隠れた急性大動脈解離～トリアージの大切さ～	北山 容基	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
回復期リハビリ病棟での認知症グループでの取り組み	盛 功美	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
右中大脳動脈領域に広範囲な脳梗塞を起こした患者の意識レベル改善に向けた関わりの中で学んだこと	桂川 透	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
かぐやで安心できるAPD治療を目指して～初めての感染管理～	藤川 夏海	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
<b>事務部</b>				
病院保健師における役割の探求～2年間を振り返って～	岡本優美子	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
未来へつなぐ～民医連の職員として、私が目指すこと～	金城 良子	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
「夜間せん妄」見守り対応 管理宿直者の苦悩と課題	滝澤 洋子	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
CS委員会の取り組み	山北 祥予	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
耳原の後期研修医対策の現状と事務配置の課題	吉本 和人	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
次世代プロジェクトの取り組み～10年後の幹部育成を目指して～	柴田 康宏	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
あっちこっちで二人主治医制～地域連携からのレビュー～	谷藤まどか	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11
生まれ変わった広報の歩み	里崎 桂	2019年学術運動交流集会	大 阪	2019. 2.11

## 2018年度 学術講演・セミナーなど

講演会などの名称	テ ー マ	講師	開催地	開催年月日
総合診療スキルアップセミナー	「身体診察」	藤本 卓司	東 京	2018. 5.27
第288回堺市医師会小児科医師学術講演会	「チアマゾールによる無顆粒球症の発症したバセドウ病の女兒例」	瀬戸 司	堺 市	2018. 6. 2
第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 インタラクティブセッション3	「みんなで支え合う救急外来のLIFE SUPPORT」	大矢 亮	三 重	2018. 6.16
川崎病既往児のための生活管理講習会	川崎病について	藤井 建一	堺 市	2018. 7.21
第30回学生・研修医のための家庭医療夏季セミナー(WS)	患者さんの「困った」に多職種でアプローチしよう～「健康の社会的決定要因」を活用した問題解決の方法～	大矢 亮	静 岡	2018. 8. 4
尊厳死協会関西支部大阪市民公開講座(パネラー)	「平穏死できない現実」	大矢 亮	当 院	2018. 8.11
第71回大阪府泉南地区 細菌検査技師勉強会	臨床と細菌検査室の密な連携が寄与したケースファイル	河村 裕美	大 阪	2018. 9. 8
地域医療連携をすすめる会	「身体診察の活かし方～紹介いただいた症例から～」	藤本 卓司	当 院	2018. 9.15
第16回日本プライマリ・ケア連合学会秋季セミナー(WS)	「やさしい日本語」	大矢 亮	大 阪	2018. 9.15
薬剤師・検査技師のための第4回南大阪ASTセミナー	「ASTコンサルテーション：よくある相談10」	藤本 卓司	堺 市	2018.10. 6
第3回日本HPHネットワークカンファレンス(WS)	「経済的支援ツール」	大矢 亮	東 京	2018.10.13
特定行為研修教育課程講義(大阪府看護協会)	「Clostridium difficile感染症」	藤本 卓司	大 阪	2018.10.24
特定行為研修教育課程講義(大阪府看護協会)	「皮膚軟部組織感染症」	藤本 卓司	大 阪	2018.10.24
特定行為研修教育課程講義(大阪府看護協会)	「髄膜炎」	藤本 卓司	大 阪	2018.10.24
東京都病院薬剤師会主催「基本を学ぼう！感染制御と感染症治療」	「抗菌薬の選択～AST薬剤師が受けるよくある質問(FAQ)」	藤本 卓司	東 京	2018.10.28
全日本病院協会総合医育成プログラム「病院総合医のためのリハビリテーション」	COPDとリハビリテーション栄養	河村 裕美	東 京	2019. 2. 3
第14回日本プライマリ・ケア学会若手医師のための家庭医療学冬季セミナー(WS)	「SDHと社会的処方」	大矢 亮	東 京	2019. 2. 9
第4回J-HPHスプリングセミナー(WS)	「経済的支援ツール」	大矢 亮	東 京	2019. 3. 9
浅香山病院内感染対策研修会	「遵守しよう！標準予防策～求められるルーティーン～」	藤本 卓司	堺 市	2019. 3.22

## 関連取材記事等

掲載日	媒体名	著者	タイトル
2018年			
4月1日	読売新聞	取材記事 向山由美子 (看護師サポートセンター)	介護のいろは④ 退院後の支援について
6月号	週刊医学のあゆみ vol.265 No.4	取材記事 亀谷佳保里 (きららデンタルクリニック 歯科医師)	病院建築への誘い—医療者と病院建築のかかわりを考える 特別編「ホスピタルアート」を考える
2019年			
1月号	望楼(堺市消防局発行)	取材記事 瀧川 美保(看護師)	堺消防署長から“勇敢かつ的確な活動に感謝状贈呈”
3月号	広島国際大学医療経営学 論叢 第12巻	取材記事 早川佐知子(明治大学講師)	現在日本におけるホスピタルアートの意義に関する考察—J. デューイの美学理論をもとに—



## 発刊にあたって

新病院に移った2015年度の「年報」以来、編集後記では毎年、大変な一年でした、と締めくくることが常套句になってしまいましたが、2018年度もやはりこれまでと同じく“大変な一年”でした。

まずは新年度になって早々、「総合入院体制加算」の算定に向けた外来選定療養費への対応の準備を病院挙げて、また、法人や友の会も巻き込んで取り組みました。その後6月には地震、9月にはかつて経験したことのないような強い台風の被害と自然災害が続きました。これも職員全体の一致団結で無事に乗り切り、医療を継続させました。その同じ時期に、「JCEP(臨床研修評価機構)」、「病院機能評価」という2つの第三者評価の更新審査を迎え、全部署挙げて取り組んだ結果、無事に審査を終えるだけでなく、病院機能評価では「S(優)」評価を11項目もいただけるという素晴らしい結果となりました。そして、2018年度は、4年連続で予算達成を果たすだけでなく、新病院では初めてとなる年間での黒字確保という結果を残しました。

2018年度のいくつもの成果は、病院がこの地域で果たす役割・機能が何であるかをきちんと見定めて、そこに向けて取り組んできたことが着実に成果につながったものです。無差別・平等の立場で急性期医療を提供する、「断らないER」を実践して医療難民を出さず地域のトリアージ機能を果たす、地域とともに歩む専門職の育成など、です。このことが経営的な成果にもつながりました。

“大変な2018年度”が終わり、新たな年度が既に始まっています。今年度もこれまでと同じく恐らくは“大変な一年”になることでしょう。しかし、地域の医療ニーズに応じて、この地域で継続・発展していくため、引き続き、医療の質も、組織の質も、経営の質も高めていけるよう、皆さんで頑張っていきましょう。

2019年 8月

事務長 森 高志

耳原総合病院活動報告 2018年度

---

発行 2019年 8月

発行者 社会医療法人 同仁会 耳原総合病院

事務長 森 高志

住所 〒590-8505 大阪府堺市堺区協和町4丁465

TEL 072-241-0501 FAX 072-244-3577

---

表紙デザイン：室野愛子ホスピタルアートディレクター  
(当院所属)